

維管束植物 <シダ植物 ゼンマイ科>

ヤマドリゼンマイ *Osmunda cinnamomea* L.**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、
県内分布 1、総点 14。通常は温帯域の湿地に生育する植物で、名
古屋市では生育地が極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧IB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

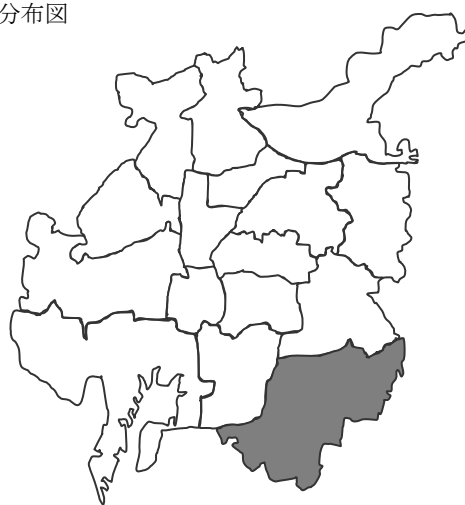
【形態】

夏緑性のシダ植物。根茎は短く、匍匐または斜上し、葉を束生する。葉は二形性、栄養葉は長さ
10～30cmの柄があり、葉身は卵状披針形、長さ30～80cm、幅15～25cm、黄緑色で2回羽状深裂
し、若芽は赤褐色の綿毛に被われるが後に無毛となる。孢子葉は春早く、栄養葉より先に伸び、栄
養葉より丈が低く、羽片は羽軸に接してつき、孢子が散った後に赤褐色となる。

【分布の概要】**【市内の分布】**

緑区(鳴海滝ノ水、渡邊幸子 2619, 1996-5-1,
NBC828) に生育している。

市内分布図

**【県内の分布】**

東三河、西三河には点在する。尾張では少
なく、名古屋市のほか瀬戸尾張旭、犬山、小
牧、春日井で確認されている。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州（屋久島まで）。

【世界の分布】

東アジアと北アメリカの温帯域に広く分布
する。

【生育地の環境／生態的特性】

愛知県の丘陵地では、湧水湿地周辺の林縁部に生育することが多い。本州中部以北の山地では、
湿原の日当たりのよい場所にしばしば大きな群落をつくる。

【現在の生育状況／減少の要因】

狭い範囲に、数株が生育している。緑地として保全されている場所であるため、2013年の時点では生育状況に大きな変化はない。

【保全上の留意点】

湿地性の植物なので、生育地だけ残されても水源部がなくなれば生育できなくなる。水源部を含
めた丘陵地の保全が必要である。

【特記事項】

和名は山鳥ゼンマイの意味で、ヤマドリのすむようなところに生えるからだと言われる。森林公
園の尾張旭市側には生育しているので、注意して探索すれば守山区でも発見される可能性がある。

【関連文献】

保シダ p.35、平シダ p.73。

倉田 悟・中池敏之(編). 1985. 日本のシダ植物図鑑 6:340-354. 東京大学出版会, 東京。

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <シダ植物 コバノイシカグマ科>

イシカグマ *Microlepia strigosa* (Thunb.) C.Presl

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、
県内分布 3、総点 14。暖地性の植物で、名古屋市は分布域の北限
に近い。市内では生育地が極めて少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	リスト外

【形態】

常緑性のシダ植物。根茎は長く匍匐し、黄褐色で長さ 2mm 程度の硬毛が密生する。葉柄は長さ 30～60cm、葉身は卵状長楕円形～広披針形で 2 回羽状複生し、長さ 20～80cm、幅 20～35cm、先端は鋭尖頭になる。羽片は 20 対をこえることがあり、大きいものは長さ 20cm、幅 4cm に達し、先端は尾状にのびる。下部の羽片は多少短くなる。羽軸の表面は無毛で、裏面には短毛が密生する。孢子のう群は葉縁に接してつく。

【分布の概要】

【市内の分布】

緑区（大高町西丸根、堀田喜久 5499, 1996-9-14）に生育していた。

【県内の分布】

愛知県では生育地も個体数も少ない植物で、名古屋市のほか蒲郡、太原東部、田原西部、常滑で確認されている。美浜南知多で採集された標本もあるが、ここでは最近の状況が確認されていない。

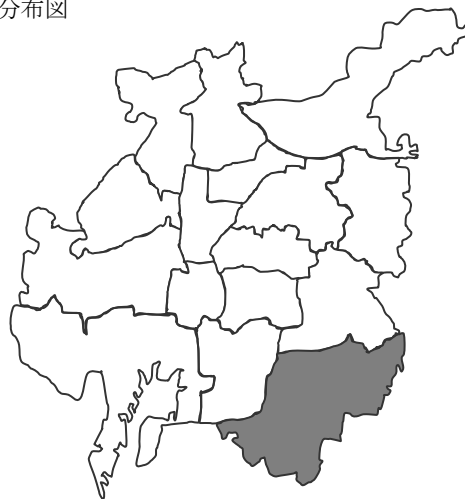
【国内の分布】

本州（千葉県南部、伊豆諸島、伊豆半島から西の海岸沿い）、四国、九州、琉球、小笠原に生育する。紀伊半島南部まで行けば、普通に見られる種類である。

【世界の分布】

ヒマラヤ、スリランカからポリネシアにかけての熱帯・亜熱帯に広く分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸近くの林内や林縁に群生し、時には石垣の間などにも生育している。名古屋市の生育地も住宅地近くのやぶで、特に自然度が高い場所というわけではない。

【現在の生育状況／減少の要因】

小群落になって生育していた。最近の状況は確認していないが、生育地が現状どおり維持されれば今後も存続すると思われる。

【保全上の留意点】

一般的には潜在的生育地である海岸近くの丘陵地の自然を全体として保全することが重要であるが、名古屋市の場合は生育地の個別的な保全を考慮すべきである。

【特記事項】

石垣や石ころだらけの所に生えるから、イシカグマという。「カグマ」はシダ類の古名である。

【関連文献】

保シダ p.50, 平シダ p.103, 愛知県 p.506.
倉田 悟・中池敏之（編）. 1979. 日本のシダ植物図鑑 1:170-178. 東京大学出版会, 東京.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 シシガシラ科>

コモチシダ *Woodwardia orientalis* Sw.**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 14。名古屋市では生育地も個体数もきわめて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧IB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

常緑性のシダ植物。根茎は太くて短くはい、葉を束生する。根茎と葉柄の基部には、披針形、長さ2～3cm、膜質で褐色の鱗片を密生する。葉柄は長さ30～60cm、葉身は狭卵形～広卵形で2回羽状中裂～ほぼ全裂、長さ30～200cm、厚い革質である。裂片は長三角形で鋭頭、辺縁に鋸歯がある。葉の表面に楕円形の無性芽をたくさんつけることが多い。胞子のう群は羽軸や小羽軸に沿ってならび、狭長楕円形で長さ2～5mm、宿存性の厚い包膜に包まれる。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（竜泉寺、日比野修 4684, 1998-10-31）に生育していた。

【県内の分布】

東三河南部には比較的多いが、他では少ない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、半田武豊、常滑、美浜南知多に生育している。

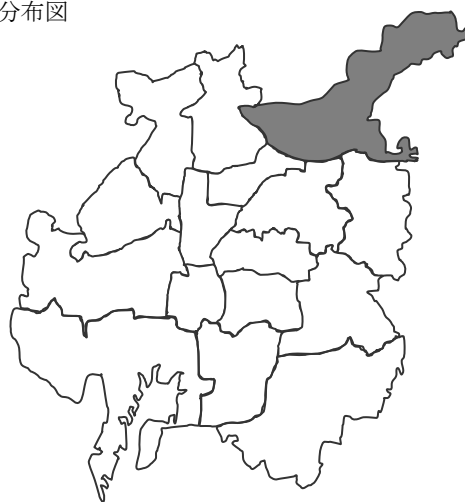
【国内の分布】

本州（東北地方南部以南）、四国、九州に分布する。国内の南限は屋久島である。変種のハチジョウカグマ *var. formosana* Rosenst. は、本州（関東地方南部）、四国、九州、琉球、小笠原に分布する。

【世界の分布】

日本、中国大陸。種としては日本、フィリピンからヒマラヤまで分布する。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

主に山麓や海岸近くの丘陵地などに生育し、崖地から大きな葉を下垂させることが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

竜泉寺には複数の群落があったが、道路の拡幅工事等により生育地が削られ、ほとんど消滅してしまった。最近の状況は確認されておらず、個体数は見込み値である。

【保全上の留意点】

生育地の崖地を保全することが必要である。

【特記事項】

和名は子持ちシダで、葉の表面に多数の無性芽をつけることに由来する。

【関連文献】

保シダ p.144, 平シダ p.157.

倉田 悟・中池敏之（編）. 1985. 日本のシダ植物図鑑 5:718-731. 東京大学出版会, 東京.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 初期分岐群 ウマノスズクサ科>

オオバウマノスズクサ *Aristolochia kaempferi* Willd.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 3、総点 15。林地に生育する植物で、名古屋市では減
少傾向が著しい。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【形態】

高さ数 m になる木質のつる植物。若い茎は軟毛を密生する。葉は互生し、長さ 3~5cm の柄がある。葉身は卵状心形~三角状心形、長さ 6~14cm、幅 5~13cm、先端は鋭頭~縁頭、辺縁は全縁、裏面には密に斜上する短毛がある。幼株の葉身はしばしば細長くなり、基部両側に丸い耳状の裂片がつく。花期は 4 月下旬~6 月上旬、花は葉腋に 1 個つき、長さ 2~3.5cm の柄があり、がく筒は基部で下を向き、途中で強く曲がって上を向き、舷部は円形に広がって直径 2cm 程度になり、筒部内壁と舷部の脈は暗紫褐色になる。果実は長さ 5cm 程度の長楕円形で、6 本の稜がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷、鳥居ちゑ子 3223、
2013-6-11；吉根太鼓ヶ根、芹沢 77228、
2001-4-28）に生育している。

【県内の分布】

尾張部の丘陵地に分布しており、名古屋市のほか瀬戸尾張旭、長久手日進、小牧の 3 区画で確認されている。

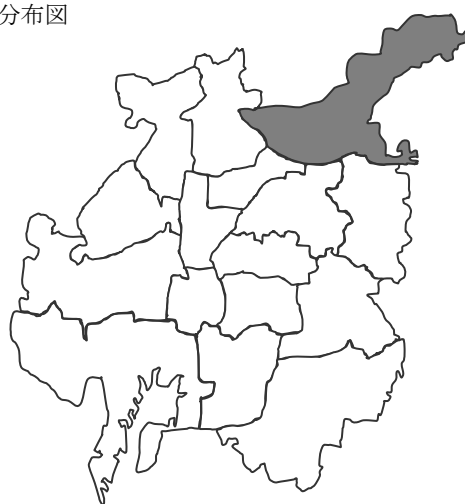
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の林縁、明るい林内などに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区吉根には大きな群落があったが、土地造成により生育地の丘陵が破壊され、消滅した。幼株はまだ区内のところどころで見かけるが、開花するような株はほとんど残存していない。

【保全上の留意点】

名古屋市内では、本種が生育できる丘陵地そのものが激減している。丘陵地の地形を保全する必要がある。

【特記事項】

若い株の葉は側裂片が耳状になり、ホソバウマノスズクサと誤認されることがある。従来愛知県でオオバウマノスズクサとされてきた植物は、大部分が変種のタンザワウマノスズクサ var. *tanzawana* Kigawa にあたる。タンザワウマノスズクサは、葉裏の毛が開出し、がく筒内壁に多くの紫点があることでオオバウマノスズクサから区別される。

【関連文献】

保草Ⅱp.318, 平草Ⅱpp.102-103.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 シバナ科>

シバナ *Triglochin maritimum* L.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、
県内分布 2、総点 15。特に西日本で減少傾向の著しい塩湿地性の
植物で、名古屋市では生育できる場所が限られている。

名古屋市2015	絶滅危惧IB類
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

多年生草本。地下茎は太く、横にはい、よく分枝して株になる。葉は束生し、細い線形、長さ 10～40cm、幅 1.5～5mm、断面は半月形、先端は鈍頭、下部は葉鞘となる。葉鞘は白色で、先端に長さ 3～5mm の葉舌がある。花期は 9～10 月、花茎は高さ 15～50cm で直立し、その上部の長さ 5～15cm の総状花序に、多数の花をつける。花には花時に長さ 1.5～2mm、果時に長さ 2.5～5mm の柄があり、花被片は 6 枚、黄緑色、楕円形で長さ約 2.5mm、雄ずいと心皮も 6 個である。果実は 6 心皮が集まって長楕円形となり、長さ 3.5～4.4mm、先端に柱頭が残存する。

【分布の概要】

【市内の分布】

港区（当知町庄内川河川敷、芹沢 77749, 2001-10-23）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊橋南部、田原東部、田原西部、西尾北部、西尾南部、大府東浦、東海知多の 7 区画で確認されている。常滑で採集された標本もある。三河湾では比較的多く、中にはかなり大きい群落もある。伊勢湾愛知県側では、名古屋市のほかには知多市の「よくもこんなところに…」と思うほどの埋め立て地の水路に小群落があるだけである。

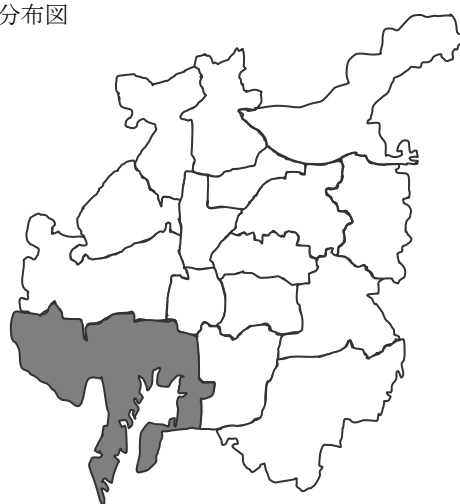
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。北日本のものは、マルミノシバナとして区別されることがある。

【世界の分布】

北半球に広く分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

河口や干潟などの塩湿地に生育する。自然度の高い塩湿地だけでなく、護岸堤防のすき間、埋め立て地の水路など、攪乱された場所に大きい群落を作っている場合もある。

【現在の生育状況／減少の要因】

生育している場所は、かなり狭い範囲に限られている。ごく最近の状況は確認していないが、当面は存続すると思われる。しかし、存続の基盤は脆弱である。

【保全上の留意点】

本種は塩湿地性植物の中ではやや攪乱された場所にも生育するが、本来の生育地が失われているという状況は、より自然度の高い場所だけに生育する種と同様である。

【特記事項】

和名は、「塩場菜」という意味で、「芝菜」ではないと言われている。

【関連文献】

保草Ⅲp.405, 平草Ⅰp.9, SOS 旧版 p.90, 環境庁 p.561, SOS 新版 p.155, 愛知県 p.594.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ヒルムシロ科>

ヒルムシロ *Potamogeton distinctus* A.Benn.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 14。水田や浅い丘陵地のため池に多い水草で、
名古屋市では生育地が少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生の水草。池下茎は泥中をはい、1節おきに根と水中茎を出す。水中茎は水田に生育するものでは短い、ため池に生育するものでは長さ1m以上になる。沈水葉には明瞭な葉柄があり、葉身は披針形、先端は鋭尖頭。水上葉は長さ5~20cmの柄があり、葉身は長楕円形、長さ5~10cm、幅2~4cm、表面は光沢のある緑色、裏面は黄緑色である。花期は6~10月、浮水葉の腋から柄をのばし、その先に長さ2.5~5cmの穂状花序をつける。水の引いた池や落水後の水田では陸生形となる。地下茎の先端または節の部分にバナナの房状の殖芽を形成して冬を越す。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味大久手池、鳥居ちゑ子 2654, 2008-8-26; 大森八龍雨池、中村 肇 731, 2014-10-25, NBC1338）に生育している。
名東区（猪高緑地スリ鉢池、芹沢 77438, 2001-6-9 など）、緑区（鳴海町螺貝戸笠公園、太田美根子 1, 1994-6-20）にも生育していた。

【県内の分布】

山間部から平野部にかけて点在しているが、近年減少傾向が著しい。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、大府東浦、東海知多、犬山、春日井、一宮西部で確認されている。

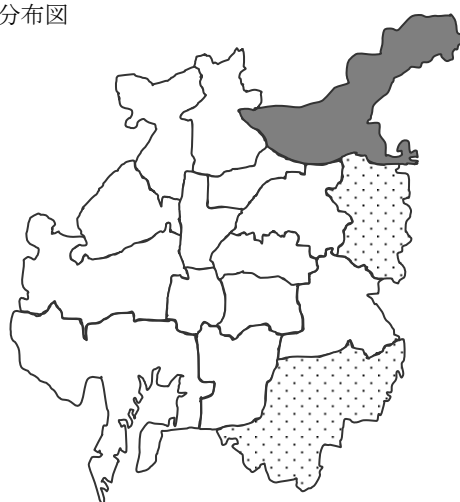
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湖沼やため池、河川、水路、水田などに生育する浮葉植物。他のヒルムシロ類と異なり水田にも生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

緑区では戸笠公園の小池に群生していたが、その場所が体験農場らしい水田にされ、消滅した。戸笠公園の事例は、緑地公園の中で未整備のまま一般市民が利用しにくい状態になっている場所が、実は野生生物にとって残された最後の砦になっていることを示している。管理担当者も一般市民も、そのような場所が決して「未利用の、無駄な場所」でないことを、はっきり意識する必要がある。また他の場所においても、公園整備等により激減している。

【保全上の留意点】

現存する自生地については、生育地の水質を保全することが必要である。

【特記事項】

山間部のため池に多いフトヒルムシロ *P. fryeri* A.Benn.と異なり、近年の減少傾向は著しい。

【関連文献】

保草Ⅲpp.412-413, 平草Ⅰp.10, 愛知県p.595.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.33. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.113. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 中村 肇)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ユリ科>

ササユリ *Lilium japonicum* Thunb.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 4、
県内分布 1、総点 14。淡紅色の大きい花をつけるユリで、園芸目
的の採取により激減している。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。地下に卵形～広卵形で直径2～4cmの鱗茎がある。茎はやや斜めに伸び、分枝せず、
高さ50～100cmになる。葉は互生し、比較的少数、長さ4～10mmの柄があり、葉身は披針形、と
きに多少鎌形になり、長さ8～23cm、先端は鋭尖頭である。花期は6～7月、花は茎の先端に1～数
個が横向きにつき、漏斗形、淡紅色またはほとんど白色、花被片は6枚、外片は披針形、内片は長
楕円形で長さ10～15cm、先端はやや反りかえる。蒴果は倒卵形、長さ3～4cmである。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（標本なし）、千種区（平和公園、鳥
居ちゑ子 397, 1993-6-13）、名東区（標本なし）、
天白区（八事裏山、渡邊幸子 2594, 1996-4-25）
などに生育していたが、最近はほとんど見か
けない。

【県内の分布】

個体数はそれほど多くないが、山地から丘
陵地まで、広い範囲に生育している。尾張で
は名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、
半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、小牧、
春日井に生育している。

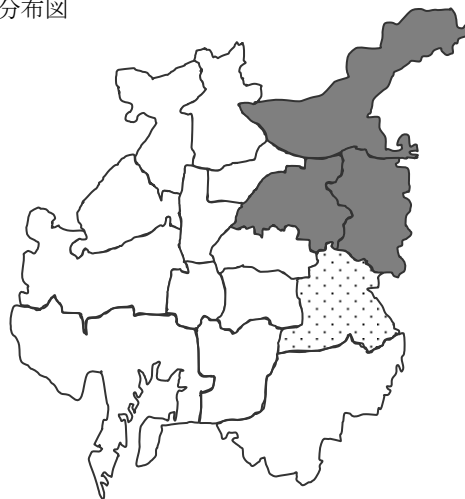
【国内の分布】

本州（中部地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の林縁や明るい林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

何ヶ所かで確認しているが、どの場所でも個体数は少なかった。花が目立つため、園芸目的で持
ち去られることが多い。ササ類などの繁茂により、被陰されて衰退している場合もある。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取については、基本的には公共の資産である自然物を個人の庭に取り込もうという
山草愛好家のモラルが問題である。周囲の市民が山草栽培に厳しい目を向け、「自然の植物は自然
の中で」というルールを徹底させていくことが必要である。

一方里山の保全については、林床状態の維持が重要である。経済的必然性がなくなった現在では
市民参加の里山保全活動を行うことも考えられるが、その場合は林床の踏み荒らしを極力避けると
共に、たとえ隣接した場所からであっても植物を持ち込まないよう、特に注意する必要がある。自
然には自然の回復力がある。植物が生育できる条件を整えたら、あとはその植物が自分の力で存続
するのを見守るべきである。

【特記事項】

和名は、葉の形がササに似ているからである。

【関連文献】

保草Ⅲp.129, 平草Ⅰp.41.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ラン科>

サイハイラン *Cremastra appendiculata* (D.Don) Makino

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 15。やや山地性の植物で、名古屋市では生育
地が少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧IB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。偽球茎は卵形、長さ2~3cm、通常1葉を頂生する。葉は5~18cmの柄があり、葉身は長楕円形、長さ25~40cm、先端は鋭尖頭、薄い革質で無毛である。花期は5~6月、花茎は直立し、高さ30~50cm、基部は鞘状葉につつまれる。花は花茎の上部にやや密に10~20個つき、紅紫色を帯びた淡緑褐色、下向きに垂れる。苞は線状披針形、長さ約7mm、鋭尖頭である。がく片や側花弁は線状披針形、長さ3~3.5cm、幅4~5mm、唇弁は長さ3cmで、基部が少しふくらみ、上端付近で3裂し、側裂片は披針形、中裂片は長楕円形である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根、標本なし）、名東区（上社、半田多美子 1552, 1994-5-17）に生育していた。

【県内の分布】

低山地を中心に点在するが、それほど多いものではない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、美浜南知多、犬山、小牧、春日井で確認されている。

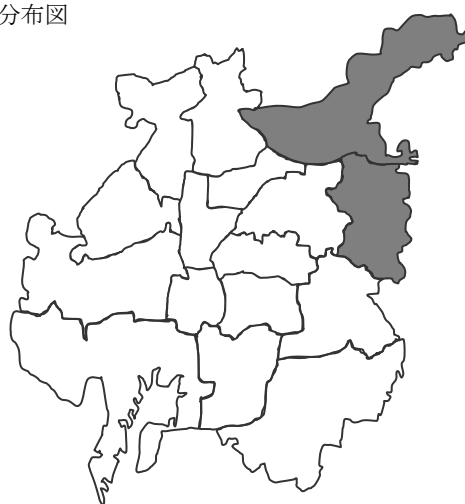
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

千島列島南部からヒマラヤまで分布している。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いのやや湿った林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

レッドデータブックなごや初版を発行した2004年当時は2ヶ所の林内にそれぞれ2~3株が生育していた。その後確認できないが、もともと生育密度が極めて低かったので、どこかに残存している可能性はある。個体数、集団数は見込み値である。1975年頃まではところどころにあったらしい。

【保全上の留意点】

生育地の丘陵の地形を保全することが必要である。また林床性の植物なので、本種に関しては森林の伐採を避ける必要がある。

【特記事項】

和名は、花序の状態が采配に似ているからである。

【関連文献】

保草Ⅲp.57, 平草Ⅰp.227.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ラン科>

カキラン *Epipactis thunbergii* A.Gray

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 14。湿地性の植物で、名古屋市ではかつては点在していたが激減し、現在ではわずかに残存しているにすぎない。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。地下茎は横にはう。地上茎は高さ 35～85cm になり、平滑で、基部はやや紫色を帯び、3～4 個の鞘状葉がある。葉は 5～10 枚が互生し、狭楕円形～広披針形、大きいものは長さ 8～14cm、先端は鋭尖頭、基部は茎を抱いて短い鞘になり、縦脈が目立つ。花期は 6～7 月、花は茎の上部に 5～15 個つき、黄褐色の花をつける。がく片は狭長卵形、長さ 12～15mm、鋭頭、側花弁は卵形、がく片とほぼ同長で、鈍頭である。唇弁は側花弁と同長で、内面には紅紫色の斑があり、関節によって上下 2 唇にわかれ、上唇は広卵形で基部に 3 隆条があり、下唇は倒心形である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（芹沢 84170, 2009-6-9）に生育している。緑区（滝の水湿地、浜島繁隆 s.n., 1971-6-20）で採集された標本もある。

【県内の分布】

丘陵地～山地の湿地に広く分布し、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、常滑、美浜南知多、犬山、小牧、春日井で確認されている。

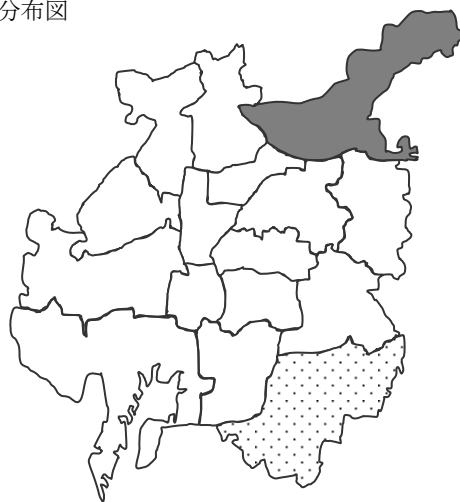
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、ウスリ一。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

泥質の湿地の林縁などに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では以前はそれほど少ない植物ではなかったが、湿地の消失や園芸目的の採取により、ほとんど消滅してしまった。現在では 1 ヶ所にややまとまった群落が残存しているのを確認できただけである。緑区では、生育地が宅地造成のため破壊され、絶滅した。

【保全上の留意点】

生育地の湿地を、水源部まで含めて保全することが必要である。園芸目的の採取や観察者・カメラマンによる踏み荒らしを防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。名古屋市産の植物の彩色画は、2004 年版図版 12 に掲載されている。

【関連文献】

保草Ⅲpp.30-31, 平草Ⅰp.208.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ラン科>

クロヤツシロラン *Gastrodia pubilabiata* Y.Sawa

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

生育環境階級 2、人為圧階級 3、県内分布 2。里山に生育する腐生植物で、名古屋市では生育地がきわめて少ない。現存は確認できないが、愛知県では増加傾向にある植物でそのうちどこかで再発見される可能性が高いことを考慮し、絶滅危惧ⅠB類と評価した。

【形態】

腐生の多年生草本。根茎は長さ2.5～4cm、直径4～10mmの紡錘状の塊茎になる。地上茎は根茎の先端から1本出て、高さ2～5cm、3～4個の膜質の鱗片葉をつける。花期は9～10月、茎の先端部に黒褐色の花を3～8個、密な総状花序につける。苞は卵形、長さ3～6mmである。花は3がく片が合着して長さ約1cmの鐘状になり、口部は3裂し、裂片の内側に小さい2個の側花弁がある。唇弁は上面に黄白色の毛が密生する。花柄は花時には長さ約1cmであるが、花後著しく伸長して20～40cmに達する。果実は細長い楕円形、長さ1.8～3cm、直径5～7mm、黒褐色である。

【分布の概要】

【市内の分布】

名東区（猪高緑地、鳥居ちゑ子 2046, 2001-10-23）、天白区（平針黒石、中島ひろみ 375, 1993-11-25）で採集された標本がある。

【県内の分布】

名古屋市のほか、鳳来北東部、新城、豊川、蒲郡、豊橋南部、田原東部、豊田東部、岡崎北部、西尾南部、瀬戸尾張旭などで生育が確認されている。

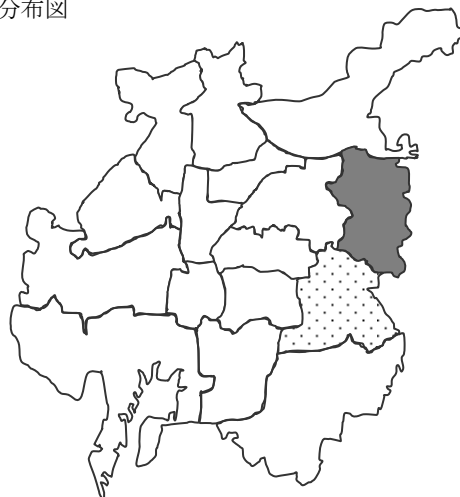
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の竹林、二次林、スギ造林地内などに生育する。名古屋市の生育地は竹林であった。

【現在の生育状況／減少の要因】

猪高緑地では1ヶ所に小群落があり、多い年には30株くらい開花していたが、最近では確認できない。タケノコ掘り、自然薯掘りの人が多数立ち入るため、踏み荒らしや掘り返しにより消滅した可能性がある。平針黒石にも小群落があったが、竹が切られて乾燥化が進み、見られなくなった。

【保全上の留意点】

竹林の繁茂は丘陵地の生物多様性に対する大きな脅威である（イナカギクの項参照）が、本種に限定すれば生育地の竹林を保全することが必要である。自然とのふれあい活動を楽しむ人、あるいは写真撮影などに訪れる人による踏みつけも懸念される。

【特記事項】

地表近くに黒褐色の花をつけるため、花時にはほとんど発見できない植物である。本種の主要生育地である里山は、開発圧力は高いが、開発されないところでは急速に森林化が進んでいる。竹林の増加も、本種だけのことを考えればむしろ好都合である。そのため本種は全国的にもやや増加傾向にあるように思われ、全国で絶滅危惧ⅠB類という評価はどう見ても過大である。

【関連文献】

SOS 旧版 p.111, 環境庁 p.403.

（執筆 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ラン科>

ミヤマウズラ *Goodyera schlechtendaliana* Rehb.f.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 14。やや山地性の植物で、名古屋市では生育
地が少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎の下部は匍匐し、上部は直立して高さ 12~25cm となる。葉は茎の下部に数個が互生し、長さ 1~2cm の柄があり、葉身は卵形、長さ 2~4cm、先端は鋭頭、質はやや厚く、通常白色の網斑がある。花期は 8~9 月、花は茎の上部に 7~12 個つき、一方を向いて並び、ほとんど白色、苞は披針形、長さ 5~12mm である。がく片は狭卵形、鈍頭、側花弁は広倒披針形、がく片よりやや長く、先端内側に黄褐色の小班がある。唇弁はがく片と同長で、基部はふくらむ。葉に白斑がないものをアオミヤマウズラ form. *similis* Makino という。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山、日比野修 4595, 4596, 1998-7-23）に生育している。4596 はアオミヤマウズラの型である。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地にはやや普通に見られる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井で確認されている。

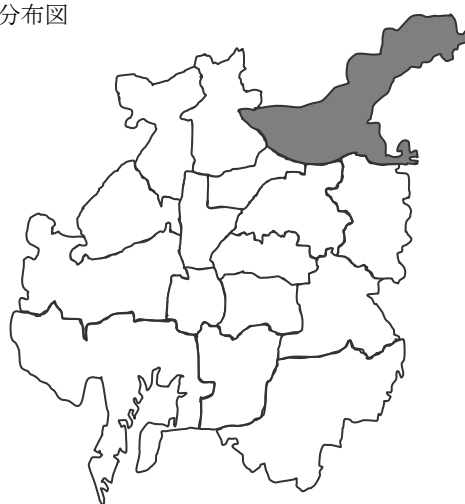
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球（奄美大島）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。散在することが多く、大きな群落は作らない。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では 2 ヶ所で確認されているが、どちらも個体数は少ない。

【保全上の留意点】

丘陵地の地形を保全することが必要である。

【特記事項】

「こんな種類が？」と思われる絶滅危惧種の 1 例である。名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られる植物もしばしば産量が少なく、存続の基盤が脆弱である。特にラン科植物は個体数の少ないものが多く、ネジバナ以外はすべて絶滅危惧と言ってもよいほどである。

【関連文献】

保草Ⅲp.41, 平草Ⅰp.213.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ラン科>

ムヨウラン *Lecanorchis japonica* Blume

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、
県内分布 2、総点 14。腐生植物で、名古屋市では生育地がきわ
めて少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧IB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

腐生の多年生草本。地下茎は長さ 5～15cm、木質で硬く、はじめ下を向き、すぐ反転して屈曲しながらまばらに分枝し、地表近くまで伸びる。地上茎は直立し、高さ 20～50cm、淡褐色、3～7 個の鱗片葉を互生する。鱗片葉は長さ 7～15mm、先端は鋭頭である。花期は 5～6 月、花は茎の上部にややまばらに 4～10 個つき、長さ 6～15cm の総状花序となり、淡褐色で平開し、苞は三角形、長さ 3～7mm である。がく片と側花弁はほぼ同形、倒披針形で長さ 17～25mm、唇弁も倒披針形で長さ 15～20mm である。ずい柱側部の小突起はない。果実は線状楕円形で長さ 3～4cm、茎とともに乾くと黒色になる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山、飯尾俊介 s.n.,
2003-6-4）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊根東部、豊根西部、鳳来北東部、藤岡、豊田東部、豊田北西部、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井などで確認されている。

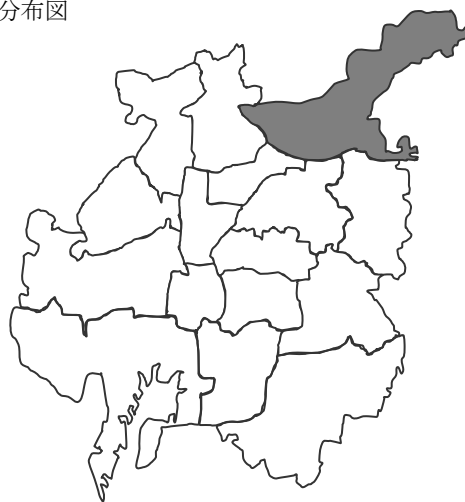
【国内の分布】

本州（東北地方南部以南）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の林内に生育する。常緑広葉樹林だけでなく、落葉広葉樹の二次林内にも生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

1ヶ所で少数の個体が確認されているだけである。当面は保全されそうな場所であるが、観察のため訪れる人が多くなれば、踏み荒らし等による影響が懸念される。

【保全上の留意点】

生育地の地形と森林を保全することが必要である。

【特記事項】

愛知県のムヨウラン類の中では大型の種類で、根が深いこと、花が平開すること、花序が長いことが特徴である。やはり大型で、花が平開せず茎の先端に集まってつくホクリクムヨウランは、瀬戸市や春日井市には生育しているが、名古屋市では確認されていない。小型のエンシュウムヨウランは、2004年のレッドリストでは準絶滅危惧と評価されたが、里山の森林化に伴い名古屋市内でもあちこちで確認されるようになり、2010年及び今回のリストではリスト外と評価された。

【関連文献】

保草Ⅲp.28, 平草Ⅰp.206.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ラン科>

コバノ トンボソウ *Platanthera tipuloides* (L.f.) Lindl. var. *nipponica* (Makino) Ohwi**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 15。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が
きわめて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧IB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。根は一部が肥厚する。茎は直立し、高さ 30~90cm、細く繊細で、基部に 2~3 個の鱗片葉をつける。通常葉は茎の中部に数個つき、最下のものだけが大きく、線状楕円形、長さ 3.5~15cm、先端は鈍頭、基部は茎を抱く。小型の株では他の葉はほとんど目立たないが、大型の株では次の 1~2 個も多少発達する。花期は 6~8 月、花は茎の上部にまばらに 3~15 個つき、淡黄緑色、苞は披針形である。背がく片は卵形、長さ 2~2.5mm。側がく片は長楕円形、側花弁は斜長楕円形、ともに背がく片よりやや長い。唇弁は長さ 2.5~4mm、距は長さ 15~20mm で、上方に反りかえる。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味東谷、鳥居ちゑ子 403, 1993-7-4）に生育している。守山区の他の場所（小幡緑地、芹沢 56216, 1990-8-8）、千種区（茶屋ヶ坂、井波一雄 s.n., 1934-7-7, CBM264605）、天白区（八事、立川 s.n., 1952-8-19）、緑区（桶狭間、稲垣貫一 s.n., 1947-6, CBM109998）にも生育していた。東山（千種区？）産という個体の写真は、奥山（1960）に掲載されている。

【県内の分布】

丘陵地に広く分布し、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、東海知多、常滑、美浜南知多、犬山、春日井で確認されている。

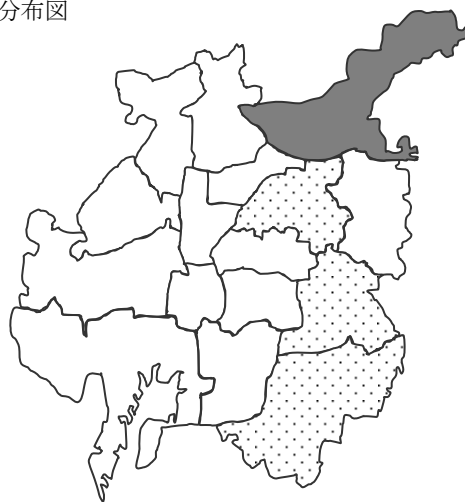
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

湧水湿地の日当たりのよい場所に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では最近では 1 ヶ所の湿地で確認されているだけで、個体数も開花するものは数株にすぎない。花が目立たないため採取圧はそれほど著しくないが、遷移の進行により湿地が縮小しており、その点で将来の存続が懸念される。観察者・カメラマンによる踏み荒らしも懸念される。小幡緑地では公園整備のため湿地が破壊され、絶滅した。

【保全上の留意点】

生育地の湧水湿地を、水源部も含めて保全することが必要である。また緑地公園の整備に当たっては、有名な目立つ植物だけでなく目立たない生物についても生育・生息状況を把握し、改変を最小限に止める努力が必要である。

【引用文献】

奥山春季, 1960. 原色日本野外植物図譜 2:pl.161. 誠文堂新光社, 東京.

【関連文献】

保草Ⅲp.21, 平草Ⅰp.198.

(執筆 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 アヤメ科>

ノハナショウブ *Iris ensata* Thunb. var. *spontanea* (Makino) Nakai

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 4、
県内分布 1、総点 15。湿地性の植物で、名古屋市では生育地も
個体数も少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧IB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。地下茎は横にはって分枝し、褐色の繊維につつまれる。葉は剣状で2列につき、長さ30～80cm、幅5～20mmで、中脈がある。花期は6～7月、花茎は高さ40～110cm、先端に数個の苞をつけ、そこから次々に花を開く。花は紫色で直径9～13cm、外花被片は柄状の部分を除き楕円形、長さ4～7.5cm、幅3～4.5cm、開出して反曲し、中央から基部にかけて黄色の条がある。内花被片は倒被針形で直立し、長さ3～4cm、花柱分枝の先は2裂し、裂片はほぼ全縁である。蒴果は楕円形、長さ2～3cmである。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山、鳥居ちゑ子 1007, 1996-6-15）、名東区（牧野ヶ池緑地、芹沢 77446, 2001-6-9）で採集された標本がある。最近の状況は確認していないが、少なくとも守山区では現存していると思われる。緑区（滝の水、浜島繁隆 s.n., 1971-6-10）にも生育していた。

【県内の分布】

山間部では比較的多いが、丘陵地では少ない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、半田武豊、美浜南知多、犬山、春日井で確認されている。

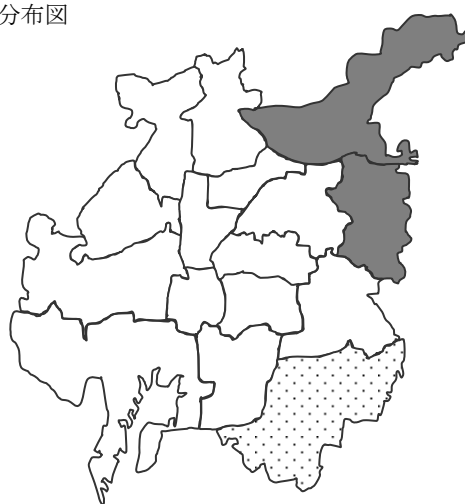
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、シベリア東部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地では湿地のほか林道のわき、尾根の草地などにも見られるが、丘陵地では生育地は湧水湿地下部の泥質の場所やため池の周辺などに限られる。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では森林化の進行により生育地の湿地が縮小し、被陰されてほとんど花がつかない状態になっている。名東区ではため池の富栄養化によりキシノウヅなどが侵入し、圧迫されている。花が目立つため、園芸目的で採取されることもある。採取されなくても訪れる人が多くなれば、踏み荒らし等の攪乱が懸念される。緑区では、生育地が宅地造成のため破壊され、絶滅した。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取や観察者・カメラマンによる踏み荒らしを防止する必要がある。

【特記事項】

園芸品のハナショウブはノハナショウブをもとに改良されたもので、多数の品種がある。

【関連文献】

保草Ⅲpp.77-78, 平草Ⅰp.61.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 キジカクシ科>

ミヤマナルコユリ *Polygonatum lasianthum* Maxim.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 14。やや山地性の植物で、名古屋市では生育
地も個体数も極めて少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。根茎は横にはう。茎は稜角があり、上部は弓状に曲がり、高さ 30～70cm になる。
葉は互生し、ごく短い柄があり、葉身は卵形～長楕円形、長さ 6～10cm、先端は鈍頭、両面無毛で、
通常裏面は粉白を帯びる。花期は 5～6 月、花は葉腋に 2～3 個ずつつき、下垂する。花筒は白色で
長さ 17～20mm、先端は浅く 6 裂する。液果は直径 8～12mm で、黒紫色に熟す。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味宮前、鳥居ちゑ子 871、
1995-5-13）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には比較的多い。尾
張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、
小牧、春日井で確認されている。

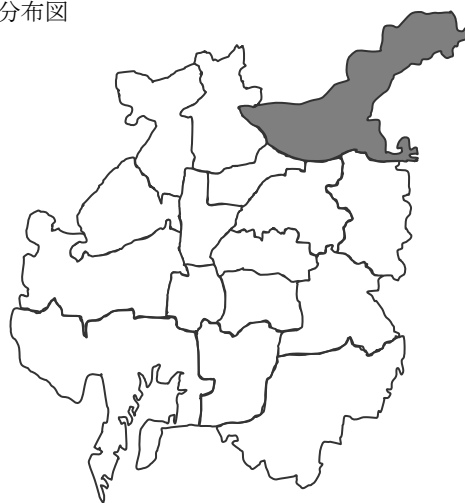
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

1ヶ所に少数の個体が生育しているにすぎない。生育地の乾燥化などにより、衰退傾向にある。

【保全上の留意点】

生育地の地形と森林を保全することが必要である。

【特記事項】

52 頁に名古屋市では絶滅として掲載したナルコユリ *P. falcatum* A.Gray からは、根茎の節間が短く、葉は幅広くて少数、花柄は横に張り出すことで区別される。

【関連文献】

保草Ⅲp.110、平草Ⅰp.46。

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ガマ科>

ヤマトミクリ *Sparganium fallax* Graebn.**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、
県内分布 2、総点 15。全国的に減少傾向の著しい水草で、名古屋
市では生育地が極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧IB類
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

多年生の水草。地中を横にはう根茎がある。地上茎は立ち、分枝せず、高さ50～120cmになる。葉は2列に互生して立ち、線形、幅8～15mm、先端は鈍頭、辺縁は全縁、裏面に稜があって断面は三角状となり、下部は葉鞘となる。花期は7～8月、花序は分枝しない。下部には3～6個の雌性頭花がお互いにやや離れてつき、柄の全部または一部と主軸が合着する。雌性頭花のつく部分は主軸がジグザグ状に屈曲していることが多い。上部には4～8個の雄性頭花が付く。雌性頭花と雄性頭花は1cm以上離れる。果実は紡錘形で長さ5～6mm、中央部がくびれる。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（中志段味才井戸流、芹沢 82964, 2008-7-16）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊川、田原西部、瀬戸尾張旭、長久手日進、小牧、春日井の6区画で確認されている。

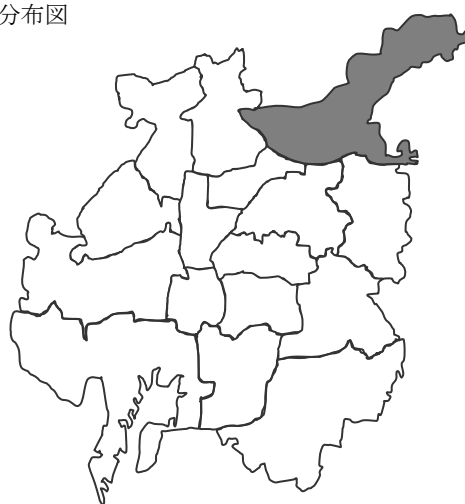
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

東アジア。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

池沼やため池、水路などに生育する抽水植物。一般的に止水域に多いが、名古屋市では湧水の流れる水路に生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

才井戸流では水路中にヤマトミクリのほかミクリ、ナガエミクリも生育している。よく開花するが、個体数はナガエミクリに比べはるかに少ない。周囲の開発により、将来の存続が懸念される。仮に水路自体は保全されても、公園化されれば水質が悪化し、帰化植物等が侵入することも予想される。

【保全上の留意点】

生育地を、その周辺の地形を含めて保全することが必要である。

【特記事項】

最下の雌性花序は、しばしば次の苞と対生するほど腋上性になる。

【関連文献】

保草Ⅲp.420, 平草Ⅰp.142, 環境庁 p.586, SOS旧版 p.103+図版22, SOS新版 pp.122-123, 愛知県 p.610.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.80. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.151. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 中村 肇)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ホシクサ科>

ツクシクロイヌノヒゲ *Eriocaulon kiusianum* Maxim.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、
県内分布 3、総点 14。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

1年生草本。茎はごく短い。葉は束生して斜上し、線形、長さ10～18cm、基部で幅3～6mm、全縁、先端は次第に細くなる。花期は8～10月、花茎は多数つき、中央の1本は高さ8～23cm、他はそれより短く、先端に倒円錐形の頭花をつける。頭花は直径4～5mm、多数の花からなり、総苞片は頭花よりやや短く、長楕円形、鈍頭、花床には毛がない。小花は黒藍色で、雌花のがくの内面に長毛があるほかは各部とも無毛、子房と蒴果は3室である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（下志段味滝ノ水池、標本なし、尾張旭市側で採集された標本は村松正雄 552, 1986-9-30）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊田東部、瀬戸尾張旭、長久手日進、美浜南知多、春日井で確認されている。

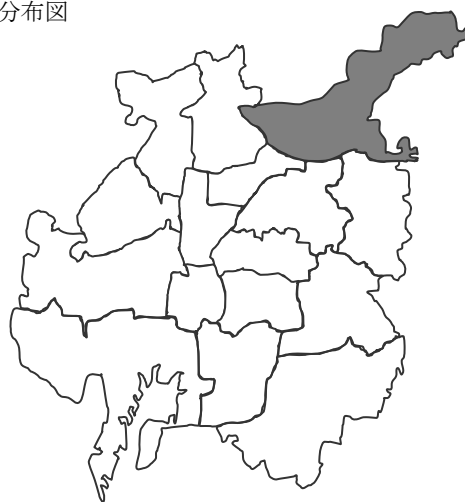
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の湿地に生育する。愛知県での生育地は、いずれも干上がったため池の岸である。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では、尾張旭市との境界にある滝ノ水池で生育が確認されている。個体数は年変動が著しく、水位の低下しない年には全く見られないこともある。

【保全上の留意点】

滝ノ水池は本種以外にもタチモ、オオトリゲモなど名古屋市では希少な植物が生育しており、周辺の丘陵地と共に現在の水質と環境を維持すべき場所である。

【関連文献】

保草Ⅲpp.184-185, 平草Ⅰp.82, SOS 旧版 pp.97-98 (クロイヌノヒゲとして), 愛知県 p.605.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ホシクサ科>

シラタマホシクサ *Eriocaulon nudicuspe* Maxim.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、
県内分布 1、補正+2（固有）、総点 15。本地域の湧水湿地の代
表的な固有種で、名古屋市内では生育できる環境が減少してい
る。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

1年生草本。茎は通常ごく短い、多少伸長することもある。葉は束生して斜上し、線形、長さ5～30cm、幅1～5mm、全縁、先端は細くとがる。花期は8～10月、花茎は1本のものから50本以上出るものまであり、直立して高さ15～60cm、4肋があつてねじれ、基部に3～12cmの鞘があり、先端に1個の頭花をつける。頭花は球形、直径5～10mm、総苞片は倒卵形で淡褐色、頭花より短く、小花には多くの白色の短毛がある。子房と蒴果は3室である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷、鳥居ちゑ子 503, 1993-9-6）、天白区（島田緑地、中村 肇 697, 2014-9-13, NBC1328 など）に生育している。守山区の他の場所（小幡緑地、芹沢 56973, 1990-9-12）、千種区（田代町、広部 栄 155, 1993-8-23）で採集された標本もある。緑区にも生育していたらしい。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊川、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、田原西部、下山、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、春日井の18区画で確認されている。刈谷知立、東海知多などにも生育していたが絶滅した。

【国内の分布】

本州（静岡県西部、愛知県、岐阜県東濃地方、三重県北部）に分布する。九州（宮崎県）にも似たものがある。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の湧水湿地の、日当たりのよい場所に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

現在のところはまだ良好な自然集団と思われるものも残っているが、各種開発により本種が生育できる丘陵地そのものが減少しており、過去の状態に比べれば減少傾向は明らかである。ホシクサ科の植物としては例外的に花が美しいため、これ以上減少が続くと、園芸目的の採取による影響が出る可能性もある。観察者の踏み荒らしによる影響も大きい。

【保全上の留意点】

何はともあれ、湧水湿地の保全が必要である。その一方で本種は、本地域の固有種として有名でしかも花が目立つため、もともとはなかった湿地に播種されることも多い。例えば、名東区猪高緑地や緑区大高緑地のものは播種起源らしい。播種された結果は、すぐに消滅してしまうこともあるが、著しく増加し、本来の自然状態に対する大きな脅威となることもある。湿地はどれも同じではない。本来ないものは、「ない」のが自然の姿であることを忘れてはならない。

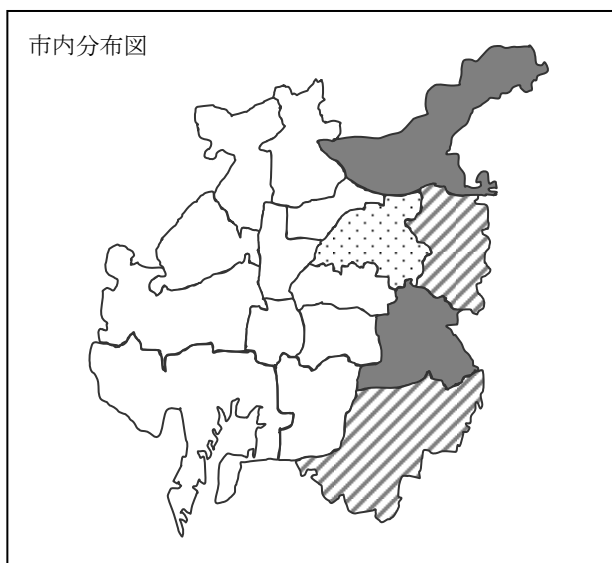
【特記事項】

播種されたもの、あるいは生育状況から判断して播種されたいものは、分布状況等の記述から除外してある。名古屋市内ではまだ本来の生育地が残存しているので、明らかに播種された場所のものは、できれば除去することが望ましい。

【関連文献】

保草Ⅲp.182, 平草Ⅰp.80, 環境庁p.576, SOS旧版p.98+図版18, SOS新版p.90, 愛知県p.446.

（執筆者 芹沢俊介）



維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科>

イセウキヤガラ *Bolboschoenus planiculmis* (F.Schmidt) T.V.Egorova**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 14。河口部の塩湿地に生育する植物で、名古屋
市では生育地が限られている。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧IB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生の水草。地下茎は細く地中をはい、先端に塊茎をつける。茎は通常単生で直立し、高さ 40～60cm になる。葉は茎の下部に 2～4 個付き、長い葉は茎と同じ高さまで伸び、断面は鋭三角形、幅 2～5mm である。花期は 6～8 月、小穂は茎の先端に通常 1 個、ときに 2～3 個つき、無柄で卵形～卵状楕円形、長さ 1～1.8cm、褐色、先端は尖る。苞は通常 2 個で、下の 1 個は立ち、3 稜形、長さ 12～30cm、下部は茎に続き、上の 1 個は短く、小穂の半分以下の長さのことが多い。

【分布の概要】**【市内の分布】**

中川区（下之一色町新川、中村 肇 662, 2014-7-12, NBC1316 ほか）、港区（宝神町庄内川河口、中村 肇 665, 2014-7-13, NBC1318; 船見町天白川河口、中村 肇 721, 2014-7-14, NBC1319）に生育している。

【県内の分布】

三河湾、衣浦湾、伊勢湾の奥部に流入する河川の河口部に生育し、尾張では名古屋市のほか、大府東浦、津島海部西、海部南部で確認されている。

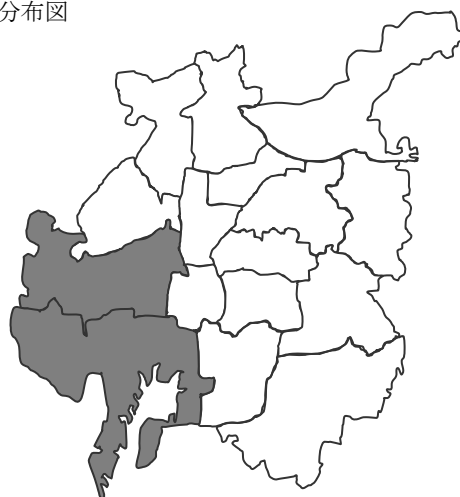
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

東アジア、ヨーロッパ。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

塩水の出入りする河口部の、満潮時には水没するような場所に生育する抽水～湿性植物。

【現在の生育状況／減少の要因】

庄内川、新川、天白川の河口部に生育している。生育地は限られているが、生育状態は良好である。

【保全上の留意点】

当面は現状通り存続すると思われるが、長期的には河川水質の悪化や堤防の改修による影響が懸念される。

【特記事項】

日本では木曽三川河口部の三重県側で最初に発見されたため、イセウキヤガラの名が与えられた。

【関連文献】

保草Ⅲp.218, SOS 旧版 p.108+図版 26.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.88. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.171. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 中村 肇)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科>

ミノボロスゲ *Carex albata* Boott

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 3、総点 14。北日本系の植物で、名古屋市は分布域の南限に近い。やや攪乱された土地に生育するが、名古屋市では生育地が極めて少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。匍匐枝はなく、株をつくる。茎は高さ 20～60cm、3稜があり、基部の葉鞘は赤褐色～黒褐色である。葉は細い線形、幅 2～3mm である。果期は 5～7 月、花序は卵状円柱形、長さ 3～5cm、小穂は密集してつき、卵円形、長さ 5～8mm、すべて雌雄性で上方に雄花、中下部に雌花をつけ、淡緑白色である。苞はあまり発達しないが、下方のものは時にやや葉状となる。果胞は三角状広披針形、長さ約 4mm、先端は次第に細まってやや長い嘴となる。雌花の柱頭は 2 個である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（小幡緑地、鳥居ちゑ子 2894, 2011-5-21）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、東三河の 3 区画（豊根東部、鳳来北東部、豊川）に生育しているだけである。

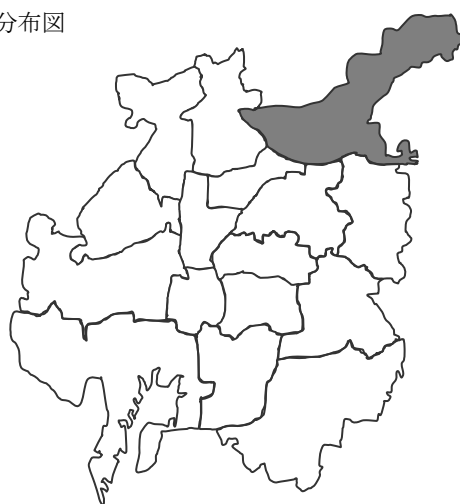
【国内の分布】

北海道および本州中北部。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

やや攪乱された湿った草地に生育する。しばしば湿地の路傍などに群生する。

【現在の生育状況／減少の要因】

2ヶ所に小群落がある。生育地はいずれも踏みつけなど軽度の攪乱を受ける場所であり、一方で車の乗り入れ、他方で帰化植物の繁茂などにより存続が脅かされている。

【保全上の留意点】

本種のような植物の場合、存続のためには適度の踏みつけなどの人為的干渉が必要である。過度の干渉があっても、干渉がなくなっても消滅してしまう。このような場所も希少な植物の生育地として重要であることを、認識する必要がある。

【特記事項】

本種が過去に名古屋市に分布を拡大してきた過程で、工事用車両の移動など、何らかの人為がからんでいた可能性は否定できない。しかし、もともと踏み跡のような場所に多い植物であるから、ここでは自然分布として扱っておく。

【関連文献】

保草Ⅲp.260, 平草Ⅰp.167, SOS 旧版 p.106, 愛知県 p.466.
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.54. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科>

ハマアオスゲ *Carex fibrillosa* Franch. et Sav.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級2、集団数階級4、生育環境階級3、人為圧階級4、
県内分布 1、総点 14。海浜性の植物で、名古屋市では生育地が
極めて少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧IB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。長い匍匐枝を出し、株をつくる。茎はやや硬く、高さ5～20cm、基部の葉鞘は褐色で、後に繊維状に分解する。葉は細い線形、幅1.5～4mmである。果期は4～5月、小穂は3～6個で、最下のものを除き接近してつき、頂小穂は雄性、線状楕円形で長さ約1cm、白緑色、側小穂は雌性で、短円柱形～卵形、長さ0.7～1.5cm、苞は葉状で、最下のものの基部は短い鞘になる。果胞は密集してつき、倒卵形～楕円形、長さ2.5～3mm、嘴は短く、短毛があり、熟すと多少黄色を帯びる。雌花の柱頭は3個である。

【分布の概要】

【市内の分布】

緑区（鳴海町笹塚，渡邊幸子 6834，
2001-5-12）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊橋南部、田原東部、田原西部、東海知多、常滑、美浜南知多、江南丹羽、一宮東部、一宮西部、稲沢、尾西祖父江、津島愛西で確認されている。

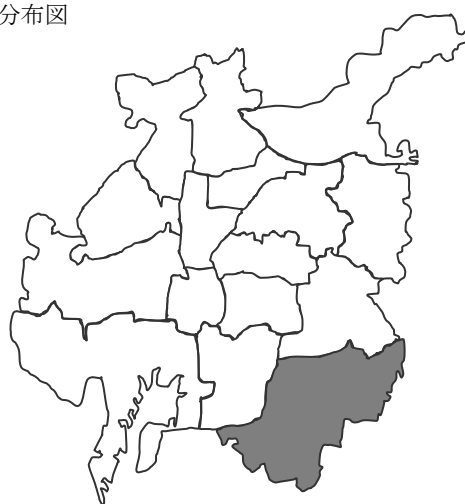
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、台湾、中国大陸中南部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸近くの砂地や草地、明るい林内などに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

鳴海町笹塚の愛知用水沿いに、数m四方にわたって生育していた。生育地に耕耘機が入るなどして大きな影響を受けたが、2014年の時点でまだ2m×30cmほどの範囲に残存している。名古屋市のものは小型で、高さ5～10cmである。

【保全上の留意点】

緑地公園の中で未整備のまま一般市民が利用しにくい状態になっている場所は、野生生物にとっては残された最後の砦である。管理担当者も一般市民も、そのような場所が決して「未利用の、無駄な場所」でないことを、はっきり意識する必要がある。特に地形を改変するような工事を行う場合には、十分な事前調査が必要である。

【特記事項】

アオスゲ *C. breviculmis* R.Br.に比べ、丈が低く、匍匐枝がある。2014年のレッドリスト案では絶滅危惧IA類として掲載したが、その後の調査により評価が変更された。

【関連文献】

保草Ⅲp.275，平草Ⅰp.160.
吉川純幹. 1957. 日本スゲ属植物図譜 1:106-107. 北陸の植物の会，金沢.
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.245. 文一総合出版，東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科>

センダイスゲ *Carex lenta* D.Don var. *sendaica* (Franch.) T.Koyama**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、県内分布 3。愛知県では稀少な海岸性のスゲで、名古屋市でも生育地、個体数共に少ない。人為的環境下に生育しているので、定性的に絶滅危惧 I B 類相当と判断した。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧 I B 類
愛知県2015	絶滅危惧 II 類
環境省2014	リスト外

【形態】

常緑性の多年生草本。長い匍匐枝があり、まばらな株を作る。茎は高さ 10～35cm、3 稜があり、基部の葉鞘は暗赤褐色で、繊維に分解する。葉は細い線形、幅 1.5～2.5mm である。果期は 8～10 月、小穂は 3～4 個、最下のもの以外は接近してつき、いずれも雌雄性、有柄、広披針形で長さ 7～15mm、先端部の約 1/3 には雄花、その下には 10 個内外の雌花がつく。苞は刺状で、基部は鞘となる。果胞は卵形、長さ 3～3.5mm、短い刺状毛があり、短い嘴がある。雌花の柱頭は 2 個である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

中区（名古屋城、鳥居ちゑ子 2669, 2008-10-31）。1 ヶ所に少数個体が生育している。古い時代に持ち込まれた可能性もあるが、少なくとも現在は自生状である。

【県内の分布】

名古屋市のほか田原西部、美浜南知多で確認されている。ただしどちらも匍匐枝の短いセンダイスゲモドキと呼ばれる型が多く、典型的なセンダイスゲは個体数がごく少ない。田原東部（姫島）と西尾南部（佐久島）にもあるという（小林・深谷 2008）。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

通常は海岸のクロマツ林内などに生育する。名古屋市では植え込みの間に小群落がある。

【現在の生育状況／減少の要因】

2008 年は長さ 25cm ほどの茎が出ていたが、2009 年は生育が悪く、茎の長さも 10cm ほどであった。現在の管理を継続すれば存続すると思われるが、公園内なので土地改変により失われるおそれもある。

【保全上の留意点】

工事等の際には配慮が必要である。

【特記事項】

2004 年版以後の調査により、名古屋市内に生育していることが確認された。ナキリスゲ var. *lenta* に比べ、全体に小型で、長い匍匐枝がある。

【引用文献】

小林元男・深谷昭登司. 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 pp.83,281. 佐久島会, 刈谷.

【関連文献】

保草Ⅲp.279, 平草Ⅰp.152, 愛知県 p.469.

勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.91. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科>

アズマナルコ *Carex shimidzensis* Franch.**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 14。山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。匍匐枝はなく、株を作る。茎は高さ 50～80cm、基部の葉鞘は葉身がなく、肉桂色、糸網はない。葉身は軟らかく、線形で幅 4～10mm である。花期は 5～6 月、小穂は 3～6 個、最下のはやや離れるが他は茎の先端部に集まり、頂小穂は雄性、長さ 4～7cm、側小穂は雌性、ときに雄花を頂生し、円柱形で長 4～10cm、多数の花を密につけ、最下のものには長く、他のものには短い柄がある。果胞は卵状楕円形で長さ 2.5～3mm、平滑、無毛で脈もなく、上端は短い嘴となる。雌花の柱頭は 2 個である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味東谷山、芹沢 84148, 2009-6-9; 吉根階子田、鳥居ちゑ子 2308, 2003-5-14 など）に生育している。

【県内の分布】

山地に点在するが、多いものではない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭と春日井で確認されている。

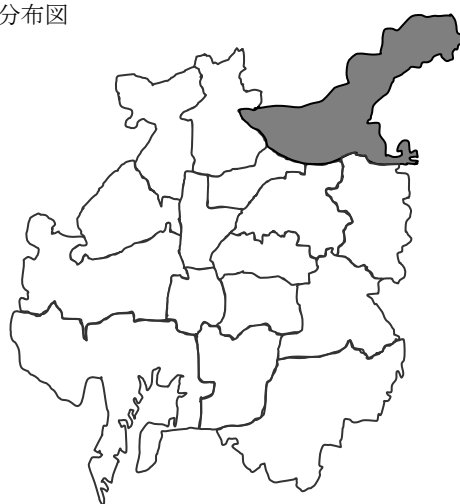
【国内の分布】

北海道、本州、九州北部。

【世界の分布】

千島列島南部、日本、朝鮮半島南部。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

沢沿いの湿った林縁などに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

東谷山ではその後確認に行っていないが、そのまま存続していると思われる。吉根では丘陵地の沢沿いに点在していたが、開発のため生育地が破壊された。

【保全上の留意点】

生育地の地形を保全することが必要である。

【関連文献】

保草Ⅲp.301, 平草Ⅰp.165.

吉川純幹. 1957. 日本スゲ属植物図譜 1:38-39. 北陸植物の会, 金沢.

勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.121. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科>

ヒメガヤツリ *Cyperus tenuispica* Steud.**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 3、総点 15。湿地性の植物で、愛知県でも名古屋市で
も生育地が少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【形態】

1年生草本。茎は束生し、高さ10～25cm。葉は少数、基部の葉は葉身が退化し、上部の葉の葉身は茎とほぼ同長、線形、幅1～3mmである。花期は8～10月、花序の枝は長さ3～10cm、先端に長さ0.5～3cmの小枝を出し、時には更に短い小枝を出して、その先に数個の小穂をつける。であるが、小型の個体では出ないこともあり、苞は3～4個で葉状、花序よりも長い。小穂は線形、長さ3～7mm、鱗片は小さくてややまばらにつき、褐色、斜開して先端は切形になる。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区(下志段味東禅寺池、鳥居ちゑ子 531, 1993-9-23; 小幡米野、福岡義洋 1990, 1992-10-2)で採集された標本がある。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊橋北部、旭、額田の3区画で確認されている。

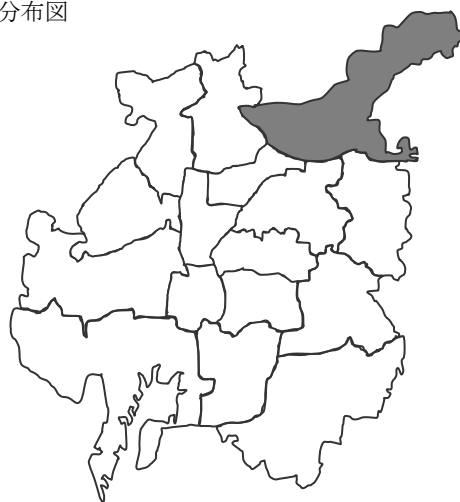
【国内の分布】

本州(福島県以西)、四国、九州。

【世界の分布】

アジア、アフリカ、オーストラリアの熱帯～暖温帯に分布する。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

谷戸田やため池の岸に生育する。名古屋市の生育地はいずれもため池の岸であった。

【現在の生育状況／減少の要因】

最近までツルナシコアゼガヤツリ *C. haspan* L. var. *microhaspan* Makino と混同されていたため、詳細は不明である。現存しているかどうか未確認で、個体数階級は見込み値である。開発や水質汚濁によってすでに絶滅している可能性もある。

【保全上の留意点】

本種については調査が不十分であり、正確な生育状況を確認することが先決である。

【特記事項】

ミズハナビとも呼ばれる。ツルナシコアゼガヤツリは小穂がやや大型、鱗片もやや大きくてやや密につき、先端は中肋が微突出する。

【関連文献】

保草Ⅲp.239, 平草Ⅰp.184, 愛知県 p.475.

北川淑子・堀内洋. 2001. カヤツリグサ属. 神奈川県植物誌 2001pp.398-415. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科>

イガクサ *Rhynchospora rubra* (Lour.) Makino**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 4、
県内分布 1、総点 14。湧水湿地やその周辺に生育する植物で、
名古屋市では生育地がきわめて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は束生して直立し、高さ 25～70cm になる。葉は根生し、線形、幅 1～3mm である。花期は 8～9 月、花序は茎の先端に 1 個つき、球形～半球形で直径 1.2～1.8cm、基部には葉状で長さ 1～12cm の苞が数個ある。小穂は長さ 6～7mm、淡黄褐色、果実は倒卵形で、長さ 1.5～1.8mm、刺針状花被片は果実の半分ほどの長さで、上向きにざらつく。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（下志段味吉田，鳥居ちゑ子 1871，2000-10-1；大森八龍，柴田美子 s.n.，2009-9-27，NBC419）に生育している。北区（旧北練兵場跡，犬飼 清 s.n.，1954-8-10）、天白区（天白町平針，犬飼 清 s.n.，1967-9-16）で採集された標本もある。

【県内の分布】

丘陵地に点在しており、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷半田武豊、常滑、美浜南知多、春日井に生育している。

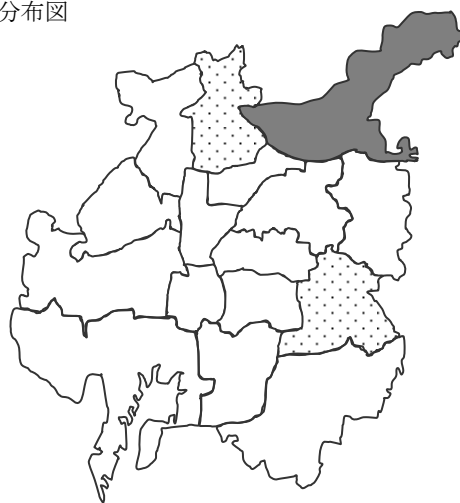
【国内の分布】

本州西部、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本からインド、オーストラリアにかけて分布する。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

平地や丘陵地の日当たりのよい湿った草地に生育する。愛知県では湧水湿地の中の、やや乾いた場所に多く生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

やせ山の中の湿った場所に、ややまばらに生育している。他の場所にもありそうに思われるが、現在のところは守山区の 2 ヶ所で確認されているだけである。

【保全上の留意点】

生育地の地形を保全することが必要である。

【特記事項】

名古屋市には本属の他の植物としてミカヅキグサ、イヌノハナヒゲ、イトイヌノハナヒゲ、コイヌノハナヒゲの 4 種が生育しているが、いずれも湧水湿地の指標植物として重要である。

【関連文献】

保草Ⅲp.252，平草Ⅰp.170.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科>

マツカサススキ *Scirpus mitsukurianus* Makino

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県内分布 2、総点 14。低湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は束生して直立し、高さ 1～1.5m となり、鈍い三角形、5～7 個の節がある。葉は線形、幅 4～8mm、葉鞘は長さ 3～10cm である。花期は 8～10 月、散房花序は頂生および側生し、頂生の分花序は大きく、長さ 5～10cm、苞は葉状で、花序よりも長く 3～5 枚つく。小穂は無柄、楕円形で長さ 4～6mm、褐色～赤褐色、10～20 個がかたまって径 1～1.5cm の球状の花序となる。果実は長さ約 1mm、淡褐色、刺針状花被片は長さ約 5mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味新池、鳥居ちゑ子 2752, 2009-9-29; 中志段味才井戸流、芹沢 77001, 2000-10-1）、名東区（猪高緑地、芹沢 78209, 2002-10-4）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊田東部、みよし、岡崎北部、安城、長久手日進、半田武豊、美浜南知多、春日井、岩倉西春日井、一宮西部、津島愛西などで記録されているが、すでに消失した区画もある。東三河では現在のところ確認されていない。

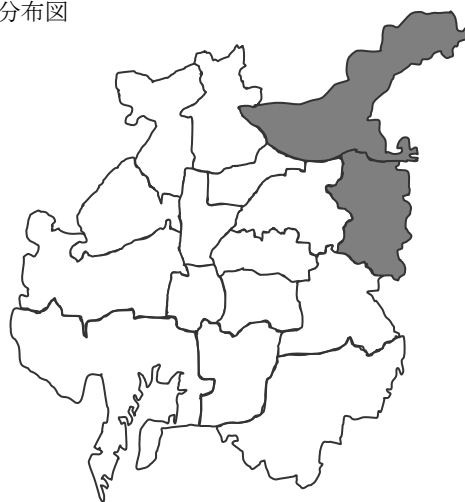
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

平地や丘陵地の湿地に生育する。愛知県では休耕田やため池の周辺などに生育していることが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では 3 ヶ所に生育していたが、そのうち下志段味吉田では耕地整理のため絶滅した。才井戸流にはかなりの個体数があるが、開発計画にかかっているため、このままではやがて絶滅すると思われる。名東区では猪高緑地に小群落がある。

【保全上の留意点】

ため池の周辺などに残存する低湿地的環境を保全することが必要である。

【特記事項】

やや貧栄養の湿地に生育するコマツカサススキに比べ、花序はやや小さく、多数つく。

【関連文献】

保草Ⅲp.220, 平草Ⅰp.178.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 イネ科>

ウンヌケ *Eulalia speciosa* (Debeaux) Kuntze

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 4、
県内分布 1、補正+1（準固有）、総点 15。本地域の丘陵地を代
表する植物の一つで、本地域に隔離的に分布しており、また分
布域の東限にあたる。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

多年生草本。稈は束生して株をつくり、直立し、高さ 80～120cm、茎の基部には枯れた葉が残存し、黄褐色の毛が密生する葉鞘に囲まれる。葉は叢生し、葉身は線形、20～45cm、幅 5～8mm、葉身の基部と鞘の上部に白い毛がある。花期は9～10月、花序は長さ 10～15cm の枝を 4～9 本つけ、その枝に小穂が並ぶ。花序の枝は開花時には開くが、花が終わるとほとんど直立する。小穂は有柄のものと無柄のものが対になって枝につき、披針形、長さ約 5mm、毛が多く、不稔の第1小花と結実する第2小花からなり、第2小花の護穎には長い芒がある。種子が熟すと、花序の枝が折れて散布される。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味南原、鳥居ちゑ子 3283, 2013-9-23; 小幡緑地、芹沢 54024, 1989-10-26）、千種区（田代町鹿子殿、芹沢 54038, 1989-10-26）、天白区（相生山緑地、芹沢 77732, 2001-10-13）、緑区（鳴海町滝ノ水緑地、芹沢 77736, 2001-10-13; 大高緑地、渡邊幸子 4546, 2000-10-5）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、鳳来南部、作手、新城、豊川、蒲郡、豊橋北部、田原東部、足助、下山、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、額田、岡崎北部、岡崎南部、幸田、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、大府東浦、東海知多、半田武豊、常滑、美浜南知多、小牧、春日井で確認されている。鳳来北東部、豊橋南部で採集された標本もある。平野部や三河山地にはなく、渥美半島の大部分、知多半島先端部、犬山などにも生育していない。

【国内の分布】

本州（静岡県西部、愛知県、岐阜県南部、兵庫県）、四国北部、九州北部。国内の詳細な分布は、野寄ほか（1997）にまとめられている。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、タイ、インド。

【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい草地や半裸地に生育する。やせ山の尾根すじなどのほか、谷戸田周辺の里草地にも生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

10年前まではまだあちこちに生育していたが、丘陵地の減少に加えて残された場所でも森林化が進行し、著しく減少した。千種区は近況を確認していないが、すでに絶滅しているかもしれない。

【保全上の留意点】

やせ山の保全と、里草地の保全が課題である。それぞれワタゲカマツカの項とキキョウの項を参照されたい。

【特記事項】

和名は牛の毛という意味で、尾張地方の方言に由来すると言われる。

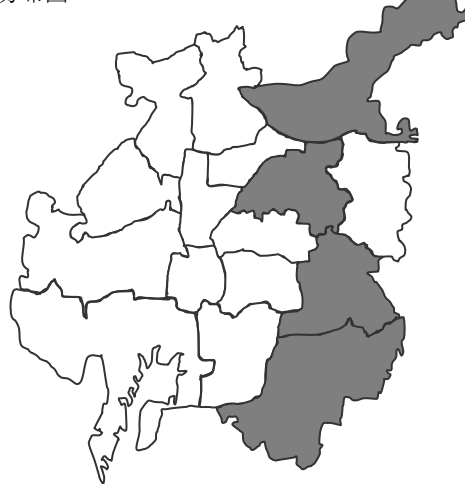
【引用文献】

野寄玲児・小林禰樹・藤本義昭, 1997. 兵庫県新産のウンヌケ（イネ科）の分布とその生育環境. 植物分類地理 48:197-204.

【関連文献】

保草Ⅲp.381, 平草Ⅰp.93, SOS旧版p.99+図版12, 環境庁p.580, SOS新版p.86, 愛知県p.606.
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 pp.690-691. 平凡社, 東京.

市内分布図



(執筆 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 アリノトウグサ科>

ホザキノフサモ *Myriophyllum spicatum* L.**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 14。流水域に多い水草で、名古屋市では生育地
が極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧IB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

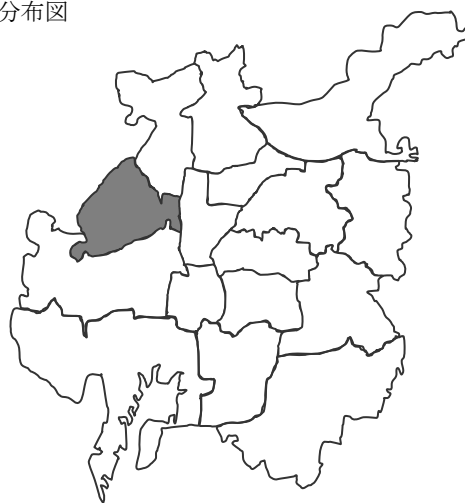
【形態】

多年生の水草。茎は長く伸びて分枝し、長さ50～150cmになる。水中葉は無柄で通常4枚が輪生し、長さ1～3cm、幅1～1.8cm、羽状に深裂し、裂片は糸状である。花期は5～10月、花序は茎の先端につき、穂状、水面から出て直立し、花序の上部に雄花、下部に雌花がつく。気中葉はつかない。雄花の花弁は楕円形で、淡紅色、長さ1.5～2.5mmである。殖芽は作らない。

【分布の概要】**【市内の分布】**

中村区（横井町庄内川、鈴木秀樹 3348, 1996-9-15）で採集されている。

市内分布図

**【県内の分布】**

愛知県の水草はほとんどの種が危機的で、本種も木曽川には比較的多いが、他では少ない。尾張では名古屋市のほか、半田武豊、一宮東部、一宮西部、稲沢、津島愛西、海部南部で確認されている。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

【世界の分布】

ユーラシア大陸に広く分布し、北アメリカで野生化している。

【生育地の環境／生態的特性】

湖沼やため池、河川などに生育する沈水植物。

【現在の生育状況／減少の要因】

詳細は不明。個体数は見込み値である。庄内川は改修工事が進行しており、その点で存続が懸念される。

【保全上の留意点】

改修工事に際して、留意が必要である。

【特記事項】

葉の裂片は、オグラノフサモより狭い角度でつく。同属の他の種と異なり、水面上に伸びる花序に葉をつけない。

【関連文献】

保草Ⅱp.35, 平草Ⅱpp.270-271.

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.133. 文一総合出版, 東京.

角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.232. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 中村 肇)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 スグリ科>

ヤブサンザシ *Ribes fasciculatum* Sieb. et Zucc.**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 2、総点 15。分布域は広いが全国的に個体数の少ない低
木で、名古屋市でも生育地、個体数ともに少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の低木。下部からよく分枝し、高さ1mくらいになる。葉は互生し、長さ2～3.5cmの柄があり、葉身は広卵形、長さ2～6cm、幅2.5～6cmになり、薄い草質で掌状に3浅～中裂し、先端は円頭または鈍頭、基部は切形、辺縁には欠刻状の鈍鋸歯がある。花期は4～5月、雌雄異株で、雄花は3～6個、雌花は2～4個が短枝の葉腋に束状につく。がくは5裂し、直径6～8mm、黄緑色で裂片は反り返る。果実は球形、直径7～8mmとなり、赤く熟す。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味白鳥、鳥居ちゑ子 1734, 2000-5-2）、天白区（相生山緑地、渡邊幸子 4995, 2002-3-16）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、東栄、豊橋北部、田原東部、田原西部、豊田東部、瀬戸尾張旭、長久手日進、春日井の8区画で確認されている。刈谷知立で採集された標本もあるが、現存は確認できない。

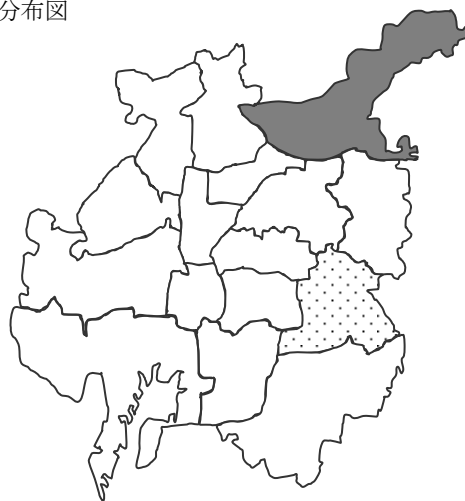
【国内の分布】

本州、四国、九州。山野に生育するが、多いものではない。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

二次林の林縁や岩礫地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では東谷山山麓に2～3株生育している。天白区では相生山の住宅地に接した林縁に数株が生育していたが、最近の確認できない。一方で丘陵地の開発による生育地の破壊、他方で里山の利用停止による森林化の進行に伴う被陰により、危機的な状況にある。

【保全上の留意点】

おそらくはやせ山に依存する植物であり、そのような環境の保全が必要である。やせ山や砂丘、湿田のような、今まで行政的に「退治目標」とされてきた自然・半自然環境も、これほど少なくなると逆に保全が必要になる。今までの努力目標と逆の話なのでいろいろ困難はあるが、今後の重要な課題である。

【特記事項】

ヤブサンザシの名の通り、ありふれた藪地にも生育していることがある。調査の際には注意が必要である。

【関連文献】

保木Ⅱp.102, 平木Ⅰp.159, SOS旧版p.57, 愛知県p.365.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 マメ科>

キハギ *Lespedeza buergeri* Miq.**【選定理由】**

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 15。やや山地性の植物で、名古屋市では個体数
が極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の小低木。幹は木質化し、高さ 2～3m になる。葉は互生し、長さ 0.7～2cm の柄があり、
葉身は 3 出葉、頂小葉は卵形または長楕円形、長さ 2～4cm、先端は通常尖り、表面は無毛、裏面は
圧毛がある。花期は 6～9 月、葉腋に長さ 2～7cm の花序をつけ、花は長さ約 1cm、淡黄色、翼弁は
紫紅色である。豆果は扁平な長楕円形、長さ 1～1.5cm である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（吉根、横井晴正 s.n., 2004-7-4）に
生育している。守山区の他の場所（東谷山、日
比野修 4419, 1998-4-29）にも生育していた。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には広く分布する。
尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久
手日進、東海知多、美浜南知多、犬山、春日
井、尾西祖父江で確認されている。

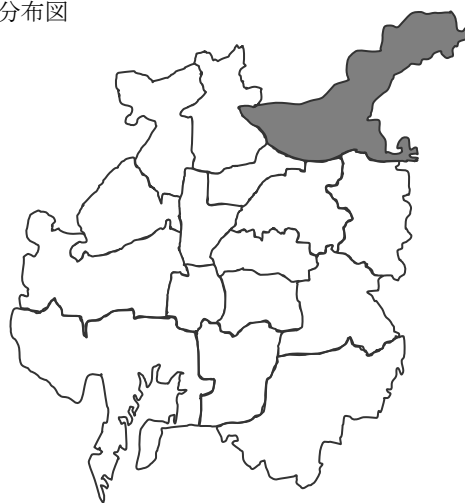
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

他のハギ類のように草地性ではなく、山地の崖地などに生育することが多い。河岸の岩場にもよく生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

吉根は詳細不明である。東谷山では北側の道路に近い沢沿いの崖地に 10 数株生育していたが、砂防堰堤の改修のため崖が削られ、見られなくなった。

【保全上の留意点】

東谷山には、本種以外にも名古屋市ではこの場所にしか見られない植物が多数生育している。湿地周辺については伐採が望まれる場所もあるが、それ以外は攪乱や植栽などを極力回避し、できるだけ現在の自然状態を保全すべきである。

【特記事項】

和名は、茎が他のハギ類よりも木質化するからである。2004 年のレッドデータブックでは絶滅としたが、その後現存が確認された。しかし、ごく最近の状況は確認されていない。市境の尾張旭市側には現在も少数株が生育している。

【関連文献】

保草Ⅱ pp.98-99, 平草Ⅱ p.205.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 マメ科>

シベリアメドハギ *Lespedeza juncea* (L.f.) Pers.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 2、総点 15。名古屋市では1ヶ所に生育しているだけで、
個体数も少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は直立またはやや斜上し、中上部で分枝し、やや紫色を帯び、高さ70～120cmになる。葉は互生し、下部のものには長さ1cm程度の柄があり、葉身は3出葉、頂小葉は側小葉よりやや大きく狭倒披針形～線形、長さ1～2.5cm、先は円頭または鈍頭で針状の小突起があり、基部はくさび形、裏面は圧毛がある。花期は9～10月、花は葉腋に2～4個がつき、長さ約7mm、ほとんど白色で紫条がある。がくは長さ4～5mmで5深裂し、裂片に3脈がある。通常花のほか、閉鎖花もつける。節果は扁平な広楕円形で、長さ約3mmである。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（川庄内川河川敷、芹沢 77656、
2001-9-23）に生育している。

【県内の分布】

矢作川、庄内川、木曽川の河川敷に生育するが、木曽川以外では少ない。尾張では名古屋市のほか、江南丹羽、一宮東部、一宮西部、稲沢、津島愛西に生育している。

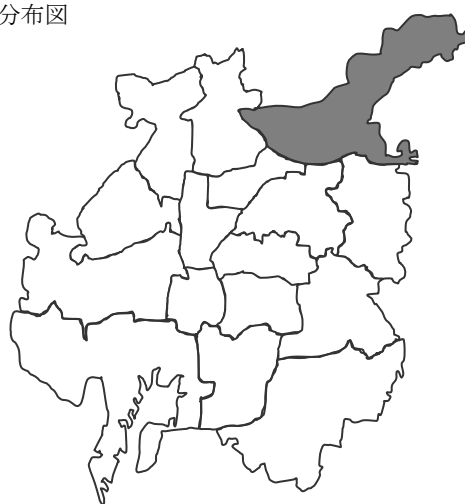
【国内の分布】

本州。

【世界の分布】

日本からアフガニスタンにかけて分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい草地に生育する。愛知県の生育地は、ほとんどが礫の河原である。

【現在の生育状況／減少の要因】

メドハギに混じって少数株が生育していたが、ごく最近の状況は確認されていない。出水の減少による河川敷の安定化と富栄養化によって、中流部の河川敷にも木本や高茎草本が侵入するようになり、本種が好む半裸地状の礫の河原自体が減少している。

【保全上の留意点】

礫の河原を、適度に不安定な状態で保全することが必要である。

【特記事項】

メドハギ *L. cuneata* G.Don からは、茎が紫色を帯び、閉鎖花のがく裂片に3脈があることで区別される。2004年版では、「カラメドハギ」という和名で掲載した。

【関連文献】

保草Ⅱp.97、平草Ⅱp.206.

大橋広好. 2003. カラメドハギ. 清水建美（編）, 日本の帰化植物 p.109. 平凡社, 東京.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 マメ科>

マキエハギ *Lespedeza virgata* (Thunb.) DC.

カテゴリー

【選定理由】

生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1。草地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。現況調査が不十分なので、定性的に絶滅危惧ⅠB類と評価した。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の半低木。茎は細くて硬く、高さ 40～60cm になる。葉は互生し、下部の葉には長さ 1～2cm の柄があり、葉身は3出葉、小葉は楕円形、長さ 7～25mm、先端は円頭または僅かに凹頭で針状の小突起がある。花期は 8～9 月、花は短い総状花序に 2～5 個つき、ごく淡い紅紫色、長さ 5～6mm、がくは 5 深裂し、長さ約 5mm である。通常花のほかに、数個の閉鎖花を葉腋に束生する。豆果は広卵形、長さ約 4mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根庄内川堤防、鳥居ちゑ子 2365, 2003-9-3）、名東区（香流、鳥居ちゑ子 2659, 2008-9-15）、天白区（天白町八事、渡邊幸子 5161, 2002-9-21, NBC1023）、瑞穂区（下山町、渡邊幸子 2742, 1996-9-15）で確認されている。

【県内の分布】

低山地～丘陵地に点在するが、少ない。尾張では名古屋市のほか、東海知多、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山で確認されている。

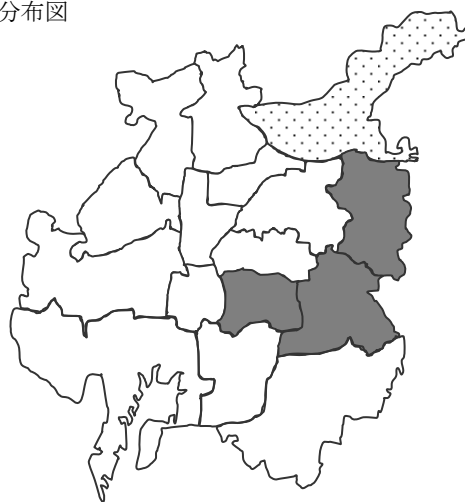
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地や低山地の日当たりのよい乾いた草地や林縁に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では庄内川堤防に 10 数株生育していたが、その後見かけなくなった。天白区では駐車場わきの斜面草地に 10 株程度が生育していたが、2014 年には確認できなかった。瑞穂区では住宅地内に残存した林のへりに 2～3 株生育していたが、最近の状況は確認されていない。散発的に生育する植物で、存続の基盤は脆弱である。

【保全上の留意点】

一般的に言えば、草地の保全が必要である。しかし、おそらくは個別的な対策では効果が少なく、自然環境の全体的な保全が必要と思われる。効果的な保全対策を立てることができないまま、いつの間にか消失してしまいそうな植物の一つである。

【特記事項】

和名は、直線的な細い花柄が蒔絵の筆法に似ているからである。2014 年のレッドリスト案では絶滅危惧Ⅱ類として掲載したが、その後の調査により評価が変更された。

【関連文献】

保草Ⅱp.98, 平草Ⅱp.206.

(執筆 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ヒメハギ科>

ヒナノカンザシ *Salomonina oblongifolia* DC.**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 14。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

1年生草本。茎は細く、高さ6～25cmになる。葉は互生し、ほとんど無柄、葉身は長楕円形、長さ3～8mm、全縁、上方のものは次第に細く、小さくなる。花期は8～9月、茎は枝の先端に穂状花序をつくり、花は淡紫色、長さ1～2mm、花弁は3個で下方の1個は側方のものより長く、下部で雄ずいと合着する。

【分布の概要】**【市内の分布】**

名東区(猪高緑地, 芹沢 57791, 1990-10-17)に生育している。千種区(平和公園, 犬飼 清 s.n., 1960-9-10)で採集された標本もある。

【県内の分布】

丘陵地の湿地に生育しており、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、常滑、美浜南知多、犬山、春日井に生育している。

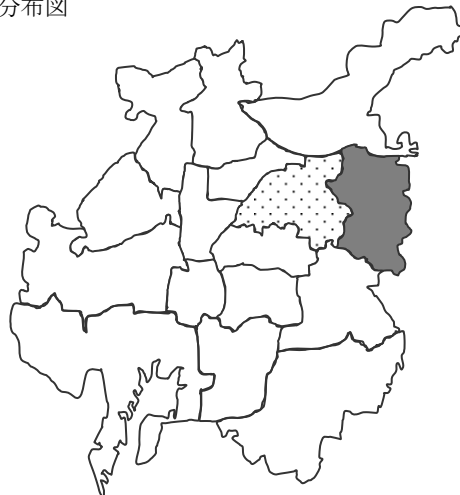
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本からインド、オーストラリアにかけて広く分布する。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

日当たりのよい湿地に生育する。愛知県では湧水湿地に多い植物であるが、名古屋市ではため池の岸に生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

個体数は比較的多かったが、大きさはせいぜい7cm程度で、生育状態はよくなかった。池に釣人が多く入り込むため、踏まれて減少していたが、ごく最近の状況は確認されていない。

【保全上の留意点】

ため池の水質を維持すること、踏みつけを防止することが必要である。

【特記事項】

小型の植物で、注意して探索すれば他の場所でも確認できる可能性がある。

【関連文献】

保草Ⅱp.82, 平草Ⅱp.234.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 バラ科>

カワラサイコ *Potentilla chinensis* Ser.**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、
県内分布 3、総点 14。不安定な礫の河原を代表する植物で、名古屋
市では生育できる環境が減少している。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は根ざわで分枝して四方に広がり、先端は斜上し、長毛があり、長さ 30～70cm になる。葉は互生し、奇数羽状複葉、小葉は 15～29 個で倒披針形、長さ 2～5cm、中肋近くまで羽状に深裂し、裂片は狭くてとがり、裏面は綿毛があって白色になる。花期は 6～8 月、茎の先に分枝した花序をつけ、直径 10～15mm の黄色の花を咲かせる。花弁は 5 枚で倒卵形、そう果は卵形で、長さ約 1.3mm である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（中志段味庄内川堤防、芹沢 77891, 2002-7-1; 吉根～川庄内川、村松正雄 18581, 1999-7-29）に生育している。

【県内の分布】

県内では庄内川と木曽川の河川敷に生育しており、名古屋市のほか、江南丹羽、一宮東部、稲沢、津島愛西で確認されている。木曽川の一部には大きな群落がある。東三河、西三河では現在のところ知られていない。

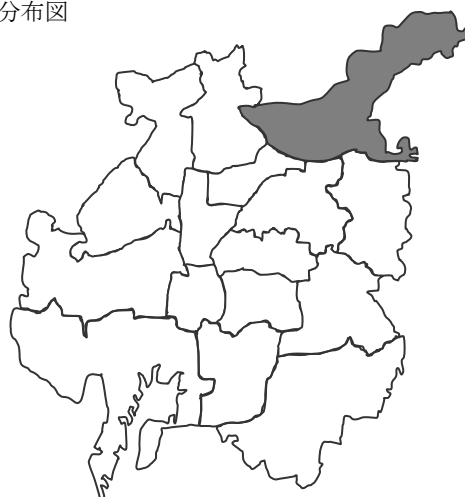
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、モンゴル、アムール、ウスリー。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

河川敷の礫地に多いが、堤防の草地に生育することもある。また、海岸近くの砂地などに生育することもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

出水の減少による河川敷の安定化と富栄養化によって、中流部の河川敷にも木本や高茎草本が侵入するようになり、本種が好む半裸地状の礫の河原自体が減少している。特に庄内川は河川の規模が小さいために礫地の減少傾向が著しく、本種の個体数は最近 20 年ほどの間にすっかり減少してしまった。

【保全上の留意点】

礫の河原を、適度に不安定な状態で保全することが必要である。

【特記事項】

「サイコ」の名は、本種のしっかりした地下部が薬用のミシマサイコの根に似ているからである。

【関連文献】

保草Ⅱp.134, 平草Ⅱp.180, SOS 旧版 p.58+図版 28, SOS 新版 p.131, 愛知県 p.545.

(執筆 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 バラ科>

マメナシ *Pyrus calleryana* Decne.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 3、補正+2（固有）、総点 14。著しい隔離分布種で、日本では名古屋市とその周辺だけに生育する。名古屋市を代表する絶滅危惧植物である。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	絶滅危惧ⅠA類
環境省2014	絶滅危惧ⅠB類

【形態】

落葉性の小高木。よく分枝し、高さ 8~10m になる。樹皮は灰紫黒色で、縦に割れ目が入る。葉は長枝に互生するか短枝にほとんど束生し、広卵形、卵形または卵状長楕円形、先端は鋭頭~尖鋭頭、基部はふつう円形、長さ 4~9cm、幅 3~6cm、辺縁に細かい鈍鋸歯があり、はじめ白色の軟毛があるが、後に無毛となる。花期は 4 月、花は白色で直径約 2.5cm、花弁は 5 枚、花柱は 2~3 個である。果実はほぼ球形、直径約 1cm、黄褐色で円形の小さい皮目が多数ある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷、芹沢 84163, 2009-6-9; 下志段味穴ケ洞、鳥居ちゑ子 829, 1995-4-16; 小牧、高木順夫 20704, 2012-4-24, NBC680; 大森御膳洞、芹沢 51065, 1989-4-4）、昭和区（隼人町、花岡 昭 126, 1993-9-19）に生育する。千種区の東山公園内にも、自生と思われる個体がある。太白区（八事、岡田善敏 s.n., 1923-9-3）で採集された標本もある。

【県内の分布】

名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、東海知多、犬山、小牧、春日井に生育している。西尾市からの報告もあるが未確認である。

【国内の分布】

本州（愛知県、三重県）に分布する。高野（2014）によれば、岐阜県南部にも生育しているらしい。長野県からの報告はアオナシまたはヤマナシの誤認である（池谷 2003）。三重県四日市市および桑名市の自生地は、国指定の天然記念物とされている。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島中部、中国大陸中南部、ベトナム北部。

【生育地の環境／生態的特性】

ため池周辺などの湧水のある場所に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

分布の中心が名古屋市内の丘陵地であるため、開発の圧力が極めて強い。最近でもいくつかの自生地が宅地造成等により失われている。とげの多い木であるため、邪魔者扱いで伐採されることもある。昭和区隼人池周辺では、以前は群落があったが、現在は少数の個体が単木状で残るのみである。最大の自生地である守山区の蛭池では、公園化により過剰管理が行われ、現存する個体は保護されても、繁殖できる状況は失われている。一部の場所では原産地不明の幼木が植え込まれており、遺伝的攪乱も懸念される。

【保全上の留意点】

本種は、愛知県を特徴づける植物の中でもナガボナツハゼと共に最も危機的で、体系的な保護対策が必要である。植え込まれた幼木については、早急に除去する必要がある。

【特記事項】

本種は特に名古屋市内に集中して生育しているため、今回のレッドリストの中で唯一、名古屋市での評価が愛知県の評価より低い階級になっている。彩色画は、2004 年版図版 1 に掲載されている。本種とナシの雑種であるアイナシは、瀬戸尾張旭、小牧、名古屋北部などに稀に生育している。

【引用文献】

池谷祐幸. 2003. マメナシは長野県には分布しない. 植物研究雑誌 78:177-178.

高野裕行. 2014. マメナシ（イヌナシ）. 岐阜県レッドデータブック改訂版個別解説欄 p.70.

【関連文献】

保木Ⅱp.46, 平木Ⅰp.227, 環境庁 p.122, SOS 旧版 p.58+図版 15, 愛知県 p.94, SOS 新版 p.102.

（執筆 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ヤナギ科>

ヤマネコヤナギ *Salix bakko* Kimura

カテゴリー

【選定理由】

生育環境階級 3、人為圧階級 4、県内分布 1。温帯性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。種子が風で散布される陽樹で再出現の可能性があるため、定性的に絶滅危惧 I B 類と評価した。

名古屋市2015	絶滅危惧 I B 類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の小高木または高木。高さ 10m に達する。樹皮は暗灰色。葉は楕円形～長楕円形、長さ 8～13cm、幅 3.5～4cm、先端は鋭尖頭～鋭頭、基部は円形または広いくさび形、辺縁は微少な鋸歯があるがほとんど全縁、表面は無毛でやや光沢があり、葉脈はくぼみ、裏面は白色の縮毛が密生する。雌雄異株で、花期は 3 月下旬～5 月上旬、雄花穂は楕円形～長楕円形、長さ 3～5cm、雌花穂は長楕円形、開花時には長さ 2～4cm であるが、果時には長さ 10cm に達する。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（下志段味風越池、村松正雄 23581, 2007-4-8）、天白区（天白町平針黒石、渡邊幸子 1992, 1995-4-12）、緑区（大高緑地、渡邊幸子 3715, 1999-3-25）に生育していた。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地には普通に見られる。尾張では少なく、名古屋市のほかには瀬戸尾張旭、長久手日進、春日井に生育しているにすぎない。

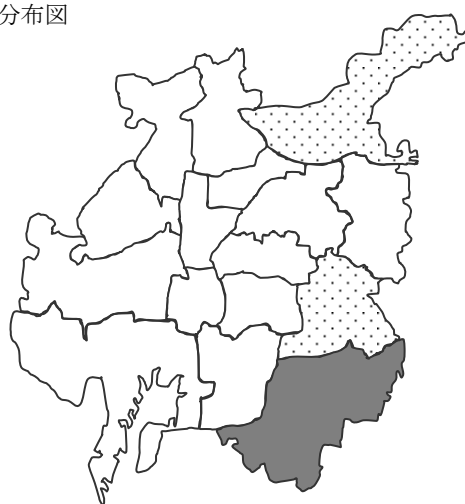
【国内の分布】

北海道（西南部）、本州（近畿地方以東）、四国。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地などの日当たりのよい場所に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では 1 株生育していたが、2014 年に枯死が確認された。天白区では丘陵の斜面に小群落があったが、宅地開発で消失した。

【保全上の留意点】

丘陵地の地形を保全することが必要である。陽性の樹木なので、現状を維持すればやがては幼木も育つと思われる。

【特記事項】

別名バッコヤナギ。バッコは東北地方の言葉で老婆のことで、灰色の尾状花序が老婆の白髪のようなからである。

【関連文献】

保木 II p.317, 平木 I p.42.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ミカン科>

コクサギ *Orixa japonica* Thunb.**【選定理由】**

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 15。山地の沢沿いに多い植物で、名古屋市では
生育地が極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の低木。よく分枝し、高さ2～3mになり、植物全体に臭気がある。葉は伸長した枝では通常2枚ずつ交互に互生し、3～7mmの柄があり、葉身は倒卵形、長さ5～13cm、先端は鈍頭または短く尖り、基部はくさび形、辺縁にはごく低い鈍鋸歯がある。葉の裏面には、全体に毛と油点がある。花期は4～5月。雌雄異株で花は緑色、雄花は総状で長さ2～4cmの花序につき、雌花は単生する。

【分布の概要】**【市内の分布】**

緑区（鳴海町清水寺、渡邊幸子 5348, 2003-5-26, NBC1036）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には普通に見られる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、美浜南知多、犬山、春日井に生育している。

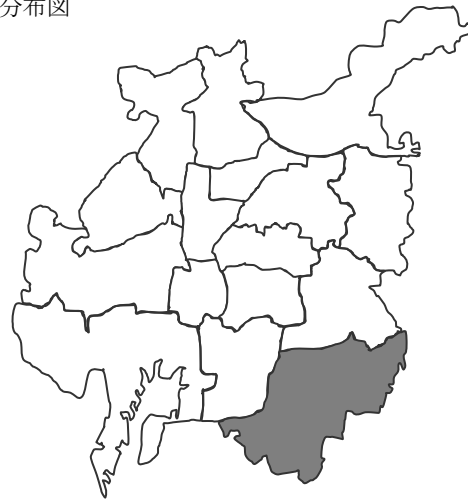
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、中国大陸。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地に多く、しばしば沢沿いの林内に群生する。

【現在の生育状況／減少の要因】

2003年には住宅地の中に1区画だけ残されたムクノキなどからなる藪状の林の中に、2m以上の株が数株、幼株はかなりの数が生育していた。しかし開発が進み、現在では僅かに残存しているだけである。

【保全上の留意点】

「こんな普通種が？」と思われる絶滅危惧種の一例である。名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られるような植物もしばしば産量が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。本種の場合も、名古屋市内で他に発見される可能性は低く、現在確認されている生育地を適切に保全することが必要である。

【特記事項】

伸長した若枝では葉が2枚ずつ交互につくため、その特徴に着目すればすぐに同定できる。和名は植物体に強い臭気があり、クサギに比べて木が小さいからである。2002年11月のレッドリストでは絶滅としたところ、それに対して情報が寄せられ、現存が確認された植物である。

【関連文献】

保木 I pp.328-329, 平木 I p.227.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ニガキ科>

ニガキ *Picrasma quassioides* (D.Don) Benn.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧IB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 15。やや山地性の樹木で、名古屋市では生育地
も個体数も少ない。

【形態】

落葉性の高木。高さ 12m くらいになる。葉は互生し、長さ 1.5~3cm の柄があり、葉身は奇数羽
状複葉、小葉は対生またはやや対生し、7~13 枚、卵状長楕円形、長さ 5~7cm、先端は鋭尖頭、辺
縁には鋭鋸歯がある。花期は 4~5 月。葉腋に集散花序をつけ、雌雄異株、雄花序は 30~50 個、雌
花序は 7~15 個の、黄緑色の小さい花をつける。果実は 2~3 個の分果からなり、分果は広楕円形、
長さ約 6mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味才井戸流、芹沢 76855、
2000-7-8）に生育している。

【県内の分布】

低山地に点在するが、それほど多いもの
ではない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張
旭、美浜南知多、犬山、江南丹羽、小牧、春
日井で確認されている。

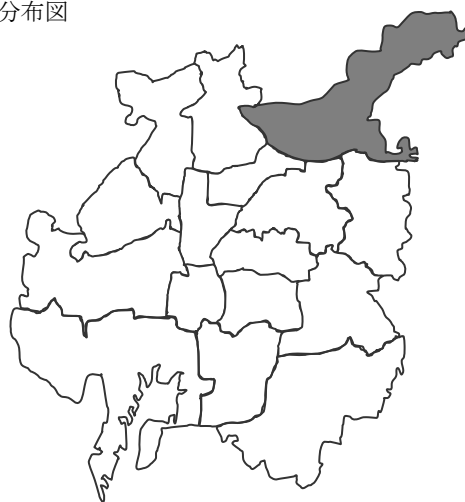
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

林縁部に生育することが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

中志段味才井戸流の林縁に大きな株があり、よく花をつける。才井戸流は開発が進行しているが、
この株は当面は残存するものと思われる。しかし長期的には、土地整備等により失われる可能性も
ある。

【保全上の留意点】

他の場所にもあるという話だが、はっきりしない。更に注意して探索する必要がある。既知の個
体に関しては、個別的な保全が必要である。

【特記事項】

全体に苦味物質を含み、薬用とされる。和名もこの苦味に由来する。

【関連文献】

保木 I pp.310-311, 平木 I p.284.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 アブラナ科>

ミズタガラシ *Cardamine lyrata* Bunge

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県内分布 1。本地域を特徴づける低湿地性植物である。総点は 13 であるが、帰化植物に圧迫されていることなども考慮し、絶滅危惧 I B 類と判定する。

名古屋市2015	絶滅危惧 I B 類
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎ははじめ直立し、高さ 30～60cm になるが、花後には倒れる。茎の基部から長い匍匐枝を出し、その匍匐枝には卵円形で基部が浅い心形の葉がつく。直立茎につく葉は短い柄があり、葉身は羽状複葉で長さ 2～7cm、頂小葉は大きく広卵形、側小葉は小さく卵形で 2～7 対ある。花期は 4～6 月、茎の先端に総状花序を伸ばし、10～30 個の白色の花をつける。花弁は 4 枚で広倒卵形、長さ 5～8mm である。果実は線形で、長さ 2～3cm になる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味宮前、鳥居ちゑ子 671, 1994-7-16; 吉根庄内川、芹沢 81340, 2007-5-20）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊川、豊田東部、岡崎北部、岡崎南部、幸田、犬山、小牧、春日井、岩倉西春日井、一宮東部、一宮西部、津島愛西で確認されている。

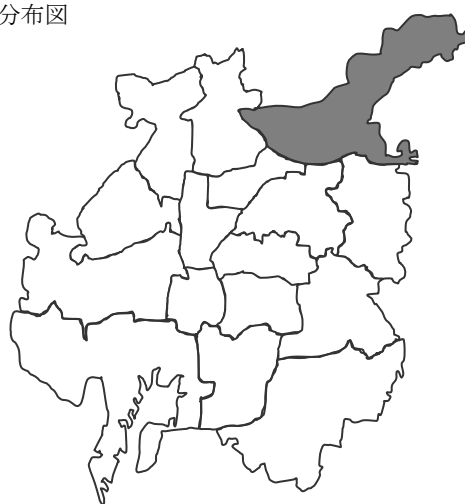
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州に生育するとされているが、一般にあまりよく理解されていない植物で、東海地方以外での現状は今ひとつはっきりしない。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、モンゴル、シベリア東部などに広く分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

河川敷などの低湿地に生育するほか、休耕田や水田わきの水路などに生育することもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

才井戸流では水路に沿って生育しているが、周囲が開発計画にかかっており、その点で将来の存続が懸念される。水路自体は保全されても、公園化されれば、オランダガラシなどの帰化植物が侵入することも予想される。かつては周辺の水田にも多く生育していたが、水田そのものが消滅してしまった。吉根は小群落である。小幡緑地にも一時的に出現したが、すぐ消失した。

【保全上の留意点】

平野部の湿地や未整理耕地は、従来の行政の中では重点的な「退治目標」であった。しかしここまで少なくなってしまうと、今後は旧来の農村景観という文化財的な意味を含めて、保全を図る必要がある。SOS 新版（2002）参照。

【特記事項】

「日本の野生植物」II 127 図版に本種として掲載されている写真は、タネツケバナである。写真小図鑑類に掲載されている写真も、ほとんどが誤りである。「原色日本植物図鑑」草本編 II 41 図版の図では、本種の特徴がよく示されている。

【引用文献】

愛知県自然史研究連絡会（編）. 2002. 自然からの SOS-レッドデータブックあいち・植物編解説 p.197. 愛知みどりの会.

【関連文献】

保草 II p.175, 平草 II p.131, SOS 旧版 p.55, 愛知県 p.538.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 アブラナ科>

ハタザオ *Turritis glabra* L.

カテゴリー

【選定理由】

生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1。草地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。現存は確認できないが、どこかで再発見される可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧 I B 類と評価した。

名古屋市2015	絶滅危惧 I B 類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

全体に緑白色の越年生草本。茎は直立し、通常分枝せず、高さ 60～120cm になる。根出葉は倒披針形、長さ 5～10cm、先端は鈍頭、中下部に 3～6 の欠刻状鋸歯があり、両面に 2 分した毛と星状毛がある。茎葉は披針形、長さ 3～9cm で上へいくほど小さくなり、上向につき、基部は矢じり形で茎を抱き、全縁、無毛である。花期は 5～8 月、花弁は倒卵形、長さ 5～7mm、淡黄白色、果実は直立して花軸に接し、線形、長さ 4～8cm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（香流橋矢田川、鳥居ちゑ子 2086, 2002-5-7）、天白区（井口二丁目天白川、渡邊幸子 5328, 2003-5-15）に生育していた。

【県内の分布】

丘陵地～平野部に生育するが、多いものではない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、江南丹羽、一宮東部、一宮西部、津島愛西に生育している。

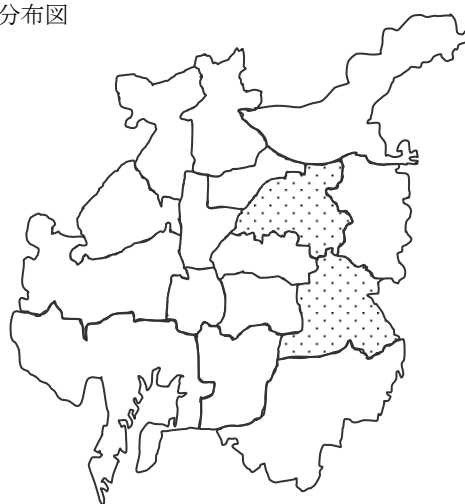
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

ユーラシア大陸に広く分布し、北アメリカやオーストラリアにも帰化している。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

愛知県での生育地はほとんどが河川堤防の草地である。名古屋市でも河川堤防に生育していた。

【現在の生育状況／減少の要因】

矢田川では、よく草刈りが行われる堤防の草地に 10 数株が生育していた。天白川でも、やはり堤防の草地に少数株が生育していた。どちらも既知の地点では現在生育を確認できないが、適切な堤防管理が継続されれば、どこかで再発見される可能性がある。

【保全上の留意点】

河川の堤防は、管理の必要上定期的に草刈りが行われるため、平野部では貴重な草地的環境になっている。堤防の改修に際しては、身近な自然の確保という観点も含めて、適切な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は旗竿で、直立する全体の様子に由来する。2014 年のレッドリスト案では絶滅危惧 II 類として掲載したが、その後の調査により評価が変更された。

【関連文献】

保草Ⅱ pp.181-182, 平草Ⅱ p.134.

(執筆 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 サクラソウ科>

クサレダマ *Lysimachia vulgaris* L. var. *davurica* (Ledeb.) R.Knuth

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 14。温帯性の湿地性植物で、名古屋市では減少傾向が著しい。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。横にはう地下茎がある。地上茎は直立し、高さ 100～140cm になる。葉対生または 3～4 枚が輪生し、無柄、葉身は披針形または長楕円形、長さ 7～12cm、先端は漸尖し、裏面に黒色の腺点がある。花期は 7～8 月、茎の先端に長さ 8～30cm の円錐花序をつけ、多数の黄色の花をつける。花冠は直径 12～15mm、5 裂し、裂片は三角状卵形である。蒴果は球形、直径約 4mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味森林公園、芹沢 76850, 2000-7-8）に生育している。千種区（光ヶ丘二丁目、諏訪 斎 58, 1993-7-18）、緑区（鳴海町笹塚、渡邊幸子 1694, 1994-6-29, NBC784）、港区（大西戸田川堤防、芹沢 81759, 2007-7-13）で採集された標本もある。

【県内の分布】

山地や丘陵地に点在しており、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、東海知多、常滑、美浜南知多、海部南部で確認されている。

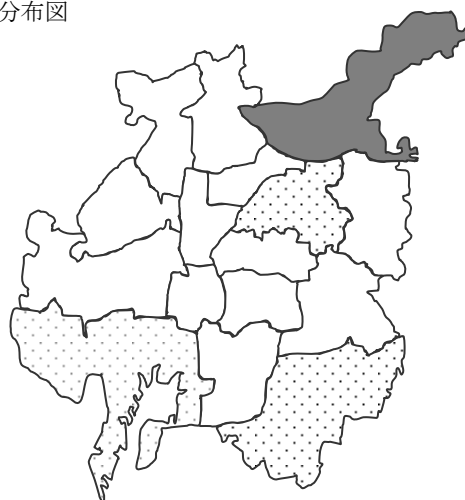
【国内の分布】

北海道、本州、九州。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸、シベリア。基準変種はヨーロッパに分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の日当たりのよい湿地に生育する。どちらかと言えば泥質の場所に多く、休耕田に群生することもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

尾張では名古屋市内を含めて愛知用水わきの草地に比較的多く見られたが、改修により激減した。緑区には大きな群落があったが、消失した。守山区も将来の存続という点では安心できる状況にない。港区は堤防改修のため消滅したという話だが、正確な現状は確認していない。

【保全上の留意点】

幹線水路沿いの土手は、管理の必要上定期的に草刈りが行われるため、全体的に草地が減少する中で草地性植物のよい逃避地になっている。改修に際してはこれらの植物の最後の「頼みの綱」を断ち切らないよう、適切な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は草レダマで、黄色の花がマメ科小低木のレダマに似ているからと言われるが、「腐れ玉」と誤解する人もいて、あまりよい名ではない。

【関連文献】

保草Ⅰ pp.17-18, 平草Ⅲ p.228.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 アカネ科>

キクムグラ *Galium kikumugura* Ohwi

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 3、総点 15。名古屋市では生育地が極めて少なく、存続
の基盤が脆弱である。

名古屋市2015	絶滅危惧IB類
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎はやわらかく、斜上して長さ 20～40cm になる。葉は 4 枚輪生し、楕円形～狭倒卵形、長さ 6～15mm、幅 3～8mm、先端は円頭または鈍頭で短く尖り、辺縁に上向きの剛毛がある。花期は 5～6 月、枝先や葉腋から花序を出し、1～3 個の花をつける。小花柄はほとんどないものから 5mm くらいのもので長さが不同で、その基部に 1 個の披針形の苞がある。花冠は白色で 4 深裂し、直径約 1mm である。果実は楕円形で、上向きに曲がった毛がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

中区（名古屋城、鳥居ちゑ子 2303, 2003-5-9）に生育している。守山区（竜泉寺山、稲垣貫一 s.n., 1946-5-6, CBM109199）で採集された標本もある。

【県内の分布】

愛知県では希少な植物で、名古屋市のほか、鳳来北東部、作手、江南丹羽、一宮西部の 4 区画で確認されているにすぎない。犬山で採集された標本もある。

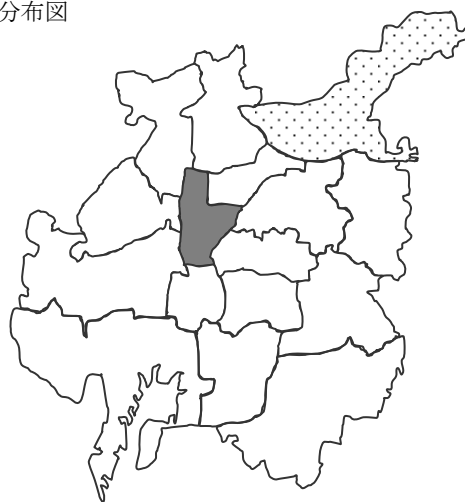
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

通常は山地の林縁などに生育する。ただし愛知県の場合、江南丹羽と尾西祖父江は木曽川の河川敷である。特別な環境の場所に生育しているわけではないが、それでいて生育地が少ない植物である。

【現在の生育状況／減少の要因】

堀の土手斜面に、10 数株が小群落となって生育していた。ごく最近の状況は確認されていないが、そのまま存続していると思われる。しかし小型で目立たない植物なので、除草作業などで失われてしまうおそれもある。

【保全上の留意点】

管理者に貴重な植物であることを認識してもらう必要がある。

【特記事項】

花序に小さい苞があることがよい特徴である。目立たない植物なので、他にも自生地がないか、今後更に注意して探索する必要がある。

【関連文献】

保草 I p.112, 平草 III p.54, SOS 旧版 p.74, 愛知県 p.569.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 リンドウ科>

リンドウ *Gentiana scabra* Bunge var. *buergeri* (Miq.) Maxim.**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 4、
県内分布 1、総点 14。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧IB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は直立または斜上し、高さ30～100cmになる。葉は対生し、無柄、葉身は線状披針形～広披針形、長さ4～10cm、先端は長く尖り、基部は円形、3脈が目立ち、辺縁には微小な突起がある。花期は10～11月、花は茎の先端と葉腋につき、花冠は紫色で、内面に褐色の斑点があり、長さ4～5cm、先端は5裂し、裂片の間に小形の副裂片がある。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味東谷、鳥居ちゑ子 216, 1992-10-25; 小幡緑地、芹沢 54030, 1989-10-26）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河には点在する。尾張ではやや少なく、特に林地に生育する狭義のリンドウの型は生育地が限られている。ホソバリンドウ型のものは、名古屋市のほか瀬戸尾張旭、長久手日進、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、春日井などに生育している。

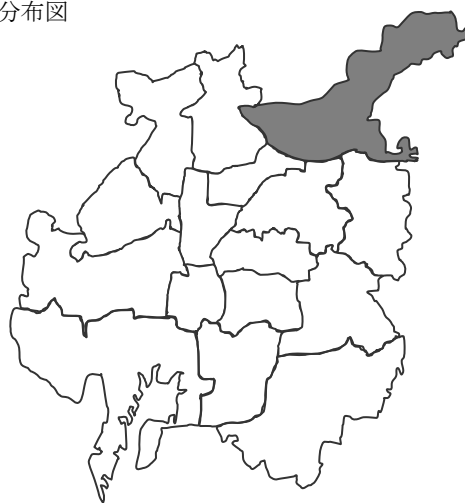
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球（奄美諸島）。

【世界の分布】

日本固有。基準変種 var. *scabra* は朝鮮半島、中国大陸に分布する。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

一般的には山地や丘陵地の明るい林内や林縁に生育するが、湿地に生育することもある。湿地に生育するものは葉が細く、ホソバリンドウ form. *stenophylla* (H.Hara) Ohwi として区別されることがある。名古屋市のものはホソバリンドウの型である。

【現在の生育状況／減少の要因】

毎年変わらない状態で開花する生育地もあるが、個体数が少ないので、園芸目的で採取する人がいれば容易に絶滅してしまう。観察者やカメラマンによる攪乱も懸念される。ある道路沿いの湿地では、1990年頃には10数株が開花していたが、次第に減少し、2003年には1株開花しただけであった。

【保全上の留意点】

名古屋市東部を含む愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地は、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、絶滅危惧種も多く、優先して保全すべき場所である。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形をあわせて保全する必要がある。また、湿地が小さい場合は周囲の森林を伐採し、光条件を確保する必要がある。その一方で、湿地自体にはなるべく立ち入らない配慮が必要である。

【特記事項】

湿地の花の中では、ウメバチソウやヤマラッキョウとともに、最も遅く咲くものの一つである。

【関連文献】

保草Ⅰp.221, 平草Ⅲp.31.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 リンドウ科>

イヌセンブリ *Swertia diluta* (Turcz.) Benth. et Hook.f. var. *tosaensis* (Makino) H.Hara**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、
県内分布 1、総点 14。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

1 年生または越年生の草本。茎は直立してしばしば基部から分枝し、高さ 10～30cm になる。葉は対生し、無柄、葉身は倒披針形、長さ 2～5cm、幅 4～10mm、先端は鈍頭、辺縁は全縁である。花期は 10～11 月、花は茎の上部の枝先にまばらな円錐状につき、花冠は白色で淡紫色の条があり、直径約 15mm、5 裂し、裂片は披針形で長さ 8～10mm、基部に 2 個の蜜腺があり、そのまわりに長い毛がある。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区(中志段味, 芹沢 88192, 2012-10-27)に生育している。千種区(田代町鹿子殿, 芹沢 54035, 1989-10-26)と名東区(猪高緑地, 鳥居ちゑ子 219, 1992-11-23)にも生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか、鳳来南部、作手、新城、豊川、豊橋北部、田原東部、田原西部、豊田北西部、岡崎北部、岡崎南部、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、常滑、小牧、春日井で確認されている。ただしこのうちの一部では、すでに絶滅しているかもしれない。

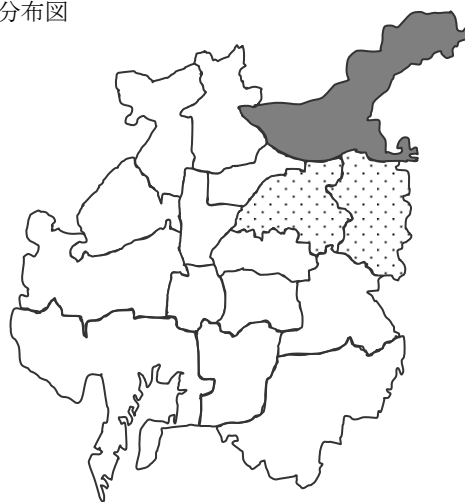
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

ため池の周辺、谷戸田の周辺などの湿った草地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区ではため池の岸に小群落がある。平和公園では湿地の林縁部に小群落があったが、遷移の進行により森林化が進行し、被陰されて消失した。猪高緑地ではやせ山に点々と 100 株程度が生育していたが、公園整備により生育地が破壊され、絶滅した。

【保全上の留意点】

ほとんどが都市化されている名古屋市では、緑地公園の中で未整備のまま一般市民が利用しにくい状態になっている場所は、野生生物にとって貴重な生活の場となっている可能性がある。そのような未整備地が生物多様性保全に果たしている重要な役割をよく認識する必要がある。特に地形を改変するような工事を行う場合には、十分な事前調査が必要である。

【特記事項】

センブリに似ているが苦味がなく薬用にならないので、イヌセンブリという。センブリと異なり、湿地性の植物である。

【関連文献】

保草Ⅰ p.216, 平草Ⅲ p.35, 環境庁 p.512, SOS 旧版 p.71+図版 23, SOS 新版 p.114, 愛知県 p.565.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ナス科>

マルバノホロシ *Solanum maximowiczii* Koidz.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 15。山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

つる性の多年生草本。茎は無毛で、長さ2～3mになる。葉は互生し、葉身は長楕円形または狭卵形、長さ5～10cm、先は尾状にのび鈍端、基部はくさび形に狭まって翼のある柄に続き、全縁、辺縁にわずかに短毛があるほかは両面とも無毛である。花期は8～9月、葉に対生して、または茎の途中にまばらに分枝する集散花序をつける。花冠は淡紫色、深く5裂し、直径約1cm、開花すると背面に反り返る。液果は球形、直径7～10mm、赤色に熟す。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山、鳥居ちゑ子 2018, 2001-8-31）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には比較的多いが、尾張では少なく、名古屋市のほかは瀬戸尾張旭と春日井で確認されているだけである。

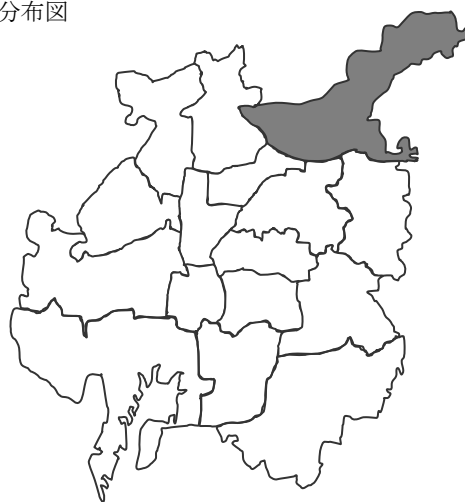
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林縁に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では、唯一の山地状の場所である守山区東谷山に生育している。もともと個体数は少なく、2014年に確認できたのは1株だけである。生育地が山麓の林縁部なので、工事等により失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

多少攪乱された場所にも生育できる植物であるが、それでも過度の攪乱には耐えることができない。種子が鳥類により散布される植物なのでそれなりに分布を拡大する力はあると思われるが、とりあえずは生育地の地形を保全することが必要である。

【特記事項】

他の場所にも生育していないか、更に探索する必要がある。

【関連文献】

保草Ⅰp.158, 平草Ⅲp.95.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 オオバコ科>

オオアブノメ *Gratiola japonica* Miq.

カテゴリー

【選定理由】

生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 2。全国的に減少傾向の著しい水田雑草で、名古屋市でも生育地が少ない。現存は確認できないが、どこかで再認識される可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧ⅠB類と評価した。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

1年生草本。茎は肉質で柔らかく、直立して高さ10～20cmになる。葉は対生し、無柄、葉身は披針状楕円形、長さ1～3cm、幅2.5～7mm、先端は鈍頭、辺縁には鋸歯がなく、無毛、基部は多少茎を抱く。花期は5～6月、花は上部の葉腋に1個ずつつき、多くは花冠が開かない閉鎖花、がくは5深裂し、長さ3～4mmである。通常花の花冠は白色、短い筒形で長さ4～5mm、5裂してやや2唇形となる。蒴果は球形で長さ3～4mmである。

【分布の概要】

【市内の分布】

名東区(猪高緑地、芹沢 84010, 2009-5-16)、天白区(荒池緑地、芹沢 82922, 2008-6-21 など)、緑区(大高町蛇池、渡邊幸子 4755, 2001-6-17)で採集された標本がある。

【県内の分布】

東三河と西三河では極めて稀であるが、尾張では比較的多く、名古屋市のほか瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、常滑、犬山、岩倉西春日井、稲沢、津島愛西で確認されている。

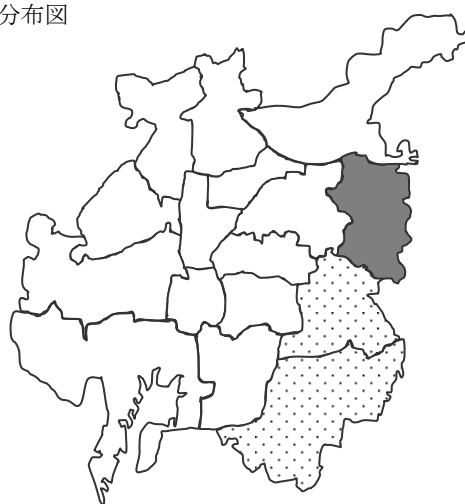
【国内の分布】

本州(宮城県以南)、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆、ウスリー。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

耕起前の水田や休耕田に生育することが多いが、河川やため池の岸などの低湿地に生育することもある。名古屋市の場合、名東区は水田、緑区はため池の岸であった。

【現在の生育状況／減少の要因】

生育状況が不安定な植物で、継続して確認できる場所はほとんどなく、時折見かける割に確実に観察することは難しい。おそらくは耕地整理や除草剤の使用、それに農耕様式の変化により耕起時期と開花・結実期が重なるようになったことなどのため減少し、現在の状態に至ったものと思われる。名古屋市の自生地のうち天白区では緑地の中に作られた小水路のわきに小群落があったが、その後見られなくなった。緑区蛇池は多数の株が生育していたが、コンクリートで護岸され、2014年には全く確認できなかった。緑区では鳴海町神ノ倉にもあったが、生育していた水田が埋め立てられ、見られなくなった。

【保全上の留意点】

水田雑草であり、生育状況も不安定であるため、効果的な保全対策は立てにくい。旧来の水田の状態を残す未整理の湿田は、文化財的な価値もあり、少なくとも一部分はできるだけそのままの形で保全する必要がある。

【特記事項】

水田雑草は秋に開花するものが多く、本種のように初夏に開花するものは少ない。名古屋市産の植物の彩色画は、2004年版図版8に掲載されている。2014年のレッドリスト案では絶滅危惧Ⅱ類として掲載したが、その後の調査により評価が変更された。

【関連文献】

保草Ⅰp.147, 平草Ⅲp.102, 環境庁p.526, SOS旧版p.79+図版25, SOS新版p.139, 愛知県p.578.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 シソ科>

ヤマハッカ *Isodon inflexus* (Thunb.) Kudô**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、
県内分布 1、評価点 14。草地性の植物で、名古屋市では生育地が
極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。地下茎は塊状で木質化する。地上茎は斜上し、長さ60～100cmになる。葉は対生し、有翼の柄があり、葉身は広卵形～三角状広卵形、長さ3～6cm、先端は鋭頭～やや鈍頭、辺縁にはあらい鋸歯がある。花期は9～10月、上部の葉腋に短い集散花序がついて全体としてまばらで細かい穂状になり、がくは5中裂し、花時に長さ2.5～3mm、花冠は長さ7～10mm、青紫色で、上唇に紫色の斑点がある。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（下志段味庄内川堤防、鳥居ちゑ子
566, 1993-10-9）に生育していた。

【県内の分布】

山地には普通に見られる植物で、丘陵地にも
点在しており、尾張では名古屋市のほか瀬
戸尾張旭、豊明東郷、東海知多、美浜南知多、
犬山、小牧、春日井、岩倉西春日井で確認さ
れている。

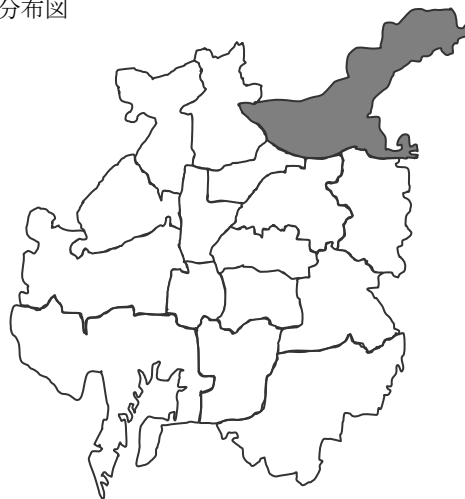
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

代表的な草地性の植物の一つで、日当たりのよい草地や林縁に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

庄内川の堤防に20株ほど生育していたが、最近の状況は確認されていない。

【保全上の留意点】

河川の堤防は、管理の必要上定期的に草刈りが行われるため、平野部では貴重な草地的環境になっている。堤防の改修に際しては、身近な自然の確保という観点も含めて、適切な配慮が必要である。

【関連文献】

保草Ⅰp.164, 平草Ⅲpp.78-79.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 シソ科>

オドリコソウ *Lamium album* L. var. *barbatum* (Sieb. et Zucc.) Franch. et Sav.**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 14。名古屋市では生育地が極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は四角形で直立し、高さ 40～60cm になる。葉は対生し、長さ 1～5cm の柄があり、葉身は卵状三角形～広卵形、長さ 5～10cm、幅 3～6cm、先端は鋭尖頭、基部は浅い心形、辺縁には欠刻状の鋸歯がある。花期は 4～5 月、花は上部の葉腋につき、白色～微紅色、長さ 3～3.5cm、がくは 5 裂し、裂片は針状で長さ 6～8mm、花筒は基部で湾曲して立ち上がり、先で上下に 2 裂する。

【分布の概要】**【市内の分布】**

西区（枇杷島町庄内川、鈴木秀樹 1692、1996-4-14）で採集された標本がある。

【県内の分布】

全国的には普通種であるが、愛知県ではどういうわけかやや稀な植物である。尾張では名古屋市のほかは、美浜南知多、犬山、江南丹羽、一宮東部、一宮西部で確認されているにすぎない。

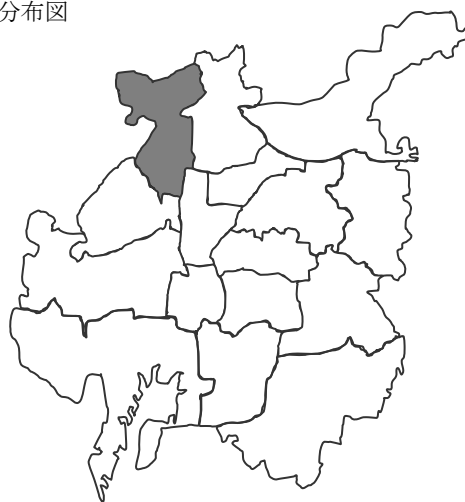
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

千島列島南部、サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

路傍や河岸の草地、林縁などに生育し、群生することが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

最近の状況は確認されておらず、個体数は見込み値である。

【保全上の留意点】

河川敷の低湿地は、平野部の本来の自然の姿を残す貴重な場所である。河川改修や河川敷の利用に当たっては、このような自然特性を根底から破壊しないよう、適切な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は立ち上がった花の姿が、笠を被った踊子に似ているからである。

【関連文献】

保草Ⅰp.180, 平草Ⅲp.91.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 シソ科>

オカタツナミソウ *Scutellaria brachyspica* Nakai et H.Hara**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 4、
県内分布 1、総点 15。名古屋市では生育地が極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は束生して直立し、高さ 30～50cm になり、下向きの毛を密生する。葉は数対が対生し、1～2cm の柄があり、葉身は広卵形～三角状卵形、長さ 2～5cm、上部ほど大きくなり、先端は鈍頭、基部は切形～やや心形、辺縁にはあらい鈍鋸歯がある。花期は 5 月、茎の先端にやや密な短い花穂をつくり、花冠は淡紫色、基部で曲がって立ち上がり、長さ 20～25mm である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（芹沢 88395, 2013-5-25）に生育している。

【県内の分布】

低山地に点在するが、東三河北部の山地には分布しておらず、平野部にもない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、美浜南知多、犬山、小牧、春日井に生育している。

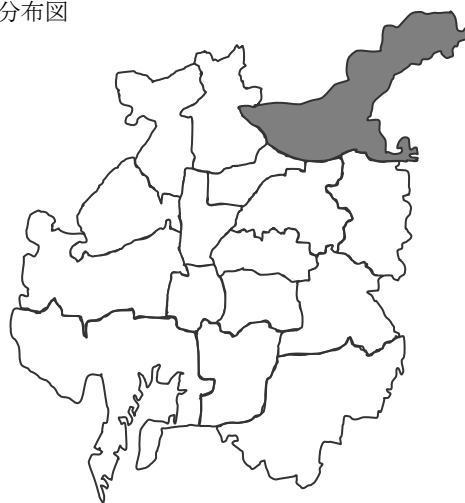
【国内の分布】

本州および四国。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

丘陵地の林縁や明るい林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

以前は大きな群落があり、生育状態も良好であったが、開発のため生育地の大部分が破壊された。現在では隣接する別の谷に小群落があるだけである。花が目立つため、園芸目的の採取も懸念される。

【保全上の留意点】

何よりもまず、丘陵地の地形を保全することが必要である。園芸目的の採取や観察者・カメラマンによる攪乱を防止するため、詳細な分布情報の公表に際しては慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

名古屋市内には 4 種のタツナミソウ類が生育しているが、いずれも希少で、絶滅が危惧される。

【関連文献】

保草Ⅰp.186, 平草Ⅲp.77.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 シソ科>

イガタツナミ *Scutellaria kurokawae* H.Hara**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 14。名古屋市では生育地が極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は少数が束生し、直立して高さ 20～30cm になり、開出する長い白毛が多い。葉は数対が対生し、長さ 1～2.5cm の柄があり、葉身は広卵形～卵心形、長さ 1.2～2.5cm で通常下部のものが大きく、先端は鈍頭、基部は浅心形、辺縁に円鋸歯があり、裏面はしばしば紫色を帯びる。花期は 6 月。茎の先端に長さ 2～6cm の穂状の花序をつける。花はややまばらにつき、花冠は淡紫色、長さ 15～20mm である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（大森八竜、鳥居ちゑ子 1767、2000-6-1 など）に生育している。

【県内の分布】

低山地や丘陵地に点在し、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、大府東浦、半田武豊、常滑、美浜南知多、小牧、春日井で確認されている。愛知県の丘陵地では最も多く見られるタツナミソウ類である。

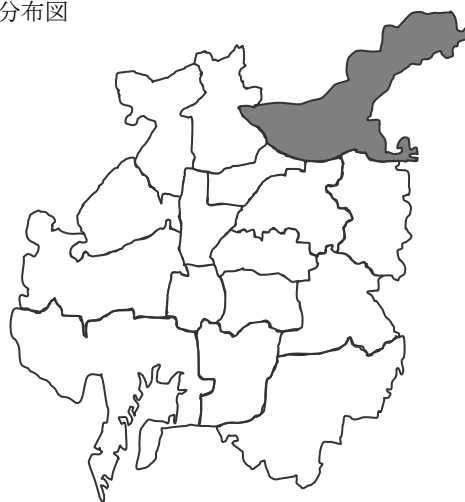
【国内の分布】

本州（福島県以西）、四国。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

林内や林縁に生育することが多いが、時には耕作地周辺の草地にも見られる。

【現在の生育状況／減少の要因】

大森八竜では宅地化された場所に隣接した林縁に 20 株ほどの小群落があったが、踏みつけなどの影響で次第に減少し、ほとんど消失した。

【保全上の留意点】

生育地の地形を保全することが必要である。同属の他種と比較すれば、園芸目的の採取による影響は少ないと思われる。

【特記事項】

イガタツナミソウと呼ばれることもある。名古屋市内には 4 種のタツナミソウ類が生育しているが、いずれも希少で、絶滅が危惧される。2014 年のレッドリスト案では絶滅危惧Ⅱ類として掲載したが、その後の調査により評価が変更された。

【関連文献】

保草Ⅰp.185, 平草Ⅲp.77.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 シソ科>

ニガクサ *Teucrium japonicum* Houtt.**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 15。名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧IB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。地下に細い走出枝を出す。茎は四角形で直立し、高さ 40～70cm になる。葉は対生し、長さ 8～20mm の柄があり、葉身は卵状長楕円形～広披針形、長さ 5～10cm、先端は鋭頭、辺縁には鈍鋸歯がある。花期は 7～9 月、花序は茎の先端部に集まってつき、長さ 3～10cm、がくは長さ約 4mm、短毛のみで腺毛はなく、上歯は鋭頭、花冠は淡紅色、長さ 10～12mm である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味新東谷橋付近、日比野修 4550, 1998-6-28）、西区（枇杷島町庄内川河川敷、鈴木秀樹 2966, 1997-8-7）で採集された標本がある。移入と思われるものは、天白区（元八事三丁目、渡邊幸子 1726, 1994-7-20）でも採集されたことがある。

【県内の分布】

平野部～低山地に点在しており、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、常滑、美浜南知多、犬山、春日井、岩倉西春日井、一宮西部、津島愛西で確認されている。

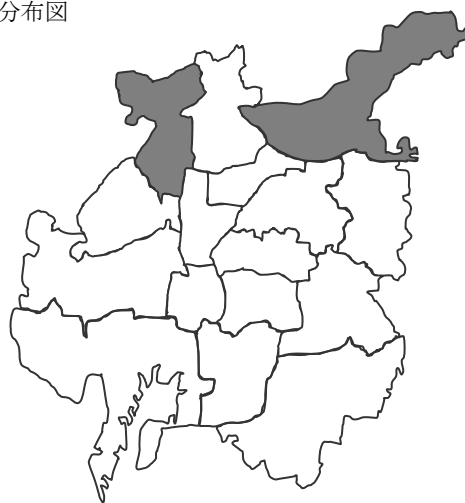
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

湿った林縁に生育する。丘陵地にもあるが、平野部河川敷低湿地のヤナギ林などでもよく見かける。名古屋市の生育地も、庄内川の河川敷である。

【現在の生育状況／減少の要因】

どちらも小群落であったが、最近の状況は確認されていない。個体数階級は見込み値である。

【保全上の留意点】

ため池の周辺や河川敷に残存する低湿地的環境を保全することが必要である。

【特記事項】

ツルニガクサ *T. viscidum* Blume var. *miquelianum* (Maxim.) H.Hara からは、全体に大型で、がくに腺毛がないことで区別される。細い走出枝を出すという特徴は、本種もツルニガクサも同じである。

【関連文献】

保草 I p.191, 平草 III p.75.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キク科>

ヌマダイコン *Adenostemma lavenia* (L.) Kuntze

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 2、総点 15。低湿地性の植物で、名古屋市では生育地
が極めて少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧IB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は直立し、下部では分枝せず、高さ 40～90cm になる。葉は対生し、5～9 対が茎の中上部に分散してつき、長さ 1～5cm の柄があり、葉身は卵形～長卵形、長さ 4～18cm、3 脈がやや目立ち、先は鋭頭で鈍端、基部はくさび形で葉柄に流れ、辺縁には低い鈍鋸歯がある。花期は 8～10 月、花序は茎の先端にまばらな散房状につき、花時に直径 5～6mm、総苞は長さ約 4mm、総苞片は 2 列につく。小花の花弁は白色で長さ 2.5～3mm、先は 5 裂する。そう果は棍棒状、長さ約 4mm、表面に小こぶ状の隆起があり、4 個の短くて粘液を分泌する冠毛がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味大村池、芹沢 88985、
2013-10-5 など）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、新城、田原東部、田原西部、足助、藤岡、豊田東部、豊田北西部、岡崎北部、瀬戸尾張旭、津島愛西の 10 区画で確認されている。

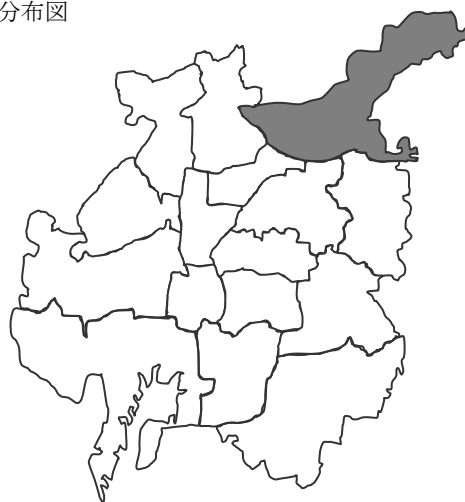
【国内の分布】

本州（関東地方以南）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、台湾、マレーシア、インド、オーストラリア。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

河川敷やため池の周辺などの湿った草地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

上志段味ではところどころに生育していたが、土地造成やため池の改修により消失してしまった場所もある。

【保全上の留意点】

多少攪乱された場所に生育する植物であるが、それでも過度の攪乱には耐えることができない。生育地のため池周辺の自然環境を、全体として保全することが必要である。

【特記事項】

オカダイコン *A. madurense* DC. は丘陵地～低山地の林内などに生育し、葉は茎の中部に集まる傾向が強く、葉縁の鋸歯が鋭く、そう果の表面が平滑なもので、県内では鳳来北東部、鳳来北西部、作手、新城、豊川、蒲郡、豊橋北部、豊橋南部、額田、岡崎北部、幸田に分布しているが、名古屋市を含む尾張では知られていない。

【関連文献】

保草 I p.69, 平草 III p.212.

Koyama, H. 2001. *Adenostemma lavenia* and its allies (Compositae) in Japan, China and Thailand. Mem. Natl. Mus. Nat. Sci. (37):159-168.

(執筆 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キク科>

イナカギク *Aster ageratoides* Turcz. subsp. *amplexifolius* (Sieb. et Zucc.) Kitam.**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 14 やや山地性の植物で、名古屋市では生育地
が極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧IB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は通常斜上し、長さ50～100cmになり、白い短毛を密生し、基部から匍匐枝を出す。葉は互生し、無柄、葉身は長楕円状披針形、長さ6～12cm、幅1.5～3cm、鋭尖頭、下部は急に狭くなって、基部はやや茎を抱き、両面に白い短毛を密生する。花期は9～11月。頭花は枝先に散房状につき、白色、直径約2cm、そう果の冠毛は淡褐色で、長さ3.5～4mmである。

【分布の概要】**【市内の分布】**

名東区（猪高緑地、鳥居ちゑ子 2047、
2001-10-23）に生育している。

【県内の分布】

東三河南部、西三河、尾張西部の低山地では、やや普通に見られる。しかし丘陵地には少なく、東三河北部の山地にも少ない。尾張では名古屋のほか、瀬戸尾張旭、美浜南知多、犬山、小牧、春日井に生育している。

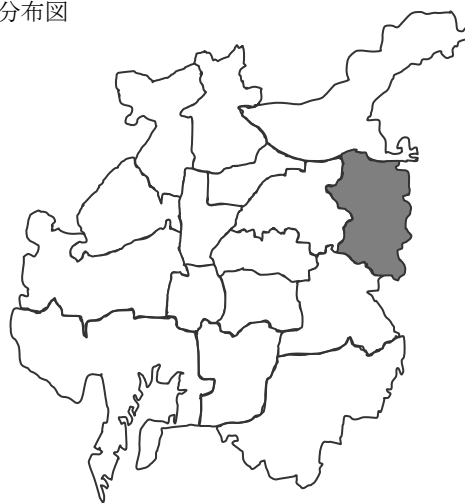
【国内の分布】

本州（東海地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地の林縁や草地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

もともとは落葉広葉樹二次林の林縁に生育していたものと思われるが、現在ではモウソウチクが繁茂し、竹林内に貧弱な個体が少数残存しているにすぎない。このままでは遠からず消滅するものと思われる。

【保全上の留意点】

竹林の増加は、里山の保全を考える上で最も深刻な課題の一つである。竹林内は一年中光条件が悪く、しかも落葉が厚く堆積し、手入れの悪い場所ではほとんど林床植物が生育できない状態になってしまう。竹林は日本の自然環境要素としては本来存在しなかったものと考えられており、利用しないならばできれば排除すべきものである。

【特記事項】

シロヨメナ subsp. *leiophyllus* (Franch. et Sav.) Kitam.は茎や葉に毛が少なく、葉の基部はくさび形で短柄があるもので、名古屋市ではまだ確認されていない。

【関連文献】

保草I p.83, 平草III p.197.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キク科>

ウラギク *Aster tripolium* L.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 15。塩湿地性の植物で、名古屋市では生育地が
極めて少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧IB類
愛知県2015	国リスト
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

越年生草本。茎は直立して上方で分枝し、高さ 40～80cm になる。葉は互生し、無柄、葉身は披針形、長さ 6.5～15cm、幅 0.6～1.5cm、先端は鋭頭、基部はやや茎を抱き、無毛で肉質である。花期は 10～11 月、茎の上部に、多数の頭花を散房状につける。頭花は直径 2.5～3cm、総苞は筒状で長さ約 7mm、総苞片は 3 列にならび、外片は披針形で長さ 2.5～3mm、鈍頭、辺縁に短い毛があり、内片は円頭で紫色をおびる。舌状花の花冠は淡青紫色で、舌部は長さ 7～10mm である。そう果は狭長楕円形、長さ 2.5～3mm、扁平で有毛、冠毛は花時には長さ 5mm 程度であるが、果時には 14～16mm に伸びる。

【分布の概要】

【市内の分布】

港区（当知町庄内川河川敷、芹沢 83580, 2008-10-12）に生育している。南区（加福町、高木順夫 5628, 1997-11-1）にも生育していたが、そこでは絶滅した。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊川、蒲郡、豊橋南部、田原東部、田原西部、刈谷知立、高浜碧南、西尾北部、西尾南部、大府東浦、東海知多、半田武豊、海部南部で確認されている。三河湾沿岸には多いが、伊勢湾愛知県側には少ない植物である。

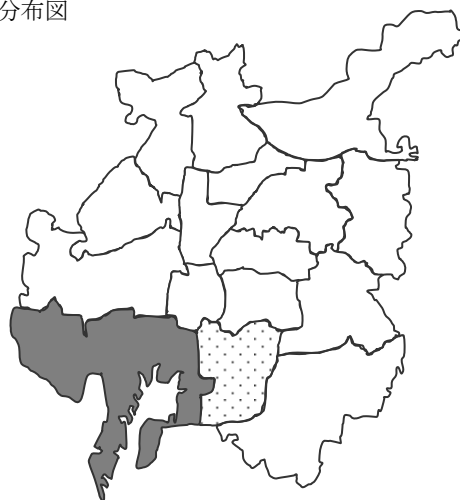
【国内の分布】

北海道東部、本州（関東地方以西の太平洋側）、四国、九州。

【世界の分布】

アジア、ヨーロッパ、アフリカ北部に広く分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

内湾の塩湿地や河口部の河川敷などに生育するほか、埋立地の水路などに生育していることもある。ある場所では群生していることが多く、花時には美しい。

【現在の生育状況／減少の要因】

南区加福町では数十株が生育していたが、一般廃棄物最終処分場建設のため埋め立てられて絶滅した。庄内川河口部でも、右岸側はヨシが繁茂し、ほぼ消滅した。しかし軽度の攪乱があれば、個体数は回復すると思われる。

【保全上の留意点】

本種の生育地である内湾部や河口部は開発圧力が極めて高く、注意して自然環境を保全する必要がある。塩湿地性の植物は全体的に目立たないものが多いが、その中で本種はハマボウと共に花が美しく、象徴としての意味も大きい。「本種がなくなったら塩湿地性植物は全滅」という意味で、注目してよい植物である。

【特記事項】

ハマシオンとも呼ばれる。最近では学名として *Tripolium pannonicum* (Jacq.) Schur が使われることもある。

【関連文献】

保草 I p.80, 平草 III p.194, 環境庁 p.543, SOS 新版 p.154, 愛知県 p.640.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キク科>

オケラ *Atractylodes japonica* Koidz. ex Kitam.**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 14。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地
も個体数も極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。太い地下茎がある。地上茎は上部で分枝し、高さ 30～100cm になる。葉は互生し、長い柄があり、葉身は 3～5 深裂し、質は硬く、辺縁に鋭い細鋸歯がある。花期は 9～10 月、雌雄異株で、頭花は茎や枝に頂生し、直径 2～2.5cm、総苞は鐘形で長さ約 17mm、外側に 2 列に並んだ針状に羽裂した苞がある。小花は雄花では長さ 10～12mm、雌花では長さ 9～11mm、白色または淡紅色、冠毛は褐色を帯び、長さ 8～9mm である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味東谷、鳥居ちゑ子 797、
1994-10-15）に僅かに生育している。

【県内の分布】

低山地に点在する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、豊明東郷、春日井で確認されている。

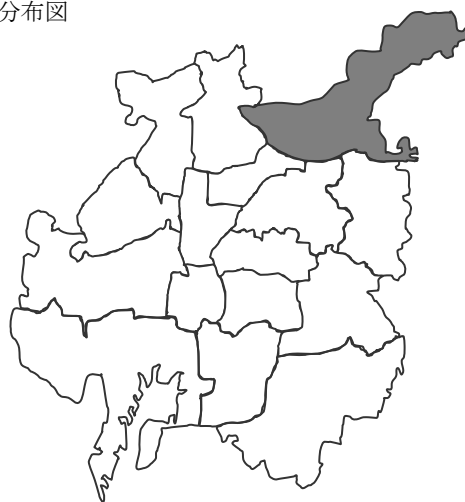
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地や丘陵地の草地、林縁、明るい林内などに生育する。散在し、あまり群生しない植物である。

【現在の生育状況／減少の要因】

愛知用水沿いの斜面に生育していたが、改修工事の際に山裾が削られてほとんど失われ、その上側の低木の間にわずかに残存していた。ごく最近の状況は確認されておらず、個体数は見込み値である。

【保全上の留意点】

生育地の地形を保全することが必要である。

【特記事項】

地下茎は漢方で健胃薬とされる。2014 年のレッドリスト案では絶滅危惧Ⅱ類として掲載したが、その後の情報集約により評価が変更された。

【関連文献】

保草Ⅰp.18, 平草Ⅲp.225.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キク科>

ミズギク *Inula ciliaris* (Miq.) Maxim.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 4、県内分布 1。本地域の湧水湿地を特徴づける温帯性植物の一つで、名古屋市では生育地が極めて少ない。総点は 16 であるが、他の場所にも残存している可能性があるため、絶滅危惧ⅠB類と判定する。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、上部で多少分枝し、高さ 25～50cm になる。根出葉は花時にも残存し、さじ形、長さ 4～10cm、幅 8～15mm、はじめ毛が多く、全縁である。茎葉は互生し、全縁、基部はやや茎を抱く。花期は 6～10 月、頭花は枝の先端に 1 個、上向きにつき、黄色、直径 3～4cm である。総苞は半球形、総苞片はほぼ同長、外片は狭長楕円形で、密に毛がある。そう果は長さ約 1.5mm、冠毛があり、表面にはまばらに毛がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根長廻間、村松正雄 18565, 1999-7-23）に生育している。千種区（覚王山、沢井輝男 s.n., 1932-8-6）、天白区（平針、犬飼清 s.n., 1967-9-16）で採集された標本もある。

【県内の分布】

名古屋市のほか、作手、豊川、豊橋北部、田原東部、田原西部、下山、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、額田、岡崎北部、岡崎南部、幸田、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、半田武豊、常滑、知多南部、春日井の 21 区画で確認されている。新城で採集された標本もある。温帯性の植物であるが、県東北部の山地には分布していない。

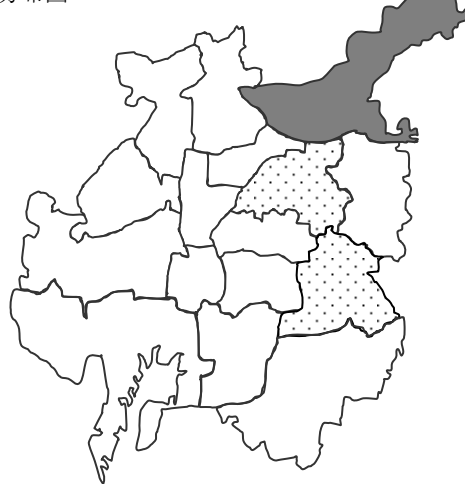
【国内の分布】

本州（近畿地方以東）および九州（宮崎県）。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

一般には山地の湿地に生育する。愛知県では丘陵地の湧水湿地に点在する。

【現在の生育状況／減少の要因】

1ヶ所の湿地に、少数の個体が生育している。もともとはあちこちに生育していたが、開発により生育地が減少し、現在の状態に追い込まれたものと思われる。花が目立つため、目につきやすい場所では園芸目的で採取されることもある。観察者やカメラマンによる踏み荒らしも無視できない。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地は、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、優先して保全すべき場所である。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湿地を涵養する水源部もあわせて保全する必要がある。その一方で、本種は花が比較的目立つため、本来生育していなかった湿地に移植しようとする動きもある。このような移植は、植え込みの時に湿地を攪乱し、その場所にもともとあった植物に悪影響を与えるだけでなく、植物の本来の分布を混乱させてしまう。植物の分布には歴史性があり、ないものは「ない」のがその湿地の個性である。かつてあったがなくなってしまった湿地に移植することも、原則として行ってはならない。

【関連文献】

保草Ⅰ p.69, 平草Ⅲ p.203, SOS 旧版 p.87, SOS 新版 p.99, 愛知県 p.558.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キク科>

カシワバハグマ *Pertya robusta* (Maxim.) Makino

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 4、
県内分布 1、総点 14 やや山地性の植物で、名古屋市では生育地
が極めて少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。地下茎は横にはう。茎は直立し、分枝せず、高さ 30～70cm になる。葉は茎の中央部にやや集まってつき、下部のものには長く、上部のものには短い柄があり、葉身は卵状長楕円形、長さ 10～20cm、先端は鋭頭、辺縁にあらい歯牙がある。花期は 9～11 月、頭花は茎の上部に穂状に数個つき、総苞は長さ 17～27mm、外片は扁円形、内に 10 個前後の小花がある。そう果は長さ 10～11mm。冠毛は褐色を帯び、不ぞろいで、長さ 13～15mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山、飯尾俊介 102, 2002-10-3; 中志段味宮前、鳥居ちゑ子 2208, 2002-9-30）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地に点在する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井に生育している。

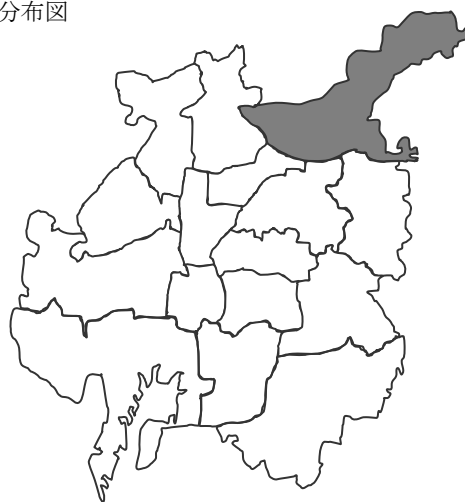
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地のやや明るい林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では 2 ヶ所にあるが、どちらも個体数はごく少ない。中志段味では造林地の中に生育しているが、草刈りの時期によっては生育を確認できない年もある。

【保全上の留意点】

丘陵地の地形を保全することが必要である。また東谷山は、本種を含めて名古屋市では希少な植物が多数生育している場所である。湿地周辺については伐採が望まれる場所もあるが、それ以外は攪乱や植栽などを極力回避し、できるだけ現在の自然状態を保全するべきである。

【特記事項】

クルマバハグマ *P. rigidula* (Miq.) Makino はより山地性で、尾張では瀬戸尾張旭と犬山に生育している。

【関連文献】

保草Ⅰp.19, 平草Ⅲp.209.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 スイカズラ科>

タニウツギ *Weigela hortensis* (Sieb. et Zucc.) K.Koch

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 14。日本海側に分布の中心を持つ植物で、名古屋
市では生育地も個体数も極めて少ない

名古屋市2015	絶滅危惧IB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の低木。高さ5mに達する。葉は対生し、長さ3~10mmの柄があり、葉身は楕円形~卵状楕円形、長さ4~10cm、先端は鋭尖頭、基部は広いくさび形または円形、辺縁には小さい鋸歯があり、裏面に白色の軟毛を密生する。花期は5~6月、花は枝の先端や葉腋から出る短枝に2~3個ずつつき、花冠は長さ2.5~3.5cm、淡紅色だがつぼみの時は色が濃く、筒部は上部が鐘状にふくらみ、先端は5裂して直径2cm程度になる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味庄内川堤防、鳥居ちゑ子 3345, 2014-5-6）に生育している。守山区の他の場所（下志段味小学校南、日比野修 4413A, 1998-4-29）でも採集されている。東谷山で撮影されたという写真は、安原（1990）に掲載されている。緑区（鳴海町水広下、高木順夫 17608, 2009-5-19, NBC72）で採集された標本もあるが、これは植栽と思われる。

【県内の分布】

西三河北部に多く、その周辺にも点在する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、春日井に生育している。

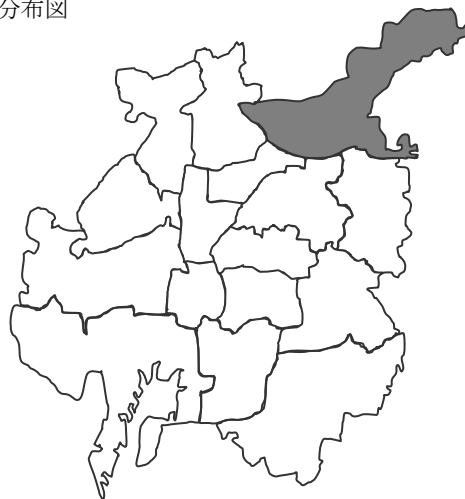
【国内の分布】

北海道および本州の主として日本海側に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

陽性低木で、山地や丘陵地の林縁、攪乱跡地などに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

高さ1.5mほどの株が2株生育している。下志段味では、近くの人のお話では以前はかなりあったらしいが、区画整理により消滅した。

【保全上の留意点】

陽性低木であるため、安定した環境では存続できない。個別的な保全が必要である。

【特記事項】

同属のヤブウツギ *W. floribunda* (Sieb. et Zucc.) K.Koch は、東三河と西三河では普通に見られるが、尾張産の確実な資料はない。2014年のレッドリスト（案）では絶滅としたが、その後の調査で現存が確認された。

【引用文献】

安原修次. 1990. なごや野の花 p.45. エフエー出版, 名古屋.

【関連文献】

保木 I pp.18-19, 平木 II pp.239-240.

(執筆 芹沢俊介)

維管束植物 <シダ植物 コケシノブ科>

ウチワゴケ *Crepidomanes minutum* (Blume) K.Iwats.**【選定理由】**

個体数階級3、集団数階級3、生育環境階級3、人為圧階級3、
県内分布1、総点13。市街地や丘陵地では希少な着生植物である。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

小型の常緑性シダ植物。根茎は長くはい、暗褐色の毛を密生する。葉はまばらにつき、葉柄は長さ10~20mm、細く、翼はない。葉身は扇形~広楕円形、長さ7~15mm、基部は心形~広いくさび形、辺縁は不規則に浅裂~深裂し掌状となる。葉肉部分は薄い膜質で、1層の細胞からなる。包膜は長い鐘形、口縁は広がり全縁、胞子のう床は長く伸びる。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（吉根至来川、村松正雄 27957, 2014-12-24）、中区（名古屋城、高木順夫 10567, 2002-9-14）で確認されている。中区の生育地は名古屋城の石垣で、市街地に生育する例として特に貴重である。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地にはやや普通に見られる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、美浜南知多、犬山、小牧、春日井で確認されている。

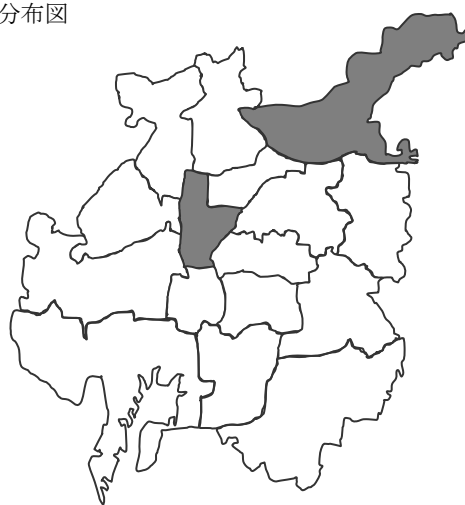
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球に分布するが、東北日本では稀である。

【世界の分布】

旧世界の熱帯に広く分布する。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

林内の岩上や樹幹に着生し、通常群生してマット状となる。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では流れに沿った倒れかけの樹幹に小群落があった。名古屋城では石垣の間に小群落があっただけである。

【保全上の留意点】

守山区の自生地は、名古屋市内ではシダ植物が集中して生育している場所の一つであるが、近くまで造成が迫っている。生育地の保全が必要である。名古屋城の石垣は文化財として保全されているが、小群落なので、乾燥等により消失するおそれがある。

【関連文献】

保シダ pp.44-45, 平シダ p.86.

倉田 悟・中池敏之（編）. 1985. 日本のシダ植物図鑑 5:24-35. 東京大学出版会, 東京.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 チャセンシダ科>

チャセンシダ *Asplenium trichomanes* L.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 13。名古屋市では1ヶ所で生育が確認されているだけで、これが名古屋市を含む尾張地方で唯一の自生地である。

【形態】

常緑性のシダ植物。根茎は短く直立し、葉と枯れた葉柄を多数束生する。葉柄は短く、中軸と共に光沢のある紫褐色で、表側に褐色で薄紙質の狭い翼が2枚つく。葉身は線形、単羽状複生、長さ5~25cm、幅1.2~2cm。羽片は20~30対で長楕円形、長さ5~12mm、幅2~4mm、先端は円頭、基部は広いくさび形、辺縁にはごく浅い鋸歯がある。胞子のう群は各羽片に2~4対つき、長楕円形~線形、長さ約1.5mmである。

【分布の概要】

【市内の分布】

中区（名古屋城、芹沢 78091, 2002-9-14）に生育している。

【県内の分布】

東三河には点在し、西三河でも足助、豊田東部、額田、岡崎北部などに生育している。尾張では名古屋市で確認されているだけである。

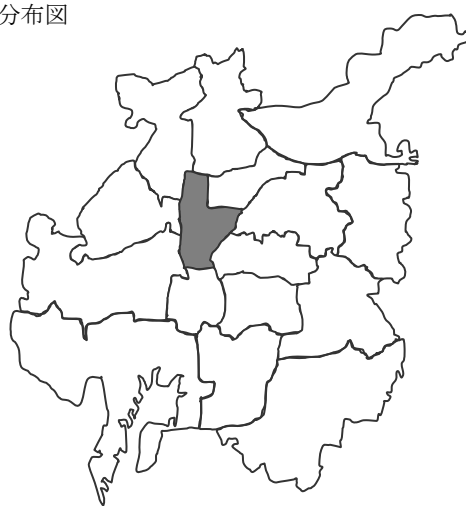
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に広く分布するが、東北日本では少ない。

【世界の分布】

全世界の温帯~暖帯に広く分布している。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

岩場や村落の石垣などに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋城では複数の小群落があり、大きいものは葉長 25cm に達し、生育状況も良好であった。しかし、最近の状況は確認していない。

【保全上の留意点】

生育地は文化財として保全されている場所なので、過度の除草等が行われなければ、将来も存続すると思われる。

【特記事項】

和名は茶筌シダで、多数の枯れた葉柄が束生する状態から名付けられたといわれる。

【関連文献】

保シダ p.149, 平シダ p.149.

倉田 悟・中池敏之（編）. 1985. 日本のシダ植物図鑑 2:196-205. 東京大学出版会, 東京.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 イワデンダ科>

ウスヒメワラビ *Acystopteris japonica* (Luerss.) Nakai

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、
県内分布 1、総点 12。山地性の植物で、名古屋市では生育地も個
体数も極めて少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

夏緑性のシダ植物。根茎は短くはい、接近して少数の葉を出す。葉柄は長さ 20～30cm になり、紫褐色、全体に披針形ではじめ白色、後に淡褐色の鱗片がある。葉身は三角状卵形、長さ 20～50cm、幅 15～40cm、薄い草質、3回羽状に切れ込み、まばらに軟毛がある。羽片は7～8対、ほぼ対生し、ほとんど無柄、中軸から 50～60° の角度で開出する。最下羽片の下側第1小羽片は次の小羽片より著しく短い。胞子のう群は円形、裂片の辺縁寄りにつき、包膜は小さい。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山、鳥居ちゑ子 2352, 2003-8-1; 下志段味穴ヶ洞、村松正雄 17961, 1998-7-27）に生育している。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地には点在する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井に生育している。

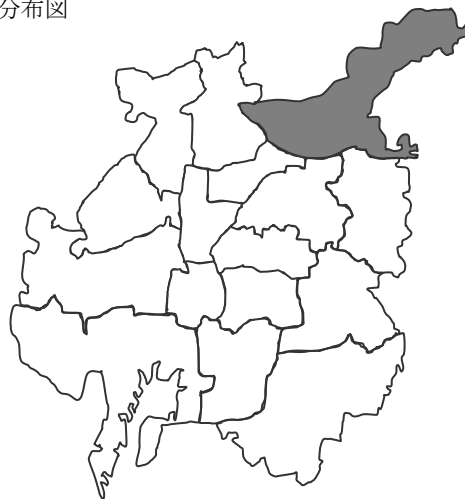
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、中国大陸南西部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区の 2 ヶ所に小群落がある。東谷山は名古屋市では唯一の山地状の場所で、生育地としては安定しているが、このものは葉長が 25cm ほどで、生育状態はあまりよくない。下志段味では、最近の状況は確認されていない。周辺は開発が進んでおり、生育地が失われる可能性もある。

【保全上の留意点】

東谷山には、本種以外にも名古屋市ではこの場所にしか見られない植物が多数生育している。湿地周辺については伐採が望まれる場所もあるが、それ以外は攪乱や植栽などを極力回避し、できるだけ現在の自然状態を保全するべきである。下志段味については、丘陵地の地形を保全する必要がある。

【特記事項】

葉面の直立する軟毛が特徴である。

【関連文献】

保シダ p.118, 平シダ p.228.

倉田 悟・中池敏之（編）. 1987. 日本のシダ植物図鑑 5:400-407. 東京大学出版会, 東京.

（執筆 芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 イワデンダ科>

ヘラシダ *Deparia lancea* (Thunb.) Fraser-Jenk.**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、
県内分布 1、総点 12。名古屋市では生育地も個体数も少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

常緑性のシダ植物。根茎はやや長く這う。葉はやや 2 型性、胞子のう群をよくつける葉の葉柄は長さ 15~30cm、線状披針形で黒褐色の鱗片をつける。葉身は長さ 15~35cm、幅 1.8~3cm の単葉、先端は鋭尖頭、下部は次第に狭くなるが最基部はやや急に狭くなることが多く、辺縁は全縁~浅い波状縁、革質で表面は深緑色である。胞子のう群は線形、長さ 3~10mm である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

天白区（相生山緑地、芹沢 88619, 2013-7-20）に生育している。緑区（神の倉、中島ひろみ 570, 1996-10-28）で採集された標本もある。

【県内の分布】

低山地には広く分布しているが、丘陵地には少ない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、知多南部、小牧、春日井の 4 区画で記録されている。

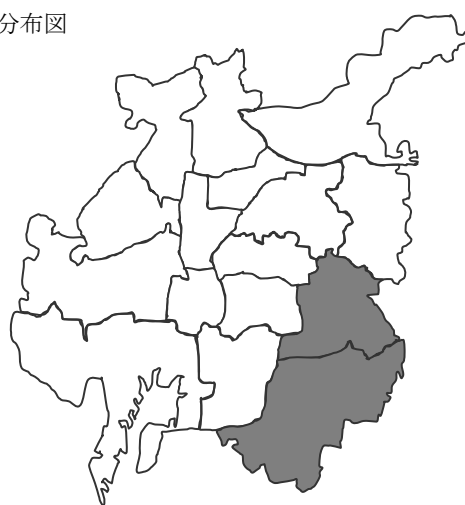
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本からマレーシア、インドにかけて分布している。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

沢沿いの湿った傾斜地や崖地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

天白区では保全緑地の中の小さな流れに沿って小群落があった。緑区は最近の状態が確認されていない。

【保全上の留意点】

生育地自体は今後も保全されると思われるが、小群落なので、何かの事情で消失してしまう可能性がある。一方でていねいに探索すれば、新たな自生地が発見される可能性もある。

【特記事項】

以前は *Diplazium* 属とされることが多く、そのため *Diplazium* 属は一般にヘラシダ属と呼ばれてきたが、最近の研究により *Deparia* 属の植物であることが判明した。名古屋市では今まで稀少偶産種と見なしてきたが、2013 年に小群落が確認されたので、評価の対象に追加した。

【関連文献】

保シダ p.135, 平シダ p.251.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 イワデンダ科>

ウスバシケシダ *Deparia* sp.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 2、補正+1（準固有）。未記載の植物で、濃尾平野が分布域の中心になっている。名古屋市では生育地が少ない。総点は14であるが、相生山緑地の集団は当面存続すると思われるので、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

【形態】

夏緑性のシダ植物。根茎は細く、長くはい、1～2cm 間隔で葉を出す。葉柄は孢子をよくつけた葉で長さ20～40cmになる。葉身は広披針形～三角形、長さ25～40cm、幅13～25cm、草質、2回羽状に切れ込む。羽片は8～10対、下部のものはほぼ直角に、中部のものも広い角度で開出し、羽状に深裂し、裂片は円～鈍頭で辺縁に比較的目的立つ鋸歯があり、裏面は脈上に多細胞毛があるほかは無毛である。孢子のう群は半月形、長さ1～3mm、裂片の中肋よりにならないでつき、包膜は無毛、辺縁は若時内側に折れる。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（中志段味才井戸流、芹沢 76998, 2000-10-1）、天白区（牧野ヶ池緑地、芹沢 78815, 2003-9-26; 相生山緑地、芹沢 77734, 2001-10-13）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、鳳来北東部、田原東部、下山、岡崎北部、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、一宮東部などで確認されている。最初の発見地である津島愛西（津島市津島神社）では、発見後間もなく境内整備のため絶滅した。

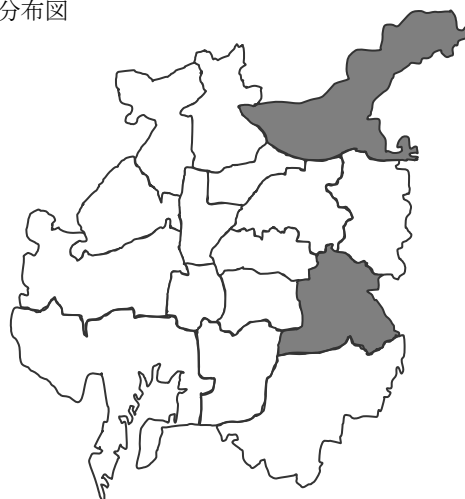
【国内の分布】

本州および九州。濃尾平野とその周辺の丘陵地に点在するほか、最近になって和歌山県と鹿児島県で各1ヶ所自生地が発見された。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

社寺境内、河川敷などのやぶ、丘陵地の林縁などに生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では才井戸流に小群落があったが、最近の状況は確認されていない。天白区では相生山緑地にやや大きい群落があり、牧野ヶ池緑地にも僅かに生育している。どちらの場所も緑地として保全されているが、公園整備等により失われる可能性もある。

【保全上の留意点】

人里周辺であるが、自然環境が良好な場所に生育している。本種が生育している場所は、そのような意味でも保全の必要性が高い。

【関連文献】

SOS 旧版 p.41, SOS 新版 p.202, 愛知県 p.321.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 オシダ科>

タニヘゴ *Dryopteris tokyoensis* (Matsum. ex Makino) C.Ch.**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 12。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少
ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

夏緑性のシダ植物。根茎は太く直立し、葉を束生する。葉はほとんど直立し、葉柄は長さ 20～30cm、暗褐色～淡褐色で膜質の鱗片を密につける。葉身は倒披針形、単羽状で長さ 1m に達し、下部の羽片は次第に短くなる。羽片は線形～線状披針形、浅裂～深裂、最下裂片は最も大きく耳形となる。胞子のう群は羽片の中肋寄りに 1～2 列に並び、円腎形の包膜がある。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（中志段味大洞口、鳥居ちゑ子 2366, 2003-9-11）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河には点在する。尾張では少なく、名古屋市のほか瀬戸尾張旭、犬山、春日井で確認されているだけである。

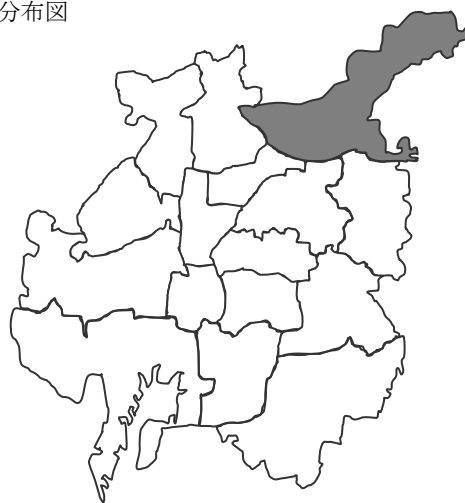
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に広く分布するが、西南日本では少ない。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

通常は山地の谷すじの湿地に生育し、しばしば開けた場所や疎林内に群生する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では 2 ヶ所に生育しており、個体数も比較的多い。現在のところは生育状態も良好であるが、開発等で失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

生育地の保全が必要である。

【関連文献】

保シダ p.94, 平シダ p.188.

倉田 悟・中池敏之（編）. 1985. 日本のシダ植物図鑑 1:504-510. 東京大学出版会, 東京.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 オモダカ科>

ヘラオモダカ *Alisma canaliculatum* A.Braun et C.D.Bouché**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、
県内分布 1、総点 13。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生の草本。茎は短く、走出枝はない。葉は束生し、長い葉柄があり、葉身は長楕円形～線状楕円形、長さ 10～25cm、先は鋭頭で鈍端、基部は次第に細まり、辺縁は全縁、両面無毛である。花期は 8～10 月、花茎は直立し、高さ 40～70cm、上部に 3 本ずつ枝を分けるまばらな円錐花序をつける。花は両性で、花弁は 3 個、卵円形で白色、長さ約 4mm である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（下志段味穴ヶ洞、鳥居ちゑ子 2360、2003-8-1）に生育していた。

【県内の分布】

東三河と西三河では、平野部を除く全域にやや普通に見られる。尾張ではやや少なく、名古屋市のほか瀬戸尾張旭、大府東浦、半田武豊、犬山、春日井で確認されている。

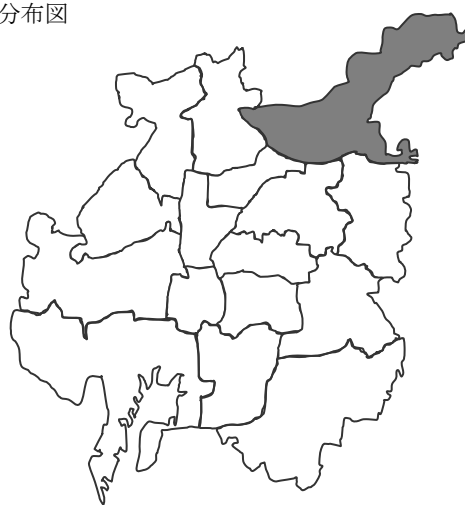
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

【世界の分布】

日本、朝鮮、中国。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

湖沼のため池、河川、水路の浅水域、水田などに生育する抽水～湿性植物。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区下志段味の、造成地の一部に水がたまり浅い沼状態になっている場所に少数株が生育しており、雨が多い年には大きく育ってよく花をつけていた。最近の状況は確認されていない。

【保全上の留意点】

確認できた場所に限れば希少偶産種であるが、もともとは名古屋市内でもあちこちに生育していたと思われる。ため池の周辺や水田などの湿性地在生物多様性を保全する上で重要な場所であることを意識し、そのような場所が消滅しないよう、適切な保全策を立てる必要がある。

【特記事項】

「こんな植物が？」と思われる絶滅危惧種の一例である。名古屋市では市街地化の進行によって、本種のような植物が生育できる湿地が減少しており、愛知県全体で見ればさほど希少でない種も絶滅が危惧される状態に追い込まれている。

【関連文献】

保草Ⅲp.396, 平草Ⅰp.2.

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.16. 文一総合出版, 東京.

角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.71. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 中村 肇)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 オモダカ科>

アギナシ *Sagittaria aginashi* Makino

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 12。湿地性の植物で、名古屋市では生育できる
環境が減少している。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	国リスト
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

多年生の水草。茎は短く、走出枝はない。葉は束生し、長い葉柄があり、葉身は矢尻形、頂裂片は広被針形～線形、長さ 7.5～17.5cm、鈍端。側裂片は頂裂片より少し長く、先端は次第に細まり鈍端となる。辺縁は全縁、両面とも無毛である。花期は 7～10 月、花茎は長さ 30～80cm で、その上部に枝を 3 個ずつ輪生する総状花序をつくり、花序の上部に雄花、下部に雌花を付ける。花弁は 3 枚で白色、卵円形で長さ 10～13mm。果実は扁平で倒卵形、翼があり、長さ 3～5mm。葉腋に多くの小球茎を付け、栄養繁殖する。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山麓、芹沢 52674, 1989-8-23）、天白区（島田緑地、石川・渡邊 5124, 2002-6-20）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、設楽東部、作手、新城、豊川、豊橋北部、足助、下山、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、額田、岡崎北部、岡崎南部、幸田、西尾南部、瀬戸尾張旭、半田武豊、常滑、春日井の 20 区画で確認されている。設楽西部、豊橋南部、刈谷知立で採集された標本もある。

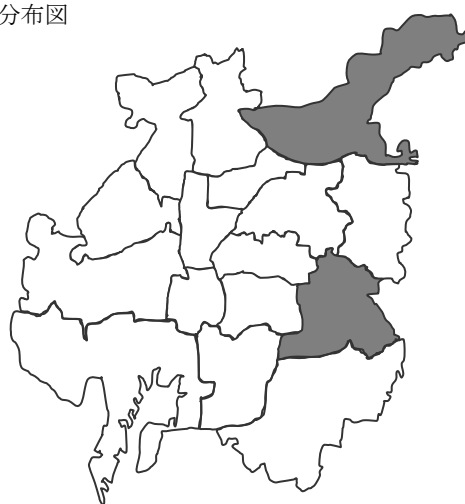
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮、中国。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湖沼やため池、水田、湿地などに生育する抽水～湿性植物。山間部の休耕田などに群生することもある。オモダカよりやや安定した場所に多く、耕作中の水田の雑草とはならない。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では東谷山麓に小群落があるが、個体数は次第に減少している。天白区では島田緑地の観察池に多数生育している。この場所のものは、「意図的に持ち込まれたものではない」とされているが、多少の不安が残る。

【保全上の留意点】

本種が生育し続けることができるような軽度の攪乱を受ける湿性地を維持する必要がある。

【特記事項】

オモダカに比べ、地下に走出枝がなく、かわりに小球茎をつけ、葉の側裂片は頂裂片より短く、その先端が鈍端であることで区別できる。和名は「顎無し」で、生長初期に出る葉が側裂片を持たないことによるという。

【関連文献】

保草Ⅲpp.400-401, 平草Ⅰp.1, 愛知県 p.642.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.20. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.77. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 中村 肇)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 トチカガミ科>

オオトリゲモ *Najas oguraensis* Miki

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、
県内分布 2、総点 12。池沼に生育する水草で、名古屋市では生育
地が極めて少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	リスト外

【形態】

1年生の水草。茎は細く円筒形、長さ50cm以上になり、よく分枝するが折れやすい。葉は対生または3輪生、葉身は外側に曲がることもあまり曲がらないこともあり、線形、長さ2~4cm、幅0.3~0.7mm、質はやや硬く、辺縁にはっきりした鋸歯がある。葉の基部は長さ2~4mmの葉鞘となり、葉鞘の先端は切形で小刺がある。花期は7~9月、雌雄同株で花は葉腋につき、雄花は苞鞘に包まれ、葯には4室がある。雌花は葯に包まれず柱頭は2深裂する。果実は各節に1個ずつつき、種子は長楕円形、長さ3~3.5mm、表面には横に長い網目模様がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（下志段味滝ノ水池、鳥居ちゑ子 2363, 2003-9-3）、天白区（平針黒石、中島ひろみ 918, 2009-7-5）に生育している。守山区の他の場所（上志段味寛池、飯尾俊介 s.n., 1963-9-13）で採集された標本もある。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊橋南部、旭、豊田北西部、瀬戸尾張旭、大府東浦、美浜南知多で確認されている。

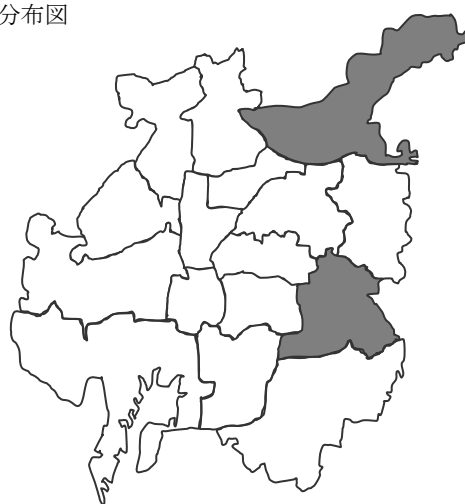
【国内の分布】

本州、四国、九州、沖縄。

【世界の分布】

日本、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湖沼やため池に生育する沈水植物。ホッスモやイトトリゲモと異なり、愛知県内で今まで確認された生育地はほとんどがため池である。

【現在の生育状況／減少の要因】

滝ノ水池は透明度が低く、水面から繁茂している様子は確認できない。詳細な生育状況は不明であるが、衰退傾向にあることは確実と思われる。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり、水生生物の重要な生育場所になっている。しかし、幹線水路の整備につれてため池に対する依存度が低下した結果、埋め立てられたり、調整池として改修されたり、あるいは原形を保っていても生活排水が流入して汚濁しているものが多く、良好な状態を保っているため池はあまり残っていない。本種の場合も、生育地のため池を改修せずに保全すると共に、水質が現在以上に悪化しないよう、配慮が必要である。

【関連文献】

保草Ⅲp.408, 平草Ⅰp.18, 愛知県p.598.

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.52. 文一総合出版, 東京.

角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.96. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 中村 肇)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ヤマノイモ科>

ヒメドコロ *Dioscorea tenuipes* Franch. et Sav.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 13、やや山地性の植物で、名古屋市では生育地
が極めて少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

つる性の多年生草本。根茎は横にはい、地上茎は無毛、長く伸びて他物に巻きつく。葉は互生し、長さ2~10cmの柄があり、葉身は薄く三角状披針形、長さ5~12cm、基部は心形で耳形に張り出す。花期は7~8月、花序は下垂し、長さ5~20cm、花被片は6裂、楕円形で長さ約1mm、淡緑色で平開する。雄花の柄はやや長く3~4mmで、完全雄ずいは6個ある。果実は3翼があり、高さ14mm、幅18~20mm、種子は広楕円形で全周に翼がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根太鼓ヶ根、鳥居ちゑ子 2636, 2008-7-16; 川松洞、鳥居ちゑ子 60, 1992-8-2）に生育している。

【県内の分布】

オニドコロに比べればずっと少ないが、東三河、西三河の山地には点在している。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井で確認されている。

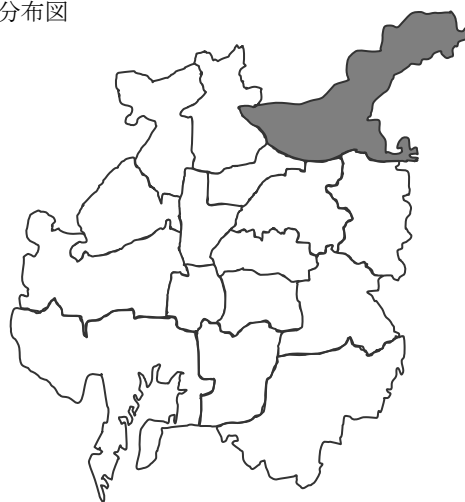
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の林縁に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

吉根では林縁に1株だけ生育していた。川では小幡緑地内の樹木に少数株がからみついていた。

【保全上の留意点】

現在確認されている生育地は2ヶ所だけであるが、注意して探索すれば他の場所でも発見される可能性がある。

【特記事項】

オニドコロに似るが、葉がより細長く、種子の全周に翼があることで区別できる。

【関連文献】

保草Ⅲp.83, 平草Ⅰp.57.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 イヌサフラン科>

チゴユリ *Disporum smilacinum* A.Gray

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 12。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地
が極めて少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。地下茎は長く横にはう。地上茎は高さ 15～30cm、基部は膜質の葉鞘に包まれ、分枝しないか、1～2 回分枝する。葉は互生し、ほとんど無柄、葉身は楕円形または長楕円形、長さ 4～7cm、先端は鋭頭または鋭尖頭、基部はやや円形、両面無毛であるが、辺縁に半円形の突起がある。花期は 4～5 月、花は茎の先端に 1～2 個、横または下向きにつき、花被片は 6 枚で白色、披針形で長さ 10～15mm、液果は球形、直径 7～10mm、黒熟する。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山、日比野修 4418, 1998-4-29）に生育している。守山区の他の場所（吉根）にも生育していたが、ここでは標本を採取していない。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には普通に見られる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井に生育している。

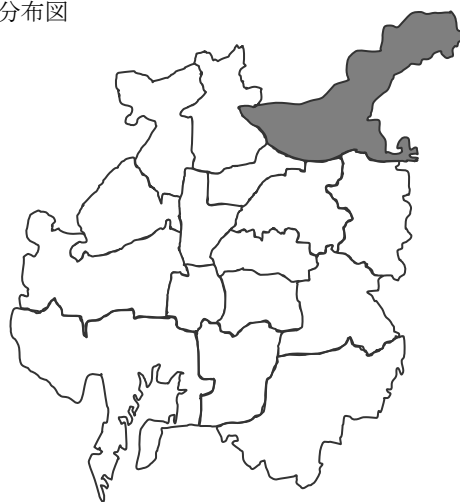
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

千島列島南部、日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

明るい落葉樹林の林内や林縁に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

東谷山の自生地は近況を確認していないが、そのまま存続していると思われる。吉根では 2 地点に生育していたが、うち 1 地点は駐車場造成のため消失した。

【保全上の留意点】

生育地の地形を保全することが必要である。

【特記事項】

「こんな普通種が？」と思われる絶滅危惧種の一例である。名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られる植物もしばしば産量が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【関連文献】

保草Ⅲp.109, 平草Ⅰp.48.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ユリ科>

アマナ *Amana edulis* (Miq.) Honda

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 12。草地や疎林内に生育する早春植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地中に卵形、長さ 3～4cm の鱗茎がある。葉は花茎の下部に 2 個つき、葉鞘が地中にあるため根出葉のように見える。葉身は線形、長さ 15～25cm、幅 5～10mm、先は次第に狭くなり、両面無毛である。花期は 4 月、花茎は高さ 15～30cm で、先端に通常 1 個（ときに 3 個）の花をつける。花は日中に開花し、花被片は 6 枚で披針形、長さ 2～2.4cm、鈍頭、白色で暗紫色の脈がある。蒴果は円形で、3 稜があり、長さ約 1cm、先端に花柱が残存する。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（天子田、鳥居ちゑ子 1035, 1996-4-9）に生育している。

【県内の分布】

東三河には点在するが、西三河では生育地が少なく、尾張では名古屋市以外は瀬戸尾張旭で確認されているにすぎない。ただし生育している場所では、群生することが多い。

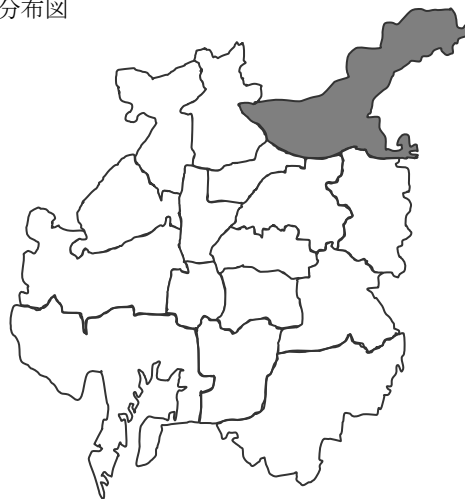
【国内の分布】

本州（福島県以南）、四国、九州、琉球（奄美大島）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の日当たりのよい草地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

矢田川に接した公園内に小群落がある。この場所は 30 年ほど前まで堤防から続いた農地であったが、区画整理で宅地化され、一部が公園として残された。アマナは現在の場所に、少なくとも造成直後から生育していた。

【保全上の留意点】

公園造成時に持ち込まれた可能性は完全には否定しきれないが、状況的には保全すべきものと判断される。公園整備によって失われないよう、注意する必要がある。

【特記事項】

早春植物で、初夏には地上部が消失する。

【関連文献】

保草Ⅲp.119, 平草Ⅰp.38.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ラン科>

サギソウ *Habenaria radiata* (Thunb.) Spreng.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 4、
県内分布 1、総点 13、貧栄養の湿地に生育する植物で、園芸目的
で集中的に採取されており、減少傾向が著しい。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

多年生草本。地下に走出枝があり、その先端に楕円形で長さ 7～15mm の球茎をつける。茎は直立し、高さ 15～40cm になる。葉は茎の下部につき、鞘状のものを除いて 3～5 個が互生し、葉身は広線形、長さ 5～10cm、幅 3～6mm、先端は鋭頭、基部は葉鞘となる。上部の葉は小さく、鱗片状となる。花期は 7～8 月、花は茎の先端に 1～3 個つき、直径約 3cm で白色、苞は卵状披針形、長さ約 5mm である。がく片は緑色、広卵形または斜卵形、長さ約 8mm、側花弁は白色で斜卵形、背がく片と並んで立ち、下部外縁に鋸歯がある。唇弁は大きく 3 深裂し、中裂片は披針形、側裂片は側方に開出して斜扇形、辺縁は深く細裂する。距は斜めに下垂し、長さ 3～4cm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（鳥居ちゑ子 479, 1993-8-26 など）、
天白区（芹沢 56182, 1990-8-8 など）に生育している。千種区（覚王山、沢井輝男 s.n., 1932-8-6）で採集された標本もある。

【県内の分布】

丘陵地に広く分布し、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、東海知多、犬山、小牧、春日井の 7 区画で確認されている。知多半島ではごく稀である。

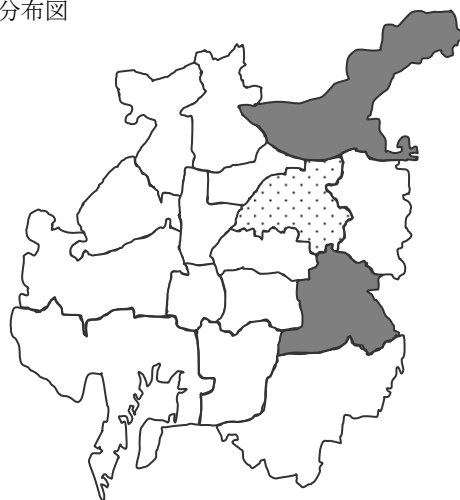
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の日当たりのよい貧栄養の湿地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

白鷺に似た美しい花をつけるランで、園芸目的で多量に採取され、全国的には絶滅状態の場所も少なくない。名古屋市内でもまだある程度生育しているが、園芸目的の採取や丘陵地の開発により、過去に比べれば大きく減少している。地下に子球をつけるため、繁殖力は比較的旺盛であるが、増加したと思って見ていると、ほとんど全部堀取られてしまうことも多い。

【保全上の留意点】

本種の場合、人工的な供給方法が確立されており、市場価格もそれほど高いものではないが、それでも山採りは止むことがない。大量に安価に供給すれば園芸目的の採取はなくなると思うのは、幻想にすぎない。自然の花と庭の花は別のものと考えることが必要で、そうでない限り、現在はまだかなりある本種も、いつかは絶滅させられてしまう。

その一方で本種は、消えゆく湿地性植物の代表として、しばしば自然湿地への植え戻しが行われている。しかし、植え戻しはその場所にまだ残存している他の植物に大きな打撃を与えるだけでなく、しばしば遺伝的汚染や病虫害の導入を招き、そこに残存している自然個体群に対する「最後のとどめ」になる。人為的な付け加え行為は、たとえ善意から出たものであっても、自然に対する大きな脅威であることを忘れてはならない。本種なら、生育できる条件を壊さずに気長に待てば、そのうち自然に分布を拡大してくるはずである。

【関連文献】

保草Ⅲp.7, 平草Ⅰp.192, 環境庁 p.615, SOS 旧版 p.111+図版 18, SOS 新版 p.111, 愛知県 p.492.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ラン科>

ジガバチソウ *Liparis krameri* Franch. et Sav.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 4、
県内分布 1、総点 13。名古屋市では生育地も個体数も少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は高さ 8～20cm、基部はふくらんで偽球茎となり、1～2 年残存して横に並ぶ。葉は茎の下部につき、鞘状のものを除き 2 個、葉身は卵形、長さ 3～8cm、先端は鋭頭、葉脈ははっきりした網目模様となる。花期は 5～7 月、花は茎の上部に 10～25 個つき、多少なりとも紫を帯びた淡緑色のことが多く、苞は三角形で長さ 1～1.5mm である。がく片は線形で長さ 10～12mm、側花弁は反曲し、糸状で長さ 8～10mm、唇弁は長さ 6～8mm、下部で急に曲がって下垂し、舷部は幅 3～3.5mm、先端は鋭尖頭である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（鳥居ちゑ子 1798, 2000-7-2）、天白区（伊藤晶子 26, 2002-5-15 など）に稀に生育している。千種区（東山、井波一雄 s.n., 1953-5-29, CBM251383）で採集された標本もある。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地ではあちこちに生育しており、丘陵地にも多くはないが点在する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、小牧、春日井で確認されている。

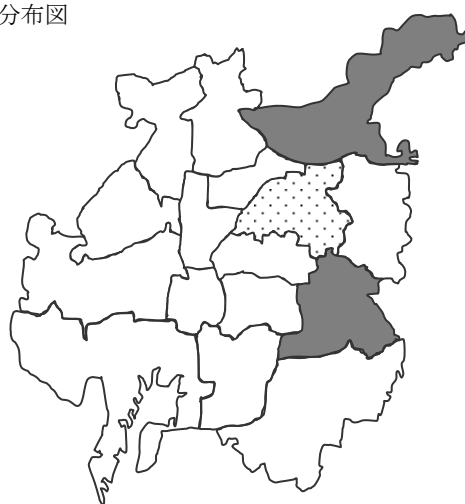
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

林縁や明るい林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

何ヶ所かで確認されているが、どの場所も個体数は少ない。目立つ花ではないが、それでも見つかると掘りとられてしまうことが多い。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。ただし本種は愛知県全体ではそれほど希少な植物ではないため、好事家の意図的な採取は想定しにくい。むしろ一般人の行きずりの採取の影響が大きく、自然物は公共の資産であり、個人の庭に取り込んでではないという意識を、できるだけ多くの人に持ってもらうことが必要である。

【特記事項】

和名は、花の形態がジガバチに似ているからである。花の色には変異があり、淡緑色のもの、黒褐色のものなどもある。

【関連文献】

保草Ⅲp.51, 平草Ⅰp.218.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ラン科>

クモキリソウ *Liparis kumokiri* F.Maek.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2 (ただし 3 に近い)、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 13。山地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

名古屋市 2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2015	リスト外
環境省 2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は高さ 10～20cm、基部はふくらんで偽球茎となり、1～2 年残存して横に並ぶ。葉は茎の下部につき、鞘状のものを除き 2 個、葉身は広卵形、長さ 5～12cm、先端は鈍頭、葉脈の網目模様は目立たない。花期は 6～7 月、花は茎の上部に 5～15 個つき、淡緑色、苞は三角状卵形で長さ 1～1.5mm である。がく片は長楕円形で鈍頭、長さ 6～7mm、側花弁は線形でがく片とほぼ同長、唇弁はくさび状倒卵形、長さ 5～6mm、中央上部で著しく反曲し、舷部は幅約 5mm で、先端は微凸頭である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（鳥居ちゑ子 1953, 2001-6-8）に生育している。緑区（鳴海町水広下、芹沢 59028, 1991-6-28）にも生育していたが、ここでは絶滅した。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地ではあちこちに生育しているが、丘陵地には少ない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井で確認されている。

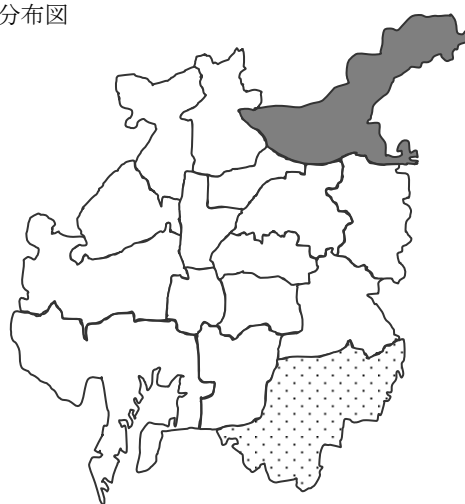
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

千島列島南部、日本、朝鮮半島。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

やや湿った明るい林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区には現存するが、個体数は少ない。緑区では水広下池近くの林内に生育していたが、宅地造成のため絶滅した。

【保全上の留意点】

生育地の地形と森林を保全することが必要である。園芸目的の採取は、ジガバチソウに比べれば少ない。

【特記事項】

ジガバチソウに似るが、葉は鈍頭で、葉脈の網目模様が目立たない。山地ではジガバチソウより多いが、丘陵地ではそれより少ない。

【関連文献】

保草Ⅲp.51, 平草Ⅰp.219.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 キジカクシ科>

キヨスミギボウシ *Hosta kiyosumiensis* F.Maek.**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 12。山地の草地や川岸の岩場に多い植物で、名
古屋市では生育地が少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。地下茎は短くはう。葉は束生し、長さ6～30cmの柄があり、葉身は長卵形～広卵形、長さ7～25cm、先端は鋭尖頭、基部はくさび形～ごく浅い心形である。花期は6～7月、花茎は高さ30～60cmになり、上部に5～30個の花をつける。苞はボート状、長さ2.5～3cm、鋭頭、つぼみの時は互いに重なり合う。花は淡紫色、長さ4～5cm、広筒部は急に、または次第に太くなる。果実はよく形成される。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味庄内川、日比野修 4549、1998-6-28；吉根太鼓ヶ根、芹沢 82959、2008-7-16）、緑区（鳴海町笹塚、渡邊幸子 4775、2001-6-29）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地にはやや普通に見られる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、豊明東郷、美浜南知多、犬山、江南丹羽、小牧、春日井に生育している。

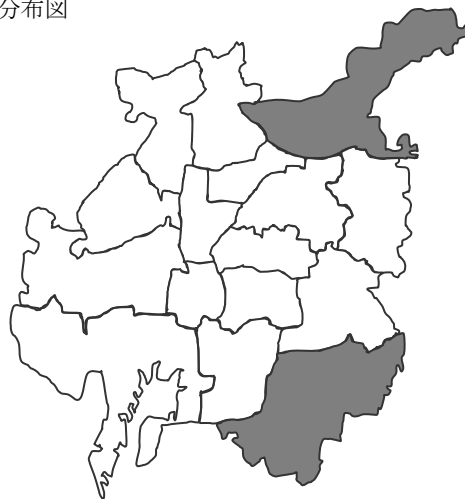
【国内の分布】

本州（関東地方南部～紀伊半島）。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

やや湿った草地や、川沿いの湿った岩場に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

以前はあちこちに生育していたものと思われるが、近年生育を確認できたのは3ヶ所だけで、しかもどの場所でも個体数が少なく、存続の基盤が脆弱である。緑区では愛知用水沿いに生育していたが、改修等によりほとんど消滅した。

【保全上の留意点】

里草地の保全が必要である。

【特記事項】

オオバギボウシに似ており、愛知県の山地の草地ではしばしばそれと混生しているが、つぼみの時に苞が重なり合い、開出しないことで区別される。草地に生育するものと川岸の岩場に生育するものが全く同じであるかどうかについては、今後更に検討が必要である。

【関連文献】

保草Ⅲp.138、平草Ⅰp.32.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 キジカクシ科>

コバギボウシ *Hosta sieboldii* (Paxton) J.W.Ingram form. *spathulata* (Miq.) W.G.Schmid**【選定理由】**

個体数階級3、集団数階級3、生育環境階級4、人為圧階級2、
県内分布 1、総点 13。湿地性の植物で、名古屋市では生育地も
個体数も少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。地下茎は横にはい、そのためしばしば群生する。葉は束生し、葉身は楕円形～長楕円形、大きさは変異が著しく、小さい個体では長さ4cm程度であるが、大きい個体で花笠20cmくらいになり、先端は通常鈍頭、基部は葉柄に流れる。花期は7～8月、花茎は高さ35～100cmになり、上部に3～20個の花をつける。花は淡紫色で脈は著しく濃色になり、長さ4.5～6cm、狭筒部は長さ1.5～2.2cmで、広筒部は通常鐘状に急に太くなる。果実をよく形成される。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味東谷、芹沢 83268, 2008-9-13）に生育している。緑区（鳴海町笹塚、標本なし）にも生育していた。

【県内の分布】

東三河山間部の湿地には多い。ミズギボウシの分布する西三河や尾張では、点在するが少ない。尾張では瀬戸尾張旭、東海知多、常滑で確認されている。

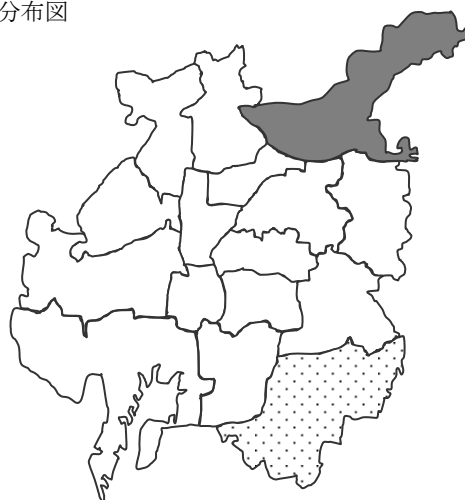
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地や丘陵地の日当たりのよい湿地に生育する。湿地性の植物の中ではかなり耐陰性があり、林内にも残存している。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では2ヶ所の林内湿地に生育しているが、どちらも遷移の進行によって林内が暗くなり、ほとんど花をつけない状態になっている。緑区では愛知用水わきの草地に生育していたが、改修により消滅し、現存を確認できない。

【保全上の留意点】

守山区の自生地については、湿地周辺の樹木を伐採し、開けた湿地を維持することが必要である。

【特記事項】

本種とミズギボウシの雑種も、守山区上志段味東谷（鳥居ちる子 468, 1993-8-26）、同小幡緑地（芹沢 56212, 1990-8-8）などに生育している。この雑種はコバギボウシに似ているが、全体に大型で、葉が細く、花がややまばらにつき、果実が熟さない。

【関連文献】

保草Ⅲpp.135-136, 平草Ⅰp.33.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ガマ科>

ナガエミクリ *Sparganium japonicum* Rothert

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 13。水生植物で、名古屋市では生育地が極めて
少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	国リスト
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

多年生の水草。地中を横にはう根茎がある。茎は立ち、分枝せず、高さ 35~100cm になるが、横たわると全長 150cm を超えることもある。葉は 2 列に互生し、線形、抽水葉は裏面に稜があって断面は三角形になり、幅 7~14mm、下部は葉鞘となる。花期は 6~9 月、花序は分枝しない。雌性頭花は 3~7 個で、少なくとも下側の 1~3 個は長さ 7~50mm の柄があり、主軸とは合着しない。雄性頭花は 4~9 個で雌性頭花から離れてつく。果実は紡錘形で長さ 4~6mm、幅 2mm、全体に流線形で他種の果実に比べて細長く、先端は嘴状に尖る。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味才井戸流、芹沢 76859、
2000-7-8）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、東栄、鳳来北東部、豊橋北部、額田、岡崎北部、岡崎南部、幸田、安城、西尾北部、西尾南部、瀬戸尾張旭、犬山、江南丹羽、小牧、春日井、一宮東部、一宮西部の 17 区画で確認されている。

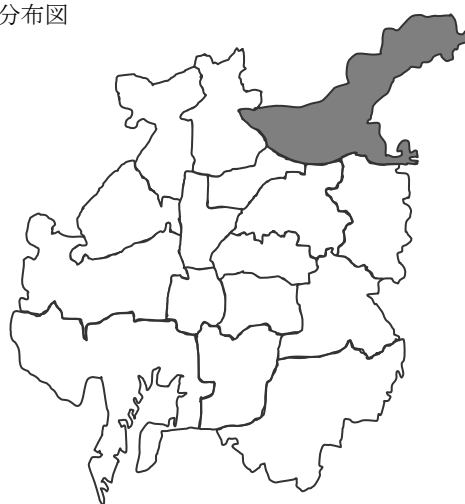
【国内の分布】

北海道（南西部）、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本を含むアジア極東地域に分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湖沼やため池、河川、水路などに生育する抽水植物。流水域に多いが、止水域にも生育する。流れが強い場所にあるものは、しばしば水中葉だけが出て、セキショウモのような形になる。

【現在の生育状況／減少の要因】

才井戸流では水路中にナガエミクリのほかミクリ、ヤマトミクリも生育している。個体数はヤマトミクリよりずっと多い。周辺にもいくつかの小群落がある。しかし周囲の開発により、将来の存続が懸念される。水路自体が保全されても、公園化されれば水質が悪化し、帰化植物等が侵入することも予想される。

【保全上の留意点】

本種の主要な生育地であったはずの平野部の小河川は、ほとんどがコンクリートで三面を固められ、生活排水が流入し、一昔前とはまるで異なる状態になっている。その意味では、平野部の水草は、ごく一部の種類を除きすべて危機的であると言ってもよい。「さらさら流れる春の小川」を保全することは、絶滅危惧種のあるなしにかかわらず、重要な課題である。才井戸流に関して言えば、保全上重要なのは、個々の植物よりむしろ全体的な景観である。

【特記事項】

和名は、下部の雌性花序に柄があるからである。名古屋市産の植物の彩色画は、2004 年版図版 11 に掲載されている。

【関連文献】

保草Ⅲpp.420-421, 平草Ⅰp.143, 愛知県 p.647.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.80. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.152. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 中村 肇)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科>

ビロードスゲ *Carex fedia* Nees var. *miyabei* (Franch.) T.Koyama

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、
県内分布 1、総点 13。湿草地性の植物で、名古屋市では生育地が
極めて少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。長い匍匐枝を出し、小さい株をつくる。茎は高さ 30～60cm、無毛、基部の葉鞘は葉身がなく、一部が赤褐色を帯び、硬質で光沢があり、前面に赤紫褐色の糸網がある。葉は細い線形、幅 3～5mm である。果期は 5～6 月、小穂は上部の 2～4 個が雄性、線形で長さ 1.5～3cm、下部の 2～3 個は雌性、短い円柱形で有柄、長さ 2～4cm である。苞は葉状で、基部は鞘にならない。鱗片は紫色を帯びた赤褐色、果胞は楕円形、長さ 3～4mm、灰色の毛があり、嘴はやや長い。雌花の柱頭 は 3 個である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根庄内川、村松正雄 16128, 1995-5-7）に生育している。茎葉だけの標本だが、天白区（相生山緑地、芹沢 76769, 2000-6-10）にもそれらしいものがある。

【県内の分布】

三河山地に点在するが、平野部の河川沿いにも稀に見られる。尾張では名古屋市のほか、犬山、江南丹羽、一宮東部で確認されている。

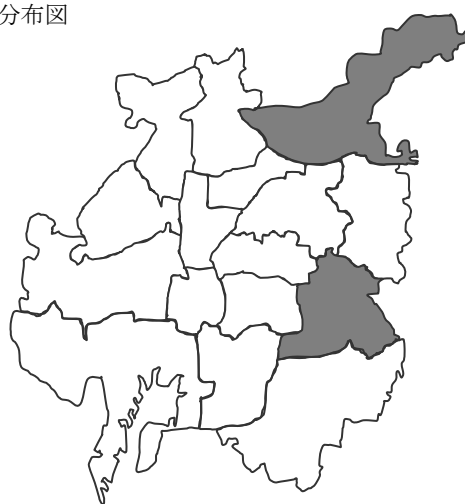
【国内の分布】

北海道、本州、九州。

【世界の分布】

日本固有。種としては日本からインドまで分布している。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湿地や河岸の砂地に生育する。名古屋市の生育地も、河川敷の砂地である。

【現在の生育状況／減少の要因】

吉根の庄内川河川敷に小群落がある。最近の状況は確認されていないが、そのまま存続していると思われる。

【保全上の留意点】

生育地周辺で護岸工事や河川改修工事を行う場合には、配慮が必要である。

【特記事項】

守山区の庄内川河川敷は全域を精査したわけではない。ていねいに調査すれば、他の場所でも確認できるかもしれない。和名は果胞の毛に由来する。

【関連文献】

保草Ⅲp.297, 平草Ⅰp.149.
吉川純幹. 1958. 日本スゲ属植物図譜 2:280-281. 北陸の植物の会, 金沢.
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.350. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 カヤツリグサ科>

ツクバスケ *Carex hirtifructus* Kük.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1。岩崖地性の植物で、名古屋市では生育地が限られている。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。時に短い匍匐枝を出し、ややゆるい株を作る。茎は高さ 15～50cm、基部の葉鞘は褐色で繊維に分解する。葉は細い線形、幅 2～3mm である。果期は 4～5 月、小穂は 3～4 個が互いにやや離れてつき、頂小穂は雄性、線状楕円形で長さ 2～3cm、側小穂は雌性で披針形～線状楕円形、長さ 1～2cm、最下の側小穂は時に根出状になる。苞は短く、基部は長さ 1～2cm の鞘となる。果胞は紡錘形～紡錘状長卵形、長さ 4～6mm、有毛、嘴は長く、先端は鋭い 2 歯となる。雌花の柱頭は 3 個である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味庄内川、日比野修 4385, 1998-3-30）に生育している。

【県内の分布】

本曾川、庄内川、矢作川、豊川、天竜川支流の河岸岩場に生育するほか、三河山地に点在している。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭と犬山の 2 区画で確認されている。

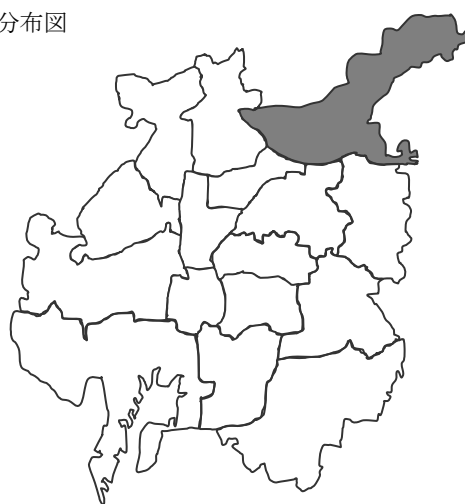
【国内の分布】

本州（近畿地方以北の主に太平洋側）、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

河岸の岩場や山地の岩場に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

カワラハンノキ（市 VU）やケイリュウタチツボスミレ（市 NT）と同様庄内川中流域の溪谷部には連続的に生育しており、その末端が僅かに名古屋市に達している。現在のところ特に減少してはいないが、護岸工事等があれば名古屋市からは容易に消滅してしまう。

【保全上の留意点】

名古屋市内では、他に本種が生育できそうな場所はない。生育地周辺で護岸工事や河川改修工事を行う場合には、配慮が必要である。

【特記事項】

ショウジョウスゲ *C. blepharicarpa* Franch. に似ているが、株はややまばらに叢生し、果胞の嘴は長く、口部は鋭い 2 歯となる。2004 年版では、ショウジョウスゲに含めて記述されている。

【関連文献】

保草Ⅲp.263（ナガミショウジョウスゲとして）、
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.275. 文一総合出版, 東京.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科>

イソヤマテンツキ *Fimbristylis ferruginea* (L.) Vahl var. *sieboldii* (Miq.) Ohwi**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、
県内分布 2、総点 12。沿海地に生育する植物で、名古屋市では
生育地が少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は束生して直立し、高さ 15~40cm になり、基部の鞘は赤褐色である。葉は幅 1~1.5mm、無毛、下部のものは鞘のみに退化し、上部は次第に長くなるが、茎よりも短い。花期は 8~10 月、茎の先端に 1~5 個の小穂をつけ、小穂の柄は分枝しない。小穂は狭卵形~狭長楕円形、長さ 5~13mm、幅 2~3mm、濃褐色で光沢がない。果実はレンズ形で、濃褐色、やや平滑で、長さ 1~1.2mm である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

港区（当知町庄内川河川敷、鈴木敏之 s.n., 2005-10-7; 金城ふ頭, 芹沢 85131, 2009-10-3）に生育している。

【県内の分布】

沿海部に点在しており、尾張では名古屋市のほか、半田武豊、美浜南知多、津島愛西、海部南部で確認されている。

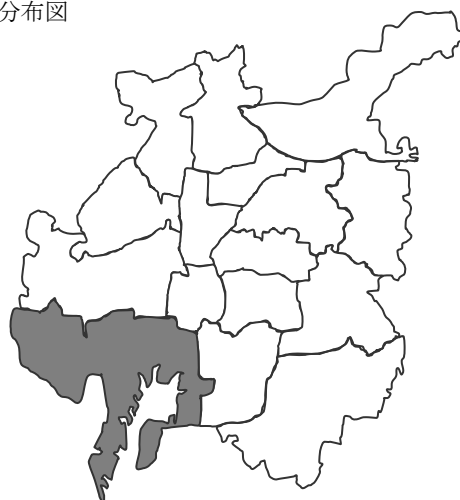
【国内の分布】

本州（千葉県、石川県以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

海岸のやや湿った砂地や沿岸部の低湿地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

やや攪乱された場所に生育することが多い植物で、名古屋市域ではおそらく出現と消失をくり返しているものと思われる。金城ふ頭の生育地も埋立地である。庄内川では近況が確認されていない。

【保全上の留意点】

金城ふ頭の現自生地は、土地利用が進めば、そのうちに消失すると思われる。個別的な対策よりも、河口域の自然環境の全体的な保全が重要である。

【特記事項】

個体数階級は見込み値である。

【関連文献】

保草Ⅲp.235, 平草Ⅰp.175.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 イネ科>

アズマガヤ *Asperella longe-aristata* (Hack.) Ohwi

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、
県内分布 1、総点 12。山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。株を作らない。稈は高さ 70～120cm、花序のすぐ下に斜上する軟毛が密生し、節に下向きの短い軟毛がある。葉は互生し、線状披針形または幅広い線形、長さ 10～20cm、幅 1～2cm、基部の近くでねじれて表裏が逆になる。花期は 5～7 月、花序は穂状で細く、長さ 10～15cm、上部はやや垂れる。小穂は無柄でまばらに 2 列につき、苞穎は細く、針状片となり、長さ 4～6mm、護穎は長さ 9～13mm で、先端に長さ 10～22mm の芒がある。小花は 1～2 個である。

【分布の概要】

【市内の分布】

熱田区（神宮一丁目、高木順夫 5668, 1998-4-28）に生育していた。

【県内の分布】

東三河北部の山地に点在するが、渥美半島などにもある。名古屋市は尾張では唯一の生育地である。

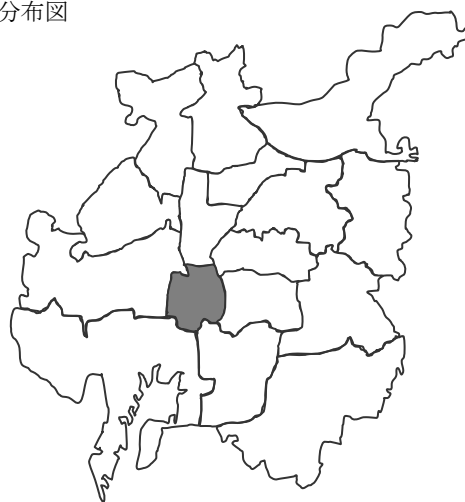
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島北部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

熱田神宮境内の林内に数 m 四方の群落があったが、最近の状況は確認されていない。小型ではないが花などが目立たない植物なので、除草作業等により失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

意図的に植えられるような植物ではなく、また渥美半島では海岸近くの林に自生しているという事例もあるので、昔から残存していたとも考えられるが、一方で他の樹木等について持ち込まれた可能性も否定しきれない。とにかく尾張では唯一の生育地で、管理者に貴重な植物であることを認識してもらうことが必要である。

【特記事項】

最近では属名として *Histrix* が用いられる。カモジグサ類からは、苞穎が鉢状になり小花が 1～2 個であることで容易に見分けられる。

【関連文献】

保草Ⅲpp.313-314, 平草Ⅰp.117.
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 pp.432-433. 平凡社, 東京.

(執筆 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 イネ科>

ヌマカゼクサ *Eragrostis aquatica* Honda

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 2、総点 13。干上がったため池の岸に生育する植物で、
愛知県は分布域の東限にあたる。名古屋市では生育できる環境
が減少している。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。根茎はない。稈は束生し、基部は地表を放射状に広がり、上部は斜上または直立し、長さ20～50cmになる。葉身は線形、長さ5～20cm、幅2～5mm、質はやや硬く、葉舌は退化して微毛の列となり、葉鞘の口部には長毛がある。花期は9月、円錐花序は長さ8～15cm、枝は斜上し、小穂は灰色がかった暗紫色で扁平、長さ5～15mm、幅1.3～1.7mm、7～22個の小花が密に2列に並ぶ。側小穂の柄は短く、枝からあまり開出ししない。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味大久手池、芹沢 75213、1998-10-11）、緑区（鳴海町笹塚、渡邊幸子 1916、1994-10-9）に生育している。

【県内の分布】

尾張とそれに接した西三河西部の丘陵地には比較的多いが、他の場所では確認されていない。平野部にも生育していない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、東海知多、半田武豊、犬山、春日井で採集された標本がある。

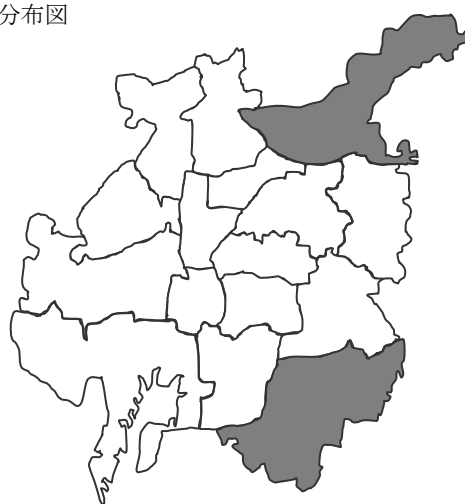
【国内の分布】

本州（東海地方以西）、四国。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

愛知県では、秋期水を落とされて干上がったため池の岸に特徴的に出現する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では志段味地区のため池に見られ、個体数も比較的多い。緑区では鳴海町笹塚で確認されている。ため池の水質の悪化や、管理が行われなくなり、水の引かない年が増加していることなどによる影響が懸念される。

【保全上の留意点】

ため池を維持し、水質を保全するとともに、秋期の水抜きなど適切な管理を継続することが必要である。

【特記事項】

名古屋市内で採集された標本などをもとに記載された植物である。

【関連文献】

保草Ⅲ pp.333-334、平草Ⅰ pp.105-106、SOS 旧版 p.99+図版 23。
長田武正、1989。日本イネ科植物図譜 pp.484-485。平凡社、東京。

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 イネ科>

サヤヌカグサ *Leersia sayanuka* Ohwi

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1。名古屋市では生育地も個体数も少ない。評価点の合計は 14 になるが、調査が不十分であることを考慮し、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。地下茎は短く匍匐する。稈は数本が束生し、基部から立ち上がることも下部が横に這って発根することもあり、高さ30～70cmになる。節には下向きの剛毛がある。葉身は長さ6～17cm、幅6～11mmになる。花期は8～10月、花序は長さ7～20cm、枝は5～10本で、下方のものは更に枝を分け、中上部にややまばらに小穂をつける。小穂は長楕円形で扁平、長さ6～7mm、短い剛毛がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（小幡緑地、鳥居ちゑ子 3296, 2013-10-6）に生育している。

【県内の分布】

山地から平野部まで広く生育しており、尾張では名古屋市のほか瀬戸尾張旭、半田武豊、美浜南知多、犬山、春日井、一宮東部、一宮西部、稲沢で記録されている。

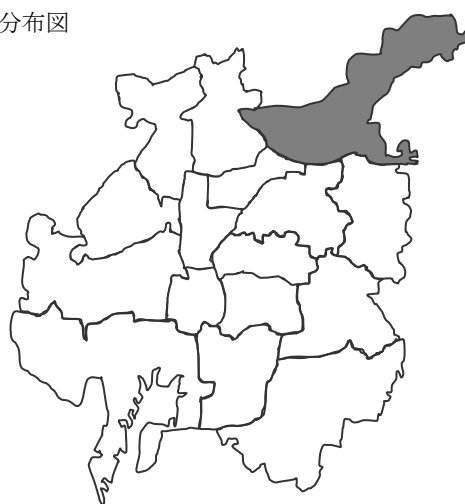
【国内の分布】

北海道（西南部）、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

水田や小河川、ため池の周辺などの水湿地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

現在のところ1ヶ所で小群落が確認されているだけで、その場所でも2014年はマメナシの保全活動のため草刈りが行われ、確認できなかった。しかしそのつもりで探索すれば、他の場所でも発見される可能性がある。

【保全上の留意点】

水辺環境の全体的な保全が必要である。

【特記事項】

「こんな普通種が？」と思われる絶滅危惧種の一例で、採集してみて、改めて名古屋市で今まで記録がなかったことに気づいた植物である。エゾノサヤヌカグサからは、葉がやや短く軟質であること、小穂がやや細長く緑色で、剛毛が短いことなどで区別される。今回のレッドリストではエゾノサヤヌカグサはリスト外になったが、愛知県の平野部全体でみると、本種の方がエゾノサヤヌカグサより多い。2014年のレッドリスト案では絶滅危惧ⅠB類として掲載したが、その後の再検討により評価が変更された。

【関連文献】

保草Ⅲp.343, 平草Ⅰp.109.
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 pp.80-81. 平凡社, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 イネ科>

ワセオバナ *Saccharum spontaneum* L. var. *arenicola* (Ohwi) Ohwi

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、
県内分布 2、総点 13。名古屋市では生育地が少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。やや太い根茎がある。稈は束生し直立、高さ 1m 以上となり、上部には白色の軟毛が密生する。葉は互生し、葉身は長さ 30～70cm、幅 4～6mm、質は硬く、中脈は白色で幅広い。葉鞘の辺縁と口部には長毛があり、葉舌は高さ 2～3mm である。花期は 8～9 月、円錐花序は長さ 20～40cm、多数の直立する総をつける。総は多数の関節からなり、熟すと折れやすい。小穂は有柄と無柄のものが対になってつき、長さ 4～5mm で、基部に多数の長い白毛がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

中川区（水里、芹沢 83567, 2008-10-12）に生育している。中村区（横井町庄内川、鈴木秀樹 3343, 1996-9-15）で採集された標本もある。

【県内の分布】

豊川から渥美半島にかけて、知多半島南部、および濃尾平野に分布する。尾張では名古屋市のほか、岩倉西春日井、一宮東部、稲沢、津島愛西、海部南部で採集された標本がある。

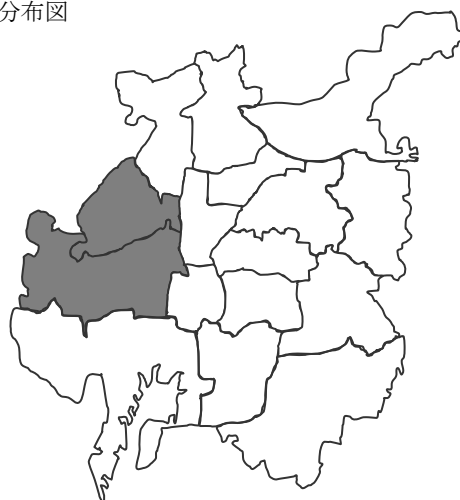
【国内の分布】

本州南部の太平洋岸。

【世界の分布】

日本固有。基準変種のナンゴクワセオバナ var. *spontaneum* は旧大陸の熱帯、亜熱帯に広く分布し、九州南部まで見られる。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

愛知県では河川堤防の草地に生育していることが多い。中村区の生育地も堤防であった。

【現在の生育状況／減少の要因】

中川区では土手状の場所に小群落がある。中村区では庄内川の堤防に小群落があったが、堤防の改修により失われた。

【保全上の留意点】

庄内川は堤防上の道路の交通量が多く、全域をていねいに調査することができない。どこかに残存している可能性もあるので、更に注意して探索する必要がある。

【特記事項】

サトウキビと同属で、稈には僅かに甘味がある。

【関連文献】

保草Ⅲp.338, 平草Ⅰp.94.
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 pp.670-671. 平凡社, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 イネ科>

シダミコザサ *Sasa samaniana* Nakai var. *yoshinoi* (Koidz.) S.Suzuki form. *hidejiroana* (Koidz.) S.Suzuki

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 1、県内分布 3、総点 12。本地域から記載された植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【形態】

一部常緑性。地下茎は横走する。稈は直立し、高さ 40～60cm、通常分枝せず、節はややふくらみ、密に長毛がある。新稈は初夏に出て、稈鞘にも密に毛がある。葉は稈の先端に 3～5 枚つき、長さ 2～5mm の柄があり、葉身は長楕円状披針形、長さ 13～20cm、幅 2.2～4cm、先端は鋭先頭、基部は広くさび形、やや厚い紙質、下面に軟毛が密生し、葉鞘は無毛である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山、芹沢 84160, 2009-6-9）に生育しており、ここが基準標本産地である。

【県内の分布】

名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、春日井に生育している。

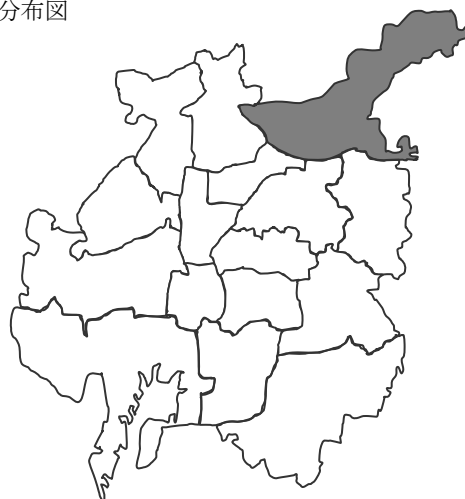
【国内の分布】

詳細はよくわからない。基準品種のビッチュウミヤコザサは、本州（東日本では太平洋側）、四国、九州に生育する。

【世界の分布】

日本固有。変種としても、また種としても、日本固有である。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の二次林内に群落を作って生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

ササ類のものとしては小規模だが、尾根近くにある程度の大きさの群落がある。沢沿いにも小群落がある。当面は現状のまま存続するものと思われるが、道路の拡張により群落が削られる可能性があり、森林化の進行により、被陰されて衰退すること考えられる。

【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。保全のためには、道路の拡張等を行うときに十分注意すること、常緑低木が繁茂する場合にはそれを除去することなどが必要である。

【特記事項】

一般にはビッチュウミヤコザサの節に毛がある型とされている。基準変種のアポイザサは、葉鞘にも毛がある。ミヤコザサとは、稈鞘と節に毛があることで異なる。これだけの差ならば、実際にはミヤコザサの品種にすぎないであろう。しかし、温帯性のミヤコザサ系の植物が名古屋市の丘陵地に生育しているという点では、注目に値する。愛知県のものに限れば、シダミコザサに当たるものはミヤコザサに比べ、多少葉質が厚い傾向がある。

【関連文献】

保木 II p.389, SOS 旧版 p.101, 愛知県 p.457.
鈴木貞雄. 1978. 日本タケ科植物総目録 p.230. 学習研究社, 東京.

(執筆 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 メギ科>

ヘビノボラズ *Berberis sieboldii* Miq.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、
県内分布 1、補正+1（準固有）、総点 12。本地域の湧水湿地を
特徴づける準固有種である。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	リスト外

【形態】

小形の落葉性低木。茎は細く、直立して多少分枝し、高さ 80cm くらいになり、鋭い刺針がある。刺針は長さ 5～15mm で、多くは基部で3分枝する。葉は倒卵形または倒披針形、長さ 3～9cm、幅 1～2cm、先端は鋭頭またはやや鈍頭、辺縁には先が刺状になった細かい鋸歯がある。花期は 4～5 月、短枝の先から垂れ下がる総状花序を出し、数個の黄色の花をつける。花序はふつう葉よりも短い。果実は赤く熟し、球形～やや楕円形、長さ約 6mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山、芹沢 53899, 1989-10-10; 吉根長廻間、芹沢 51066, 1989-4-4）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、田原東部、田原西部、足助、小原、藤岡、豊田東部、豊田北西部、岡崎北部、岡崎南部、幸田、西尾北部、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井の 15 区画で確認されている。シデコブシと同じような分布をしており、豊橋北部では発見されておらず、知多半島にもない。作手と豊橋南部で採集された標本もあるが、現地では確認できなかった。

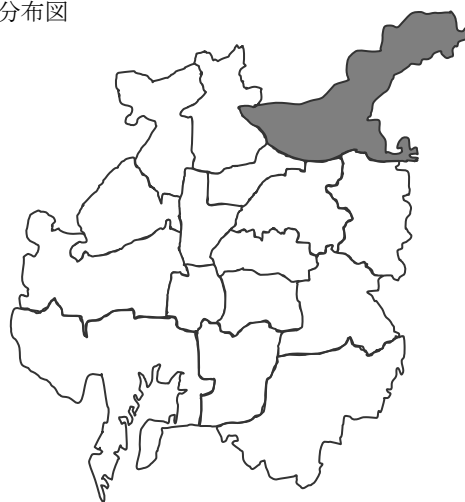
【国内の分布】

本州（東海地方西部、近畿地方）および九州（宮崎県）。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地周辺の林縁や疎林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では生育地も個体数も比較的多かったが、開発の影響により減少傾向が著しい。湿地周辺の森林化に伴う被陰によっても衰退している。

【保全上の留意点】

名古屋市東部を含む愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地は、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、絶滅危惧種も多く、優先して保全すべき場所である。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形をあわせて保全する必要がある。一方周囲の樹木については、「木を切ると水が枯れる」と心配する人もいるが、実際には話が逆で、森林化が進むと蒸散量が増加し、湿地の水が枯れてしまう。可能な限り樹木を伐採し、やせ山状態を維持する必要がある。

【特記事項】

鋭い針があつてヘビも登れないということで、ヘビノボラズという。しかし、時には刺針がほとんどないものもある。

【関連文献】

保木Ⅱp.174, 平木Ⅰp.129, SOS 旧版 p.51+図版 18, 愛知県 p.536.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キンボウゲ科>

ウマノアシガタ *Ranunculus japonicus* Thunb.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、県内分布 1。名古屋市では生育地が極めて少ない。現存するものは移入の可能性もあるが、さしあたり定性的に絶滅危惧Ⅱ類と判定しておく。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は高さ40～70cm、上部でよく分枝し、中部から下部に開出する長毛を密生する。根出葉は数個あり、長い柄があり、葉身は腎円形、幅3～7cm、3～5裂し、各裂片はさらに2～3裂する。花期は4～5月。花は径約2cm、花弁は広倒卵形、長さ10～12mm、黄色で光沢がある。集合果は球形、そう果は倒卵形、長さ2.5mm、残存花柱はごく短い。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区志段味で撮影された写真が、安原(1990)に掲載されている。標本資料は残されていない。最近では南区(大江川緑地、伊藤泰輔 17, 1992-4-26)で採集されているが、これは樹木と共に人為的に持ち込まれた可能性がある。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地、丘陵地には普通に見られる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、東海知多、美浜南知多、犬山、小牧、春日井で確認されている。

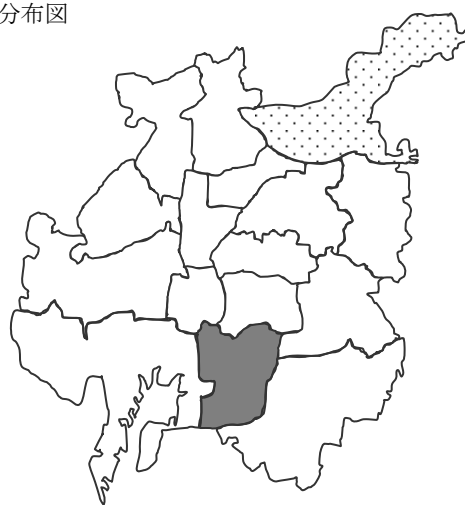
【国内の分布】

北海道(西南部)、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい土手や路傍の草地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

詳細は不明。個体数は見込み値である。大江川緑地で採集されているので絶滅危惧Ⅱ類と判定するが、「絶滅」とする方が適切かもしれない。

【保全上の留意点】

確実な自生集団があっても不思議ではない。更に注意して探索する必要がある。

【特記事項】

山里の春を飾る代表的な花の一つで、「こんな普通種が?」と思われる絶滅危惧種の一例である。名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られる植物もしばしば産量が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【引用文献】

安原修次. 1990. なごや野の花 p.26. エフエー出版, 名古屋.

【関連文献】

保草Ⅱ pp.244-245, 平草Ⅱ p.78.

(執筆 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ペンケイソウ科>

ツメレンゲ *Orostachys japonicus* (Maxim.) A.Berger**【選定理由】**

個体数階級 1、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県内分布 3、総点 13。愛知県では希少な、岩崖地性の植物である。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

1回開花性の多年生草本。根茎はない。葉は密生し、夏には直径12cmに達するロゼットをつくり、ロゼット葉は多肉質で披針形、長さ2.5~6cm、幅5~15mm、緑色または白色を帯びた緑色、先端は鋭頭で短針がある。冬のロゼットの葉は夏のものより小さく、先は硬くなり針状にとがる。花期は10~11月、ロゼット中央の軸の上方に円錐状の高さ8~30cmの花序をのぼし、密に白色の花をつける。花弁は5枚で披針形、長さ5~6mmである。

【分布の概要】**【市内の分布】**

中区(名古屋城、田崎 晶 s.n., 1997-11-6)。

【県内の分布】

名古屋市のほか、東三河の4区画、尾張の1区画に生育しているが、西三河では現在のところ確認されていない。名古屋城のものを移入と見なし除外すれば、愛知県での評価は絶滅危惧Ⅱ類になる。

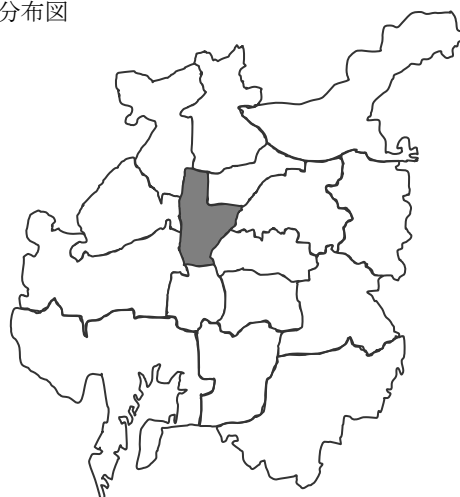
【国内の分布】

本州(関東地方以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

日当たりのよい岩上に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋城では石垣に大きな群落がある。生育状態も良好である。真の自生ではないかもしれないが、県内では最大の群落である。昔から園芸的に珍重され、集中的に採取されることが多い植物であるが、名古屋城の場合はあまりにも人目につくので、かえって保全されている。

【保全上の留意点】

文化財として保護されている場所であるため、強力な除草剤の使用などがなければ、当面は現状通り存続するものと思われる。ただし県内の他の場所では、園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、細く尖った葉が動物の爪に似ているからである。

【関連文献】

保草Ⅱp.159, 平草Ⅱp.149, SOS旧版p.55, SOS新版p.43, 愛知県p.540.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 マメ科>

ホドイモ *Apios fortunei* Maxim.**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、
県内分布 1、総点 13。名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

つる性の多年生草本。地下に球形～紡錘形の塊根をつける。葉は互生し、長さ 3～6cm の柄があり、葉身は奇数羽状複葉、小葉は通常 5 枚、頂小葉は卵形～広卵形、長さ 5～10cm、先はやや尾状に伸びて鈍端となる。花期は 7～9 月、花序は長く伸び、花は黄緑色、旗弁は長さ 7～8mm、竜骨弁は内側に曲がる。豆果は長さ 6～8cm、無毛で、5～6 個の種子を入れる。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（吉根八幡神社、日比野修 4589, 1998-7-23）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地では、どこにでもあるというわけではないが、点在する。尾張では少なく、名古屋市のほか瀬戸尾張旭、東海知多、小牧、春日井、稲沢で確認されている。

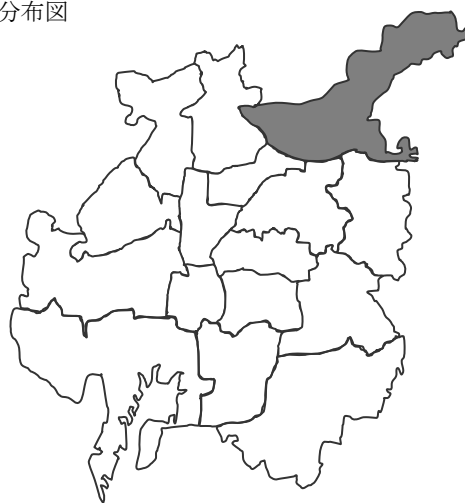
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および中国大陸。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地や丘陵地の日当たりのよい林縁に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

神社境内に少数株が生育していたが、最近の状況は確認されていない。生育地自体は当面保全されるものと思われるが、除草作業等によって失われる可能性もあり、存続の基盤は脆弱である。

【保全上の留意点】

本種のような散発的に生育している植物は、レッドデータブックの対象範囲が狭くなるにつれて 1 ヶ所で確認されているだけという事例が多くなる。このような植物をどの程度保全したらよいかについては、意見が分かれるものと思われる。適切な合意形成が必要である。

【特記事項】

地下の塊根は食べられる。

【関連文献】

保草Ⅱp.177, 平草Ⅱp.208.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 マメ科>

カワラケツメイ *Cassia nomame* (Makino) Honda**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県内分布 1、補正+1（帰化競合）、総点 12。攪乱地に生育する植物で、名古屋市ではかつては普通に見られたと思われるが、近縁の帰化植物との競合が著しい。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

一年生草本。茎は高さ 25～60cm になる。葉は互生し、短い柄があり、その上部に楕円形の蜜腺がある。葉身は線状披針形、長さ 3～8cm、小葉は 15～35 対つき、披針形～線状楕円形で鋭頭、長さ 5～10mm、幅 1～1.5mm である。花期は 8～10 月、花序は葉腋のやや上から出て 1～2 個の花をつける。花弁は黄色で倒卵形、4 枚は同形で長さ 5～6mm、下方の 1 枚は他よりやや大きい。豆果は扁平で細い平行四辺形、長さ 3～4.5cm、熟すと黒褐色になる。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味、渡邊幸子 5832, 2008-9-27, NBC1984）、天白区（植田山、西川勇夫 244, 1992-8-16; 道明町天白川堤、渡邊幸子 649, 1992-9-23）で確認されている。

【県内の分布】

山地には少ないが、山麓部から平野部にかけては広く分布している。尾張では名古屋市のほか、長久手日進、豊明東郷、大府東浦、半田武豊、常滑、美浜南知多、一宮東部、一宮西部、稲沢、津島愛西、海部南部で確認されている。

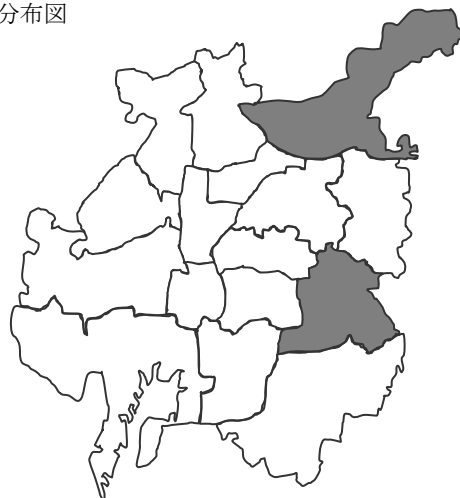
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

河川敷、造成地、路傍、やせた丘陵地の土手など、攪乱地または遷移の進行が遅く裸地状態が比較的長く維持されている場所に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では、造成地にアレチケツメイと混生して生育していた。天白区の 2 ヶ所のうち道明町では現在は見あたらず、植田山は最近の状況が未確認である。最近までアレチケツメイと混同されていたため現況の確認は不十分で、注意して探索すれば他にも生育地が確認できると思われる。しかしアレチケツメイとの競合により減少していることは確実で、名古屋市でも将来消滅するおそれがある。

【保全上の留意点】

もともと攪乱地に生育する植物であり、しかも減少の原因が帰化植物との競合であるので、現実的な保全策は講じにくい。当面は現状を正確に記録することが重要である。将来愛知県全体でも危機的な状況になった場合には、圃場での系統保存を考慮する必要がある。

【特記事項】

アレチケツメイは、本種とは葉柄上の蜜腺が有柄でキノコ状になること、葉身が幅広いこと、小葉の先端が丸味を帯びること、花弁のうち下側の 1 個が目立って大きいことなどで異なる。

【関連文献】

保草Ⅱp.93, 平草Ⅱp.188.

渡邊幸子. 2009. カワラケツメイを求めて. くさなぎおごけ(3):16-17.

芹沢俊介. 2009. カワラケツメイとアレチケツメイ. くさなぎおごけ(3):17-18.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 マメ科>

タヌキマメ *Crotalaria sessiliflora* L.

カテゴリー

【選定理由】

生育環境階級 2、人為圧階級 3、県内分布 1。偶発的に出現することが多い植物で、名古屋市では生育地が少ない。現存は確認できないが、偶発的に出現することが多い植物であることを考慮し、定性的に絶滅危惧Ⅱ類と評価した。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

1年生草本。茎は高さ30～70cmで、上向きの圧毛がある。葉は互生し、ほとんど無柄、葉身は単葉で線形～狭長卵形、長さ4～11cm、幅3～10mm、鋭頭である。花期は7～9月、茎や枝の先に長さ1～10cmの総状花序をつけ、2～20個の青紫色の花をつける。がくは開花時に長さ1cm程度、上下に2深裂し、さらに上側は2裂、下側は3裂し、全体に褐色の長毛が密生する。豆果は長楕円形、無毛、伸長したがくに包まれる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（標本なし）、千種区（覚王山、沢井輝男 s.n., 1932-9-23）、天白区（平針黒石、中島ひろみ 904, 2003-8-30）、緑区（鳴海町藤塚、渡邊幸子 1198, 1993-8-26）に生育していた。

【県内の分布】

丘陵地に多くはないが点在し、平野部でも稀に見られる。尾張では名古屋市のほか、豊明東郷、大府東浦、半田武豊、常滑、江南丹羽、小牧、春日井、岩倉西春日井、稲沢で確認されている。

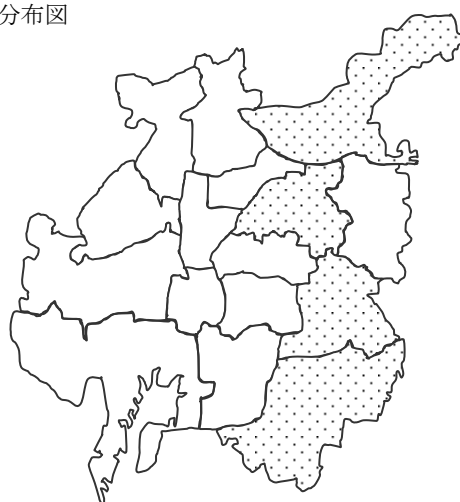
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本から東南アジア、インドにかけて分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

平地や丘陵地の日当たりのよい草地や土手に生育する。安定した生育地は少なく、生育を確認できた場所でもそのうちに消えてしまうことが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

天白区では、造成斜面の湧水のある場所、緑区では水田の縁に10数株が生育していたが、どちらも現在では見られなくなった。守山区では矢田川河川敷に数株生育していたが、標本を採取する前になくなってしまった。

【保全上の留意点】

そのうちにどこかに出現する可能性はあるが、その場所もおそらく永続はしないと思われる。個別的な対策では効果が少なく、自然環境の全体的な保全が必要と思われる。効果的な保全対策を立てることができないまま、いつの間にか消失してしまいそうな植物の一つである。

【特記事項】

和名は狸豆で、ふくらんで毛の多いがくがタヌキに似ているからである。

【関連文献】

保草Ⅱp.93, 平草Ⅱp.193.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 マメ科>

ハマエンドウ *Lathyrus japonicus* Willd.**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、
県内分布 2、総点 13。代表的な海浜植物で、名古屋市では僅かに
残存しているにすぎない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。全体に粉白色を帯びる。茎は地表をはって長さ1mに達し、先端部は斜上する。葉の
小葉は8～12枚、葉軸の先端は1～3本の巻きひげとなり、小葉は卵形～長楕円形、長さ1.5～4cm、
托葉は大きく、三角状卵形、先端は鋭頭となる。花期は4～7月。花は総状花序に3～6個つき、長
さ2.5～3cm、旗弁ははじめ赤紫色、のちに青紫色になる。豆果は無毛、長さ約5cm、幅約1cm、熟
すと黒褐色になる。

【分布の概要】**【市内の分布】**

港区（南陽町藤前、飯尾俊介 31, 1998-5-5）
に生育していた。

【県内の分布】

海岸部に広く分布しており、尾張では名古屋市のほか、大府東浦、半田武豊、常滑、美
浜南知多に生育している。

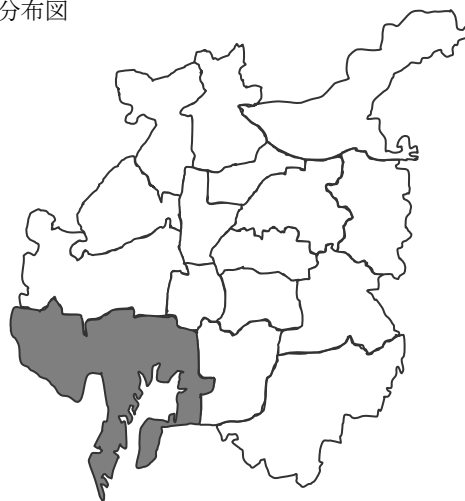
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

北半球の暖帯～亜寒帯に広く分布する。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

海岸の砂地に生育する。砂浜の代表的な植物である。

【現在の生育状況／減少の要因】

藤前干潟西側の護岸前側に形成された砂地に数株生育していたが、最近の状況は確認されてい
ない。

【保全上の留意点】

名古屋市市内には本種が本来生育する砂浜的環境が残されていない。このような名古屋市では希少
でも県全体としてはさほど希少でない植物が、それも本来の生育環境とは異なる二次的な場所に生
育している場合、保全すべきかどうかは議論が分かれるものと思われる。

【特記事項】

砂浜性の植物としてはハマニガナ *Ixeris repens* (L.) A.Gray も「西一区にわずかに生育」と報告
されている(中部植生研究グループ 1992)が、標本等は残されておらず、現存も確認できなかった。

【引用文献】

中部植生研究グループ. 1992. 名古屋市の植生自然度及び自然保護に関する調査報告 p.103. 名古屋市環境保全局.

【関連文献】

保草Ⅱ p.104, 平草Ⅱ p.200.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 バラ科>

オオウラジロノキ *Malus tschonoskii* (Maxim.) C.K.Schneid.**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、
県内分布 1、総点 13。山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の小高木。高さ 10m くらいになる。若枝は綿毛を密生し、若木の幹にはとげが目立つ。葉は互生し、葉柄は長さ 2~4cm、綿毛が密生する。葉身は卵形または楕円形、長さ 8~14cm、先端は鋭頭、基部は円形またはやや心形、ふぞろいな鋸歯または重鋸歯がある。花期は 5 月。花は短枝の先に 4~6 個が散状につき、白色で直径約 3cm、花弁は 5 枚で楕円形である。果実は球形で、直径 2~3cm、頂端に直立したごく裂片が残存する。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味東谷山、日比野修 4407、1998-4-19）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河には点在する。尾張では少なく、名古屋市以外は瀬戸尾張旭と春日井で確認されているだけである。

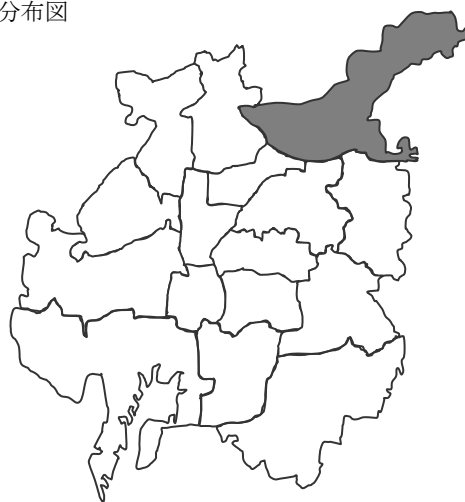
【国内の分布】

本州および九州（九重山）。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地や丘陵地の林内に生育する。愛知県では散在するだけであまり群落を作らず、個体数もそれほど多くない樹木である。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では、唯一の山地状の場所である守山区東谷山に生育している。個体数は少なく、樹勢も次第に衰退している。

【保全上の留意点】

東谷山には、本種以外にも名古屋市ではこの場所にしか見られない植物が多数生育している。湿地周辺については伐採が望まれる場所もあるが、それ以外は攪乱や植栽などを極力回避し、できるだけ現在の自然状態を保全すべきである。

【特記事項】

オオズミとも呼ばれる。

【関連文献】

保木Ⅱp.42, 平木Ⅰpp.226-227.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ブナ科>

フモトミズナラ *Quercus crispula* Blume var. *mongolicoides* (H.Ohba) Seriz.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、補正+1（準固有）、総点 13。愛知県の丘陵地を特
徴づける植物の一つで、名古屋市内では生育地が限られてい
る。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の高木。高さ 15m くらいになる。若枝は太くても直径 3mm 程度、帯紫褐色、ほぼ無毛である。葉は互生し、ほとんど無柄か長さ 5mm 以下の短柄があり、葉身は通常倒洋梨形、長さ 12～22cm、幅 5～15cm、先端は丸味を帯びて鈍頭、基部は円形～浅い心形、辺縁の鋸歯は 10～15 対で、円～鈍頭である。花期は 4 月、雄花序は新枝の下に多数ついて下垂し、雌花は新枝の上部の葉腋からでる短枝に数個つく。果実はその年の初秋に熟し、広楕円形、長さ約 2cm、殻斗は杯状で、多数の鱗状の総苞片におおわれる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味、村松正雄 16251, 1995-7-24）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、設楽西部、新城、豊橋北部、旭、小原、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、瀬戸尾張旭、長久手日進、小牧、春日井で確認されている。

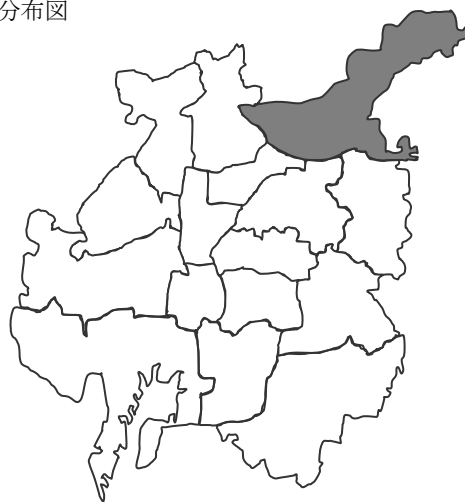
【国内の分布】

本州（関東地方北部、愛知県、岐阜県東濃地方。三重県レッドリスト 2014 によれば、最近三重県北部でも確認されたい）。北海道北部の海岸にも似たものがあるが、別系統と思われる。

【世界の分布】

日本固有。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

やせた丘陵地の、主として中腹から尾根にかけて生育する。沢沿いには通常生育しない。

【現在の生育状況／減少の要因】

瀬戸市を中心に、豊田市西部から日進市、春日井市にかけてが分布の中心域で、その末端が名古屋市にかかっている。この範囲では現在のところまだ個体数は多く、場所によっては優占種になっている。しかし、本種の生育する浅い丘陵地は全域にわたって宅地造成、工場用地造成、珪砂の採掘など強い開発圧にさらされており、本種も減少の一途をたどっていて、その点で将来の存続が懸念される。

【保全上の留意点】

愛知県のやせた丘陵地は、点在する湧水湿地以外の場所でも本種やオキアガリネズ、ミカワツツジ、本書でワタゲカマツカとした植物など特徴的な樹木が生育しており、また森林の発達が悪いためウンヌケをはじめとする多くの草地性植物が残存している。湿地以外の場所も保全上重要であることを認識する必要がある。

【特記事項】

本来温帯性のミズナラ系の植物が暖帯域の丘陵地に生育しているという点で重要である。新葉は黄緑色で、この時期には遠くからでも容易に確認できる。名古屋市産の植物の彩色画は、2004 年版図版 3 にモンゴリナラの名で掲載した。

【関連文献】

SOS 旧版図版 p.4, SOS 新版 p.70, 愛知県 p.521.

芹沢俊介. 2008. 東海地方丘陵地の「モンゴリナラ」. シデコブシ 1: 54-55.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 プナ科>

ウラジロガシ *Quercus salicina* Blume

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、
県内分布 1、総点 13。山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

常緑性の高木。高さ 20m に達する。2 年枝は灰白色である。葉は互生し、長さ 1~2cm の柄があり、葉身は長楕円形状披針形または披針形、長さ 7~11cm、先端は鋭尖形、基部は広いくさび形、辺縁の上部に少数の鋸歯がある。葉の裏面ははじめ黄褐色の絹毛を密生するが、のちに蠟質を分泌し雪白色となる。花期は 5 月。堅果は広卵形または広卵状楕円形で、長さ 1.2~2cm。殻斗は半球形、径約 1.2cm、総苞片は短毛を密生し、通常 7 個の環をつくる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山、日比野修 4553、1998-6-20）に生育している。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地には広く分布する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、美浜南知多、犬山、小牧、春日井で確認されている。

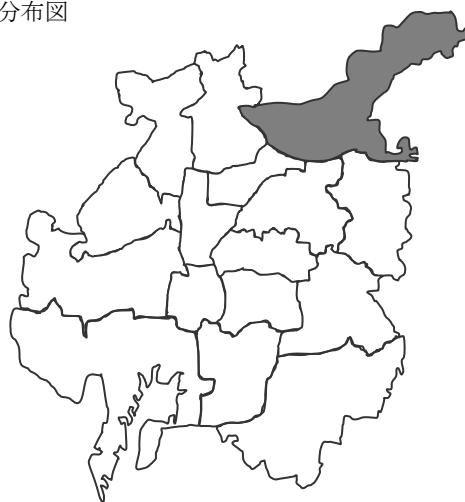
【国内の分布】

本州（宮城県以南）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、済州島、台湾。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地カシ林の主要構成種で、比較的土壌の浅い場所に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では、唯一の山地状の場所である守山区東谷山の中腹に生育している。

【保全上の留意点】

森林の高木層構成種として、伐採を回避する必要がある。その一方で東谷山では、鳥獣の保護と称してその餌となる植物を植栽する動きがあり、本来の自然状態に対する大きな脅威になっている。自然の中に、本来その場所に生育していない種を植栽してはならないことは改めて指摘するまでもないが、その場所に生育している種を植栽することは、遺伝的攪乱という点で、ある意味では自然に対してより一層深刻な悪影響を与えるおそれがある。本種の場合も、「ドングリのなる木」だからと言って植栽を行わないよう、特に注意する必要がある。

【特記事項】

シラカシ *Q. myrsinaefolia* Blume からは、枝が灰白色で葉裏が粉白になること、堅果が 2 年目に熟すことなどで区別できる。

【関連文献】

保木Ⅱp.274、平木Ⅰp.74。

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 カバノキ科>

カワラハンノキ *Alnus serrulatoides* Callier**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、
県内分布 1、総点 12。中流域の川岸に生育する植物で、名古屋市
では生育可能な場所が局限されている。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の低木または小高木。枝は無毛で、暗褐色または暗紫褐色を帯びる。葉は長さ 5～10mm の柄があり、葉身は広倒卵形、長さ 5～10cm、幅 3～7cm、先端は円頭または微凹頭、ときに微凸頭、基部は広いくさび形、辺縁には浅い細鋸歯があり、側脈は7～9対、下面の脈上や脈腋に多少毛がある。花期は2～3月、雄花序は枝先に2～5個、雌花序はその下の葉腋に1～5個つく。果穂は卵状楕円形、長さ15～20mmである。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区に生育している。標本としては下志段味庄内川（鳥居ちゑ子 670, 1994-7-16）があるが、この場所のものは東海豪雨により消失した。

【県内の分布】

三河山間部の川沿いには多い。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、江南丹羽、春日井、一宮東部に生育している。

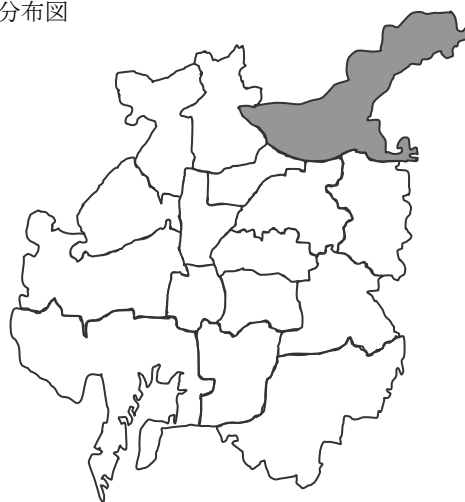
【国内の分布】

本州（東海地方以西）、四国、九州（宮崎県）。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

河川中流域の川岸の岩場に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

庄内川中流の渓谷部には連続的に生育しており、その末端がわずかに名古屋市に達している。現在のところ特に減少してはいないが、護岸工事等があれば名古屋市からは容易に消滅してしまう。東海豪雨以前は、より下流の礫の河川敷にも少数個体が生育していた。

【保全上の留意点】

名古屋市内では、他に本種が安定して生育できそうな場所はない。生育地周辺で護岸工事や河川改修工事を行う場合には、配慮が必要である。

【特記事項】

葉裏に毛が多いものをケカワラハンノキというが、この型は名古屋市を含む尾張では確認されていない。

【関連文献】

保木Ⅱp.287, 平木Ⅰp.55.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ウリ科>

ゴキヅル *Actinostemma lobatum* (Maxim.) Maxim. ex Franch. et Sav.**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 12。低湿地性の植物で、名古屋市では生育地が限られている。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

つる性の1年生草本。茎は長く伸びて巻きひげで他物にからみつく。葉は互生し、長さ1.5～6cmの柄があり、葉身は三角状卵形～三角状広披針形、長さ5～12cm、幅2.5～7cm、時に下部が横に張り出して浅～中裂し、先端は鋭尖頭、基部は心形、辺縁には低い鋸歯がある。花期は8～10月、花序は長いものでは8cmくらいになり、上部に雄花を総状につけ、基部に少数の雌花をつける。雄花は帯黄白色、直径8～10mm、がくも花冠も5裂して先は細く長く尖る。果実は卵形～楕円形、長さ1.5～2cm、熟すと上半部が外れ、中に2個の大きい種子がある。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区(瀬古堀川, 芹沢 88962, 2013-9-29)、中区(名古屋城堀, 中村 肇 485, 2013-9-8, NBC1213)、西区(庄内緑地公園, 芹沢 80103, 2005-8-14)、中川区(福島, 高木順夫 136, 1992-7-5)、港区(寺前町福田川, 芹沢 83569, 2008-10-12)に生育している。

【県内の分布】

平野部の水辺に生育しており、尾張では名古屋市のほか豊明東郷、大府東浦、半田武豊、美浜南知多、小牧、岩倉西春日井、一宮西部、稲沢、あま大治、津島愛西、海部南部の11区画で記録されている。

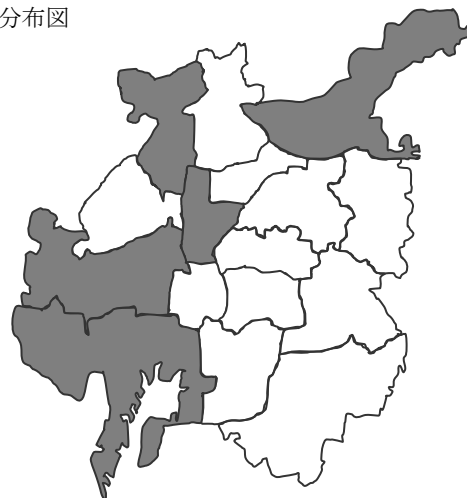
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆、ベトナム。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

河川敷や池畔などの湿った草地に生育する。どこにでもあるというわけではないが、ある場所では群生していることが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市内でもまだところどころに生育しているが、水辺環境の劣化に伴い、次第に減少している。

【保全上の留意点】

現在のところ個体レベルの保全に関してはそれほど神経質になる必要はないが、河川敷などに残存する低湿地的環境の保全は重要な課題である。

【特記事項】

和名は合器蔓で、果実が熟すと上半部がふたのように外れるからである。

【関連文献】

保草 I p.99, 平草 II p.259.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ヤナギ科>

キヌヤナギ *Salix kinuyanagi* Kimura

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、補正+2（固有）、総点 12。本地域の固有種で、平
野部の低湿地を特徴づける種でもある。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	リスト外

【形態】

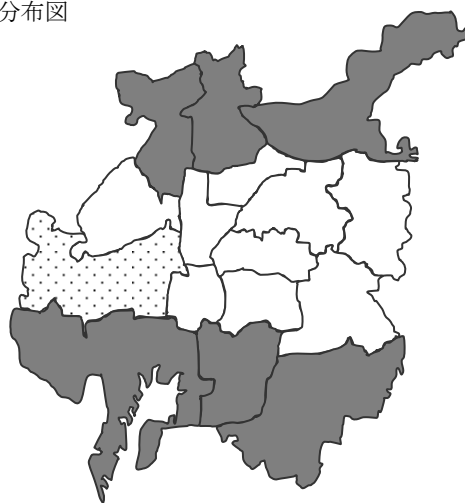
落葉性の低木または小高木。高さ 2～6m になる。小枝は長くてやや太く、灰色の軟毛が密生する。葉は狭披針形、長さ 10～20cm、幅 1～2cm、先端は長く鋭尖形、基部は鋭形または鈍形、辺縁はわずかに裏側に巻き、不明瞭な低い鋸歯があり、表面は緑色でやや光沢があり、裏面は銀白色の毛を密生する。雌雄異株で、花期は 3 月中旬～4 月上旬、雄花穂は楕円形～長楕円形で無柄、小枝にやや密につき、長さ 2.5～3.5cm、雌花穂は円柱形で長さ 3.5cm 程度である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根日ノ後池、村松正雄 17640, 1998-4-19）、緑区（鳴海町螺貝戸笠公園、渡邊幸子 6893, 2014-7-2; 大高緑地、芹沢 77448, 2001-6-23 など）、北区（楠町庄内川、鈴木秀樹 2660, 1996-6-20）、西区（堀越町庄内川、村松正雄 17486, 1998-3-29）、南区（鶴里町天白川、渡邊幸子 1705, 1994-7-3, NBC786）、港区（藤前五丁目、高木順夫 11873, 2003-12-13）に生育している。中川区（富田町庄内川、芹沢 77268, 2001-5-6）にもあったが、河川改修工事により消滅した。

市内分布図



【県内の分布】

自生と思われるものは、名古屋市のほか、小原、豊田北西部、岡崎北部、安城、瀬戸尾張旭、小牧、春日井、一宮西部、あま大治、津島愛西で確認されている。河川敷のヤナギ林の構成種であるが、木曽川以外では少ない。このほかにも県内のところどころに生育しているが、その多くは植栽品か、植栽起源の逸出品と思われる。

【国内の分布】

愛知県および岐阜県（木曽三川下流部、庄内川、矢作川水系）と滋賀県（琵琶湖岸）に分布する。ただし、北海道および東北地方北部に分布するエゾノキヌヤナギ *S. pet-susu* Kimura との差違は軽微である。

【世界の分布】

日本固有種。種の範囲を大きく取り、エゾノキヌヤナギも含めて、日本、朝鮮半島、中国大陸北東部、シベリア東部に分布する（この場合学名は *S. schwerinii* E.Wolf となる）とする見解もある。

【生育地の環境／生態的特性】

河川敷などの低湿地に生育する。中流の溪谷部では見られず、また最下流部にもない。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では庄内川の河川敷に点在するほか、南区の天白川、緑区の大高緑地に生育しているが、個体数は少ない。庄内川のは河川改修工事により減少している。緑区では他の場所にも点在するが、栽培品が逸出した可能性がある。

【保全上の留意点】

河川敷などの低湿地的環境を、全体として保全する必要がある。増水などによる適度の攪乱は、本種の個体群維持のためにはむしろ望ましいことである。

【特記事項】

葉裏に白色の絹毛が多く美しいのでキヌヤナギという。本種は本州（主として関東地方以西）、四国、九州で広く栽培されており、従来は雄株しか知られていなかったため、江戸時代に朝鮮半島などから渡来したものと考えられてきた。しかし実際には、これもかつては中国原産と考えられていたシデコブシと同様、名古屋周辺で選抜育種され、全国に広まった植物であろう。

【関連文献】

保木Ⅱp.320, 平木Ⅰp.43, SOS 旧版 p.45+図版 27, SOS 新版 p.134, 愛知県 p.490.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 スミレ科>

アギスミレ *Viola verecunda* A.Gray var. *semilunaris* Maxim.**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 13。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は直立または斜上し、高さ 45cm に達する。葉は根出するか茎に互生し、下部のものには長さ 5~15cm の柄があり、中上部の葉の葉身は三日月形、主脈は長さ 1.2~3cm で両側はそれと同じかそれ以上後方に張り出し、幅 2.5~5.5cm である。花期は 5~6 月、花は長さ 5~10cm の柄の先に 1 個ずつつき、白色または淡い紫色、花弁は長さ 8~10mm、唇弁に紫条がある。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味東谷、芹沢 55325、1990-5-31）と緑区（大高緑地、標本なし）に生育している。

【県内の分布】

山地~丘陵地に点在し、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、東海知多、常滑、犬山、小牧で確認されている。

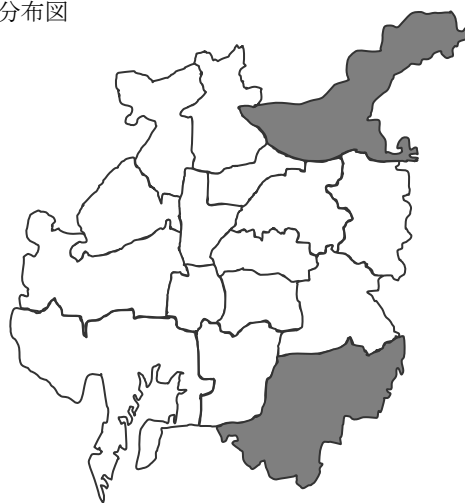
【国内の分布】

北海道および本州。

【世界の分布】

日本固有。種としては千島列島南部から中国大陸にかけて分布する。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地や丘陵地の湿地に生育する。愛知県では湧水湿地下部の泥質の場所やミズゴケ類の間に生育していることが多い。日当たりのよい場所から半日陰の場所まで生育しており、時には谷戸の休耕田にも見られる。

【現在の生育状況／減少の要因】

現存する場所ではそれぞれ小群落がある。丘陵地の開発によって減少し、現在の状態に追い込まれたものと思われる。

【保全上の留意点】

典型的な湧水湿地性の植物ではないが、それに関連した場所に生育している。湿地を水源とともに保全することが必要である。

【特記事項】

ヒメアギスミレ var. *subaequiloba* (Franch. et Sav.) F.Maek. と混同されることもあるが、ヒメアギスミレが沢沿いの林下に多いのに対し、本変種の生育地は湿地に限られている。ツボスミレとの間には、時にどちらともつかない中間型がある。

【関連文献】

保草Ⅱp.54, 平草Ⅱp.252.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 オトギリソウ科>

サワオトギリ *Hypericum pseudopetiolatum* R.Keller

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 13。山地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。茎は束生し、基部は地表をはい、先は立ち上がり、長さ 20～50cm になる。葉は対生し、ほとんど無柄かごく短い柄があり、葉身は倒卵形～長楕円形、長さ 2.5～4cm、先端は円頭または鈍頭、基部はくさび形、質は薄く、多数の明点があり、辺縁に黒点がある。花期は 7～9 月、枝先に 2 出集散花序をつけ、花は黄色で直径 8～10mm、花弁は 5 枚である。蒴果は広卵形、長さ 5～8mm になる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山、鳥居ちゑ子 2356, 2003-8-1）に生育している。中村区（日比津町川東、鶴岡佐知子 579, 1993-9-21）で採集された標本もある。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地にはやや普通に見られる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井で確認されている。

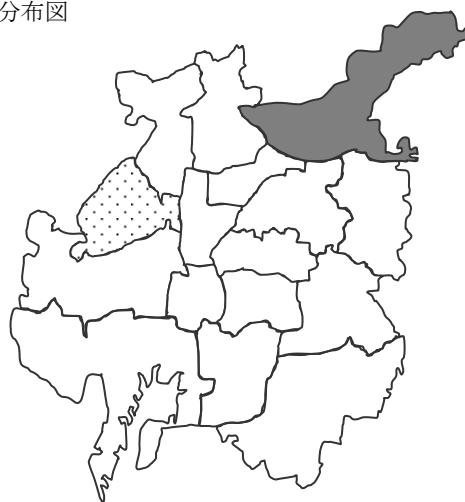
【国内の分布】

北海道（西南部）、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いの開けた場所や、山すその湿った草地に生育する。山地には比較的多いが、平野部ではほとんど見られない。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では、狭い範囲に数株が生育していた。中村区のものは通常ならアゼオトギリの生育しそうな場所であるが確かにサワオトギリで、庄内川の上流から運ばれて一時的に生育していたものと思われる。

【保全上の留意点】

「こんな植物が？」と思われる絶滅危惧種の一例である。名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られる植物もしばしば産量が極めて少なく、たまたまその場所で工事などがあると容易に絶滅してしまう。

【特記事項】

アゼオトギリ *H. oliganthum* Franch. et Sav. は低湿地性の植物で、全国的に減少傾向が著しく、愛知県でも極めて希少である。名古屋市内でも庄内川河川敷などに生育している可能性はあるが、まだ発見できない。

【関連文献】

保草Ⅱp.66, 平草Ⅱp.117.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 アカバナ科>

ウスゲチョウジタデ *Ludwigia greatrexii* H.Hara

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	国リスト
環境省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 12。愛知県では生育地も個体数も多く、水田雑草としてしばしば出現し、当面絶滅が危惧される状態ではないが、名古屋市では水田そのものが減少していることもあってごく稀である。

【形態】

1年生草本。茎は直立または斜上し、よく分枝して、高さ30～70cm、細毛があり、あまり紅色を帯びない。葉は互生し、短い柄があり、葉身は披針形～長楕円状披針形、長さ7～8mm、幅1～2cm、先端は鋭～鈍頭、辺縁は全縁、細毛がある。花期は8～10月、花は葉腋に1個ずつつき、無柄、がく片はふつう5個で、長さ3～4mm、花弁は5枚で倒卵形、長さ約4mm、花床には白毛が密生する。蒴果は線形でやや曲がり、長さ約2cm、先端にがく片が残存する。

【分布の概要】

【市内の分布】

西区（庄内緑地公園、芹沢 80104, 2005-8-14）、中川区（吉津一丁目、芹沢 78131, 2002-9-16）で確認されている。

【県内の分布】

名古屋市のほか、東栄、鳳来北東部、鳳来南部、鳳来北西部、新城、豊川、蒲郡、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、田原西部、額田、岡崎北部、安城、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、大府東浦、東海知多、半田武豊、常滑、美浜南知多、江南丹羽、岩倉西春日井、一宮東部、一宮西部、あま大治、津島愛西、海部南部の29区画で確認されている。ていねいに調査すれば、このほかにもいくつかの区画で確認されると思われる。ただし、三河山間部には分布していないらしい。

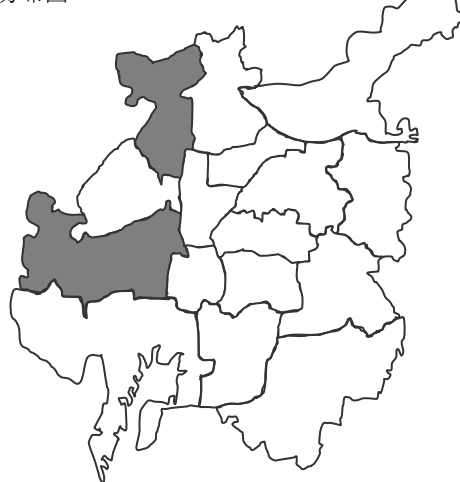
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、九州、琉球。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

夏～秋の水田雑草である。低湿地に生育することもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

中川区では1ヶ所の水田に、少数株が生育していたにすぎない。隣接する大治町では、やや普通に生育している。ていねいに探索すれば、港区でも確認できると思われる。

【保全上の留意点】

名古屋市内では水田そのものがなくなりかけており、本種もやがては市内から絶滅するものと思われる。耕地整理されていない水田が生物多様性保全に果たしている役割を、よく認識する必要がある。

【特記事項】

本種が環境省のレッドリストに掲載されたのは、チョウジタデと混同されており、そのため全国的に情報が少なかったことによると思われる。チョウジタデからは、毛の状態を見なくても、全体にあまり紅色を帯びず、花弁もがく片も大きいことで区別できる。

【関連文献】

保草Ⅱp.44, 平草Ⅱp.267, 愛知県p.631.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ジンチョウゲ科>

ガンピ *Diplomorpha sikokiana* (Franch. et Sav.) Honda**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、
県内分布 1、総点 13。低山地に多い低木で、名古屋市では生育地
が極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の低木。高さ 2m くらいになる。葉は互生し、長さ 2～3mm の短い柄があり、葉身は卵形、
長さ 1.5cm～8cm、先端は鋭頭、基部はくさび形または円形、全縁、裏面は密に絹毛があり灰白色
となる。花期は 5～6 月、枝先の頭状花序に 7～20 個の花をつける。花は淡黄色、がく筒は長さ約
8mm、がく裂片は楕円形で長さ 2～3mm である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味東谷、芹沢 84164,
2009-6-9; 下志段味吉田、鳥居ちゑ子 634,
1994-5-28）に生育している。

【県内の分布】

低山地～丘陵地に点在し、尾張では名古屋
市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、大府東
浦、半田武豊、犬山、小牧、春日井で確認さ
れている。

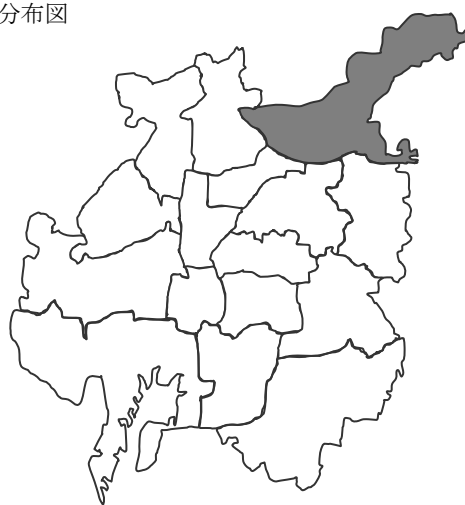
【国内の分布】

本州（静岡県以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

低山地の尾根すじに生育することが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

やせた丘陵地の林縁部に小群落がある。個体数は次第に減少している。

【保全上の留意点】

丘陵地の地形を保全することが必要である。東海層群の丘陵地の、高木林が成立しない乾燥した
やせ地には、大陸系の植物であるウンヌケが生育しているほか、ネズミサシとハイネズの浸透性交
雑に起源するオキアガリネズ、ミカワツツジと呼ばれるヤマツツジの一型などが多く、本書でワタ
ゲカマツカとした植物も生育している。やせ地内に点在する湧水湿地の重要性は近年広く認識され
るようになったが、湿地以外の場所も、本地域の自然を特徴づける場所として重要である。

【特記事項】

樹皮は繊維が強靱で、雁皮紙の原料となる。

【関連文献】

保木Ⅰp.225、平木Ⅱp.81.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 アブラナ科>

コイヌガラシ *Rorippa cantoniensis* (Lour.) Ohwi

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 2、総点 12。水田雑草で、名古屋市では生育地が極めて
少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	国リスト
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

1 年生または越年生の草本。茎は下部からよく分枝し、高さ 10～40cm になる。葉は互生し、下部のものは有柄、上部のものは無柄、葉身は長さ 2～10cm、基部に耳部があり、羽状深裂、裂片は長楕円形で辺縁に鋸歯がある。花期は4～5月、葉腋から短い花柄を出し、黄色の花をつける。がく片は直立し、長楕円形で長さ約 1.5mm、花弁は倒卵形で長さ 2～2.5mm である。果実はさく果で直立し、円柱形、長さ約 7～9mm、幅 1.5～2mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（瀬古庄内川、鈴木秀樹 1580, 1996-4-7）、西区（砂原町、鳥居ちゑ子 2272, 2003-4-16 など）、港区（南陽町七島、芹沢 79163, 2004-5-10 など）に生育している。

【県内の分布】

愛知県の平野部では比較的多く、名古屋市のほか豊川、豊橋北部、安城、高浜碧南、瀬戸尾張旭、春日井、岩倉西春日井、一宮西部、稲沢、あま大治で確認されている。

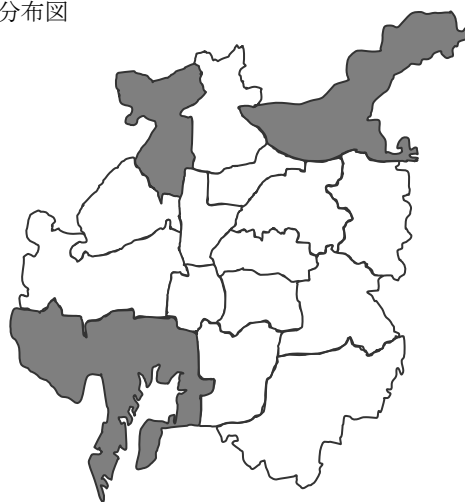
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、アムール、ウズリー。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

水田や低湿地に生育する。多少耕地整理の進んだ水田にも生育しており、場所によっては春の水田雑草となっている。

【現在の生育状況／減少の要因】

港区では南陽町に現存する。西蟹田の水田にもかなりの個体が生育していたが、埋め立てられて見られなくなった。西区砂原町では住宅地の間に残された 1 枚の水田に小群落があったが、この場所が今も水田であるかどうかはわからない。この他に西区枇杷島町と守山区瀬古の庄内川河川敷でも採集されているが、これらの場所では最近の状況が確認されていない。個体数、集団数は見込み値である。

【保全上の留意点】

名古屋市内では水田そのものがなくなりかけており、本種もやがては河川敷以外では見られなくなるものと思われる。耕地整理されていない水田が生物多様性保全に果たしている役割をよく認識する必要がある。一方、河川敷の低湿地は、平野部の本来の自然の姿を残す貴重な場所である。河川改修や河川敷の利用に当たっては、このような自然特性を根底から破壊しないよう、適切な配慮が必要である。

【特記事項】

花柄が短く、見かけはイヌガラシやスカシタゴボウとはずいぶん異なっている。

【関連文献】

保木Ⅱp.183, 平木Ⅰp.136, SOS 新版 p.139, 愛知県 p.629.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 タデ科>

ナガバノウナギツカミ *Persicaria hastatosagittata* (Makino) Nakai

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 13。低湿地性の植物で、名古屋市では生育でき
そうな場所が激減している。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

1年生草本。茎の下部は地面をはい、上部は分枝して直立し、高さ 50～80cm、まばらに短い下向きの刺毛がある。葉は互生し、中下部のものには長さ 1.5～3cm の柄があり、葉身は披針形～広披針形、長さ 6～11cm、先端は鋭尖形、基部はほこ形または矢じり形である。托葉鞘は膜質で暗赤色を帯びる。花期は 9～10 月、花は枝先に密に集まり頭状、花序の柄や小花柄には黒い腺毛が多い。花被は 5 深裂し、下部は白色で上部は紅色、長さ約 4mm、そう果は 3 稜形である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味大村池、芹沢 88986、2013-10-5）、緑区（大高緑地公園、芹沢 89058、2013-10-16）、中川区（富田、高木順夫 3990、1993-10-9）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊橋北部、田原東部、豊田北西部、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、東海知多、岩倉西春日井、一宮東部、一宮西部、稲沢、あま大治、津島愛西などで確認されているが、どの区画でも普通に見られるものではない。

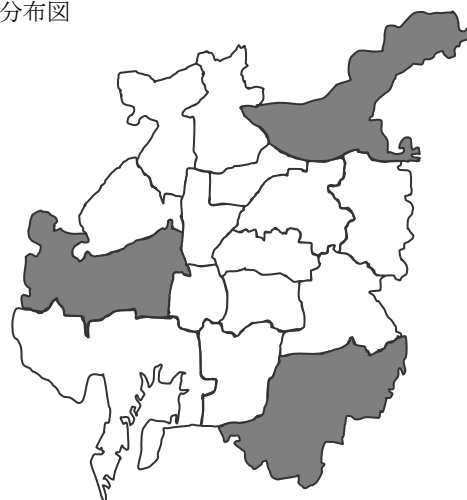
【国内の分布】

北海道（南部）、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

低地水辺の湿った草地に生育する。休耕田に生育することもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区ではため池の岸、緑区ではハナショウブが植えられた湿地に、それぞれ小群落となって生育している。中川区では水田中の小水路に沿って数 m の範囲に少数株が生育していたというが、最近の状態は確認されていない。

【保全上の留意点】

名古屋市内では断片的にしか残されていない低湿地的環境の保全が必要である。

【特記事項】

アキノウナギツカミ *P. sieboldii* (Meisn.) Ohki に似ているが、花序は淡紅色で大きく、よく目立つ。緑区のものは、茎に逆刺が全くない。

【関連文献】

保草Ⅱ pp.306-307、平草Ⅱ p.20.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 タデ科>

ウナギツカミ *Persicaria sieboldii* (Meisn.) Ohki var. *aestiva* (Ohki) Okuyama**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 13、湧水湿地周辺に生育する植物で、名古屋市
内では生育地が少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

1年生草本。茎は下部で分枝して直立し、高さ20～40cm、稜上に逆向する刺がある。葉は互生し、下部のものには長さ2cmに達する柄があるが上部のものはほとんど無柄、葉身は披針形、長さ3～7cm、先端は鈍頭、基部は矢じり形、裏面の中脈下部に逆刺があるほかは無毛、托葉鞘は長さ5～10mm、先は斜めに切れ無毛である。花期は5～6月、枝先に頭状花序をつけ、花序の柄には刺がない。花被は帯紅色または白色、長さ3～4mmで5裂する。そう果は3稜形で宿存する花被に包まれる。

【分布の概要】**【市内の分布】**

緑区（鳴海町、高木順夫 17824, 2009-6-15, NBC89）に生育している。千種区（東山動物園裏、芹沢 55339, 1990-5-31）、西区（二方町、太田さち子 6-8, 1990-6-30）で採集された標本もある。

【県内の分布】

多くはないが点在しており、名古屋市のほか新城、豊川、豊橋北部、下山、小原、藤岡、豊田北西部、幸田、西尾南部、瀬戸尾張旭、犬山、春日井、岩倉西春日井、稲沢などで確認されている。

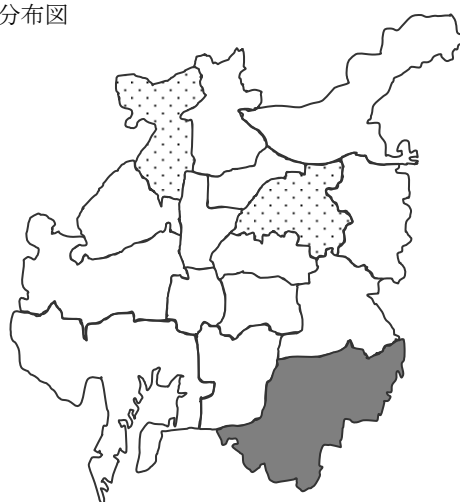
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

ため池の岸、湧水湿地周辺の溝、湧水のある水田の周辺などに生育することが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

緑区では、水辺の数mの範囲にある程度の個体数が生育していたという。千種区では東山公園内の湿地に小群落があったが、この湿地は高速道路の建設によって消失した。西区は詳細不明。

【保全上の留意点】

多少攪乱された場所に生育する植物であるが、それでも過度の攪乱には耐えることができない。生育地の自然環境を、全体として保全することが必要である。

【特記事項】

アキノウナギツカミ var. *sieboldii* に似るが、草丈が低く直立すること、葉が小さく先がまるくなること、花期が春から夏であることなどにより区別される。しかし、どちらもつかないような型も存在する。詳しくは芹沢（2008）参照。

【引用文献】

芹沢俊介. 2008. アキノウナギツカメズ. シデコブシ 1:51-53.

【関連文献】

保草Ⅱp.306, 平草Ⅱp.21.

（執筆 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 タデ科>

アキノミチヤナギ *Polygonum polyneuron* Franch. et Sav.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 13。塩湿地性の植物で、名古屋市では生育できそうな場所がほとんど残されていない。

【形態】

1年生草本。茎は通常斜上し、分枝して、高さ 80cm に達する。葉はほとんど無柄、葉身は披針形または長楕円形、長さ 2～3cm、先端は鋭形または鈍形である。枝の上部の葉は小さくなり、落ちやすい。花期は9～10月、花がつく部分はまばらな穂状花序のようになり、各節に2～3個の花をつける。花被は長さ 1.5～3mm、そう果は3稜形である。

【分布の概要】

【市内の分布】

南区（滝春町大江川、渡邊幸子 4598, 2000-10-19）に生育している。港区側にもある。南区加福町（渡邊幸子 4027, 1999-9-19, NBC903）にも生育していたが、そこでは絶滅した。庄内川河口部にも生育しているようだが、確実な資料はまだ得られていない。

【県内の分布】

沿海地には点在しており、名古屋市のほか豊橋南部、田原東部、田原西部、高浜碧南、西尾北部、西尾南部、大府東浦、東海知多、半田武豊、常滑、美浜南知多、海部南部で確認されている。

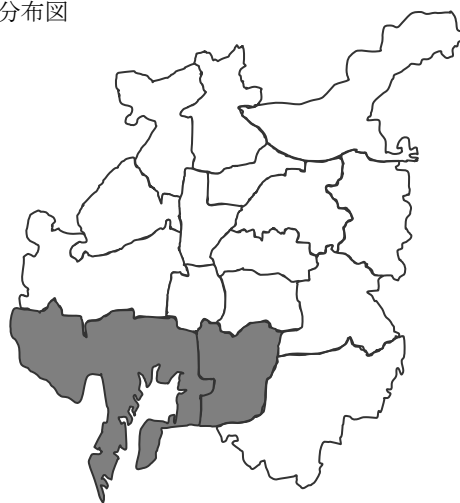
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸の塩湿地周辺部に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

ヨシ群落の間に点々と生育している。南区加福町の貯木場跡地にあったものは、名古屋市の一般廃棄物最終処分場造成工事のため埋め立てられて絶滅した。

【保全上の留意点】

大江川はすっかり護岸されているが、それでもコギシギシが多く、本種などの塩湿地性植物の生育場所にもなっている。都市域の生物多様性を保全するためには、このような場所も重要であることを認識する必要がある。

【特記事項】

内湾の塩湿地やそれに隣接する砂浜は、開発圧力が高く、全国的にも急激に減少している。現在残存している場所は、特に注意して保全する必要がある。生育地は 2 つの区にまたがっているが、実質的に 1 ヶ所なので、集団数階級は 4 である。

【関連文献】

保草Ⅱpp.302-303, 平草Ⅱp.17.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 タデ科>

コギシギシ *Rumex nipponicus* Franch. et Sav.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 2。総点 12。人為的な影響を受けやすい場所に生育し
ており、存続の基盤が脆弱である。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	国リスト
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

多年生草本。高さは通常 30～50cm である。茎の下部の葉には長い柄があり、葉身は長楕円状披針形～披針形、長さ 5～10cm、幅 1.5～3.5cm、先端は鈍頭、基部は広いくさび形～浅い心形、辺縁はやや波状になり、両面とも無毛である。上部の葉は互生し、次第に小さくなる。花期は4～5月、果実をかこむ花被片は卵形で長さ 4mm 程度、辺縁に顕著な刺毛があり、中肋のこぶ状突起は長卵形で、長さは花被片の約 2/3 である。

【分布の概要】

【市内の分布】

港区（南陽町西茶屋、芹沢 79165, 2004-5-10; 本星崎町大江川、芹沢 77166, 2001-4-9）、南区（滝春町大江川、渡邊幸子 4658, 2001-5-6）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊橋南部、田原東部、田原西部、大府東浦、常滑、岩倉西春日井、あま大治の 7 区画で確認されている。

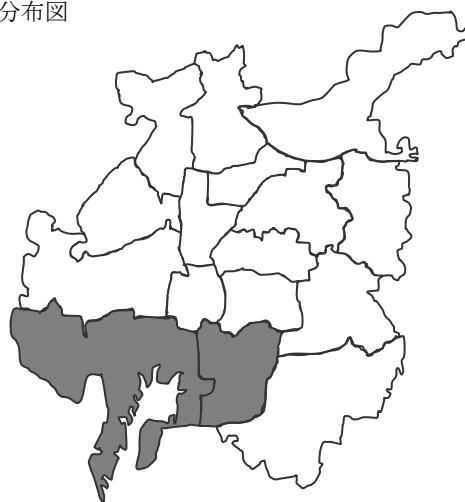
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

路傍の荒地などに散発的に出現することもあるが、本来の生育地は低湿地と思われる。耕起前の水田雑草として出現することもある。名古屋市では水田や河口塩湿地の周辺部に生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では、大江川河口部と庄内川・新川河口部、港区南陽町の区画整理事業地で確認されている。大江川では個体数が多く、生育状態も良好であった。庄内川・新川では個体数は少なかった。

【保全上の留意点】

まとまった集団については、個別的な保全が必要である。散発的に出現するものについては保全は難しく、確実な標本資料の確保につとめる方がよい。

【特記事項】

エゾノギシギシに似ているが、茎はやや紅色を帯びることが多く、葉は小さく、裏面は無毛である。また、エゾノギシギシが他のギシギシ類よりやや遅く開花するのに対し、本種は他のギシギシ類よりやや早く開花する。「日本の野生植物Ⅱ」14 図版に本種として掲載されている写真は、エゾノギシギシである。全国的にやや希少な植物であったが、愛知県では近年増加傾向にある。帰化系統が混在している可能性があり、詳細な分類学的検討が必要である。

【関連文献】

保草Ⅱp.296, 平草Ⅱp.16, 環境庁 p.437, SOS 旧版 p.48, SOS 新版 p.139, 愛知県 p.627.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 ヒユ科>

ヤナギイノコヅチ *Achyranthes longifolia* (Makino) Makino**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 2、総点 12。名古屋市では生育地が限られており、個体
数も少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。地下茎は塊状で木質化する。地上茎は高さ 50～130cm になり、まばらに枝を分ける。
葉は対生し、葉柄は長さ 1～3cm、葉身は長楕円形～広披針形、長さ 10～20cm、幅 3～6cm、先端
は鋭尖頭、基部はくさび形のことが多く、辺縁はほぼ全縁、表面は深緑色でやや光沢がある。花期
は 8 月下旬～10 月、花序ははじめ 3～6cm だが、果期には長く伸びる。小花は長さ 5～6mm、小苞
基部の付属片は卵形～卵状三角形で小さい。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（中志段味才井戸流、芹沢 88201,
2012-10-27; 竜泉寺、芹沢 87502, 2011-10-16
など）、天白区（相生山緑地、渡邊幸子 4928,
2001-10-13）に生育している。

【県内の分布】

尾張には点在するが、西三河、東三河では
極めて稀である。県内では現在までに名古屋
市のほか田原西部、西尾南部、瀬戸尾張旭、
犬山、春日井、岩倉西春日井、一宮東部、一
宮西部の 8 区画で確認されている。

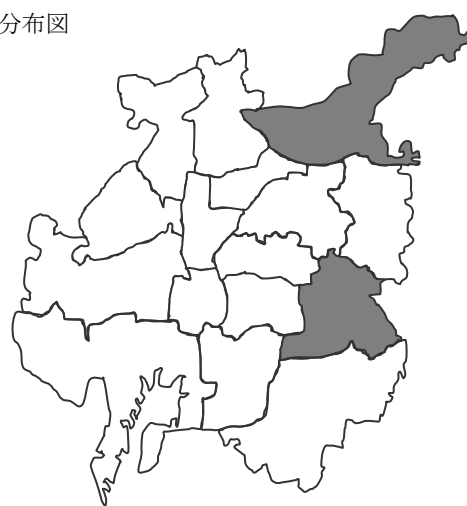
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

主として人里近くの林内や林縁に生育している。どうということのない場所に生育しているが、
それでいてあまり見かけない植物である。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では何ヶ所かで見えているが、どこも個体数は少ない。守山区以外では相生山緑地の沢沿い
の二次林内で少数の個体を見ただけである。この場所は保全緑地内であるが、遷移の進行等により
失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

生育地の林を保全する必要がある。断片的な林に生育していて保全が困難な場合は、正確な状況
を記録すると共に、標本資料の確保につとめるべきである。

【特記事項】

イノコヅチやヒナタイノコヅチからは、葉が細く深緑色であることで容易に区別できる。

【関連文献】

保草Ⅱp.283, 平草Ⅱp.54.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 < 種子植物 被子植物 真正双子葉類 マタタビ科 >

マタタビ *Actinidia polygama* (Sieb. et Zucc.) Planch. ex Maxim.**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 13。山地に行けば普通に見られる植物だが、丘陵地では稀少である。名古屋市では 1 ヶ所で確認されているだけである。

カテゴリー

名古屋市 2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2015	リスト外
環境省 2014	リスト外

【形態】

落葉性のつる性木本。葉は互生し、長さ 1.5～3cm の柄があり、葉身は卵形～卵状楕円形、長さ 6～12cm、幅 4～7cm、先端は鋭尖頭、基部は円形～浅い心形、両面の脈上に粗い毛が散生する。花期は 6 月、花は若枝の葉腋に 1～3 個ずつつき、白色で直径 2～2.5cm、花弁は 5 個で広楕円形～広倒卵形である。果実は長楕円形、長さ 2～3cm、橙黄色に熟し、先端に花柱が残存する。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（下志段味穴ヶ洞、芹沢 84191, 2009-6-9）に生育している。

【県内の分布】

山地には広く分布しているが、丘陵地では少ない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭と春日井に生育している。

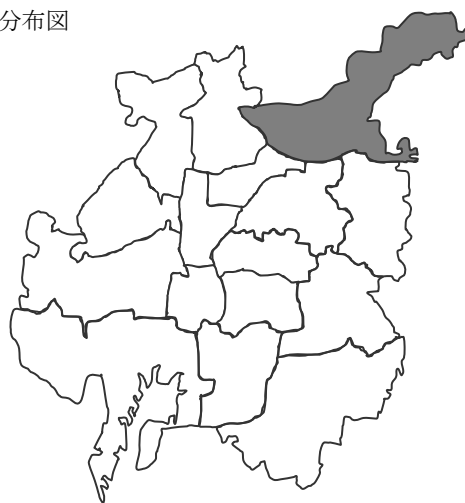
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

南千島、サハリンから中国大陸南西部にかけて分布する。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地の林縁部に生育するつる性の木本で、他の樹木にからみついて伸長する。

【現在の生育状況／減少の要因】

1 ヶ所に少数株が生育している。個体数は少ないが、生育状態は良好である。開発や森林の伐採により失われる恐れがある。

【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

開花期には葉の表面が白色になり、よく目立つ。ネコが好むことで有名な植物である。

【関連文献】

保木Ⅱpp.164-165, 平木Ⅰp.136.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ツツジ科>

ギンリョウソウモドキ *Monotropa uniflora* L.**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、
県内分布 1、総点 13。林内に生育する腐生植物で、名古屋市では
生育地が極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

腐生の多年生草本。全体に白色だが、乾くと黒くなる。茎は 1～数本が束生し、高さ 10～30cm になる。葉は鱗片状で互生し、卵状長楕円形、上部に不規則な歯牙がある。花期は 8～9 月。茎の先端に 1 個の花をつけ、がく片は 3～5 枚、卵状楕円形または披針状長楕円形、花弁も 3～5 枚で長楕円形、長さ 1.5～2cm、内面に軟毛あり、外面は短毛が密生し、上部に不規則な歯牙がある。花柱は太く短く、上端は広がって黄褐色の柱頭となる。果実はさく果で、上向きにつき、球形または球状楕円形、長さ 1～1.5cm である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（吉根長廻間，鳥居ちゑ子 2037, 2001-10-4）に生育している。千種区（東山，井波一雄 s.n., 1941-10-1, CBM192702）で採集された標本もある。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には点在するが、ギンリョウソウよりは少ない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭と春日井で生育が確認されている。

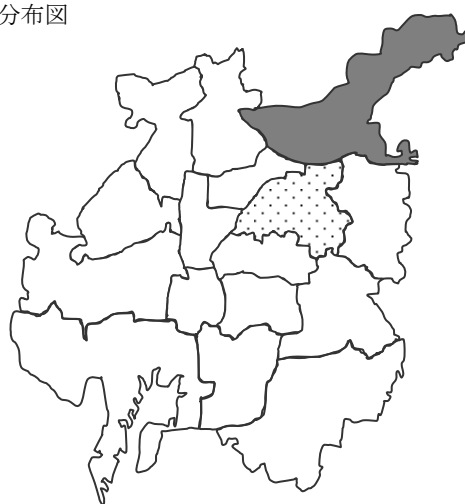
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本からヒマラヤにかけてと、北アメリカに分布する。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地や丘陵地のやや湿った林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

二次林の林内に小群落があるが、近くまで開発が進んでおり、その点で将来の存続が懸念される。林内にはネザサが増加しており、それに圧迫されて衰退する可能性もある。

【保全上の留意点】

丘陵地の地形を保全することが必要である。

【特記事項】

ギンリョウソウが初夏に咲くのにに対して本種は晩夏から秋に咲くため、アキノギンリョウソウとも呼ばれる。名古屋市産の植物の彩色画は、2004 年版図版 5 に掲載されている。

【関連文献】

保草 I p.235, 平草Ⅲpp.6-7.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ツツジ科>

イチヤクソウ *Pyrola japonica* Klenze**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 12。林内に生育する植物で、名古屋市では減少傾向が著しい。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。葉は数枚が根生し、長さ3～7cmの柄があり、葉身は卵状楕円形または広楕円形、長さ3～6cm、幅2～4cm、先端は鈍頭、基部は多少葉柄に流れ、質はやや厚く、辺縁に細かい鋸歯がある。花期は6～7月、花茎は高さ15～25cmになり、上部に3～10個の花をつける。花は白色で直径12～15mm、がく裂片は披針形で長さ3～5mmである。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味東谷、鳥居ちゑ子 1205, 1997-6-7; 吉根長廻間、芹沢 83288, 2008-9-13）、天白区（土原一丁目、渡邊幸子 2182, 1995-5-24）に生育している。名東区にもあるらしい。緑区にも残存していると思われるが、今のところ確実な資料がない。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には点在する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、美浜南知多、犬山、小牧、春日井に生育している。

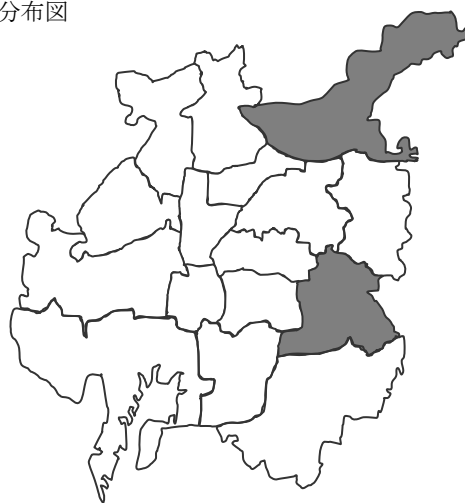
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸東北部。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地や丘陵地の落葉樹林の林床に生育する。あちこちで見られるが、あまり群生しない植物である。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市内でもまだ生育しているが、開発により本種の生育地である丘陵地の二次林が減少しているだけでなく、残された二次林も利用の停止によって林内にネザサなどが茂り、本種が生育しにくい状況になりつつある。林内の乾燥により消滅したのではないと思われる例もある。

【保全上の留意点】

里山の二次林を、林床の状態を含めて保全することが必要である。経済的必然性がなくなった現在では市民参加の里山保全活動を行うことも考えられるが、その場合は林床の踏み荒らしを極力避けると共に、たとえ隣接した場所からであっても植物を持ち込まないよう、特に注意する必要がある。自然には自然の回復力がある。植物が生育できる条件を整えたら、あとはその植物が自分の力で存続するのを見守るべきである。

【関連文献】

保草Ⅰp.238, 平草Ⅲp.4.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 アカネ科>

ホソバニセジュズネノキ *Damnacanthus indicus* C.F.Gaertn. subsp. *major* (Sieb. et Zucc.) T.Yamaz. var. *lancifolius* Makino

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、
県内分布 1、総点 13。暖地の林内に生育する常緑低木で、名古屋
市では生育地が限られており、個体数も少ない。

名古屋市 2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2015	リスト外
環境省 2014	リスト外

【形態】

常緑性の小低木。よく分枝して高さ 30～60cm になり、若枝に曲がった短毛を密生し、節には長さ 4～12mm の刺がある。葉は対生し、短い柄があり、葉身は狭長楕円形、長さ 4～6cm、先端は鋭尖頭、基部はくさび形、革質で全縁である。花期は 5 月、枝先と葉腋に通常 2 個ずつの花をつける。花柄は長さ 1～3mm、花冠は白色、漏斗形で筒部は長さ 10～13mm、先は 4 裂し、裂片は三角形である。液果は球形、直径 4～5mm、赤色に熟す。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山、芹沢 77215, 2001-4-28）に生育している。

【県内の分布】

低山地に点在しており、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭と美浜南知多に生育している。

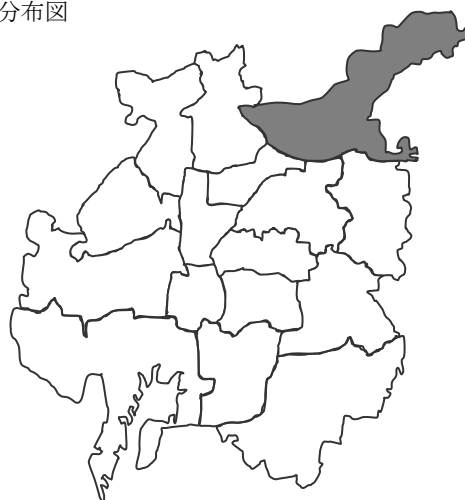
【国内の分布】

本州西部。

【世界の分布】

日本固有。基準変種のニセジュズネノキは、日本のほか朝鮮半島南部に分布している。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

低山地や丘陵地の常緑樹林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では、唯一の山地状の場所である守山区東谷山に少数の個体が生育している。現在のところ特に減少しているわけではないが、存続の基盤は脆弱である。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。東谷山には、本種以外にも名古屋市ではこの場所にしか見られない植物が多数生育している。湿地周辺については伐採が望まれる場所もあるが、それ以外は攪乱や植栽などを極力回避し、できるだけ現在の自然状態を保全するべきである。

【特記事項】

和名は、ジュズネノキ（＝オオバジュズネノキ）に似て根が数珠状に肥厚しないからである。

【関連文献】

保木 I p.60, 平木 II p.201.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 アカネ科>

ホソバノヨツバムグラ *Galium trifidum* L. var. *brevipedunculatum* Regel**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 12。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は細く、長さ25～70cm、少数の逆刺がある。葉は4～5枚、ときに6枚が輪生し、線状楕円形～倒披針形、長さ1～2cm、先端は円形、葉縁と裏面中脈上に少数の逆刺がある。花期は6～8月、枝先と葉腋に花序をつけ、数個の白色の花をつける。花柄、小花柄はともに長さ3～5mm、花冠は通常3裂して平開し、直径約1mmである。果実は無毛、分果はほぼ球形である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味蛭池、芹沢 84165, 2009-6-9 など）、西区（枇杷島町庄内川、鈴木秀樹 3980, 1997-6-6）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には点在するが、尾張では少なく、名古屋市のほかは瀬戸尾張旭、一宮西部、津島愛西で確認されているにすぎない。

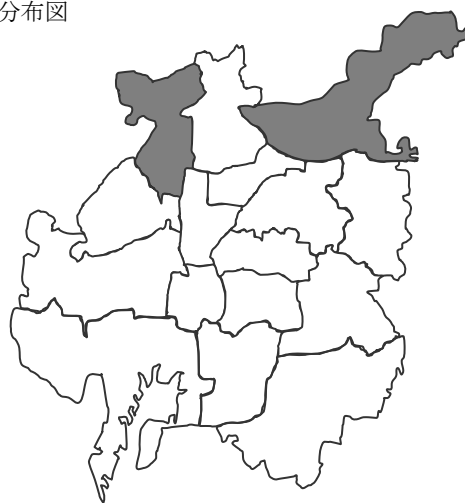
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆、北アメリカ。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

低地～山地の湿地に生育する。丘陵地ではため池の周辺、平野部では河川敷の湿地に生育することが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区ではため池の岸などに小群落がある。西区では最近の状況が確認されていないが、すでに消失している可能性もある。

【保全上の留意点】

丘陵地や平野部河川敷に低湿地状の場所を残すことが重要である。

【特記事項】

湿地性で茎が細く長く伸び、花冠は通常3裂することが特徴である。

【関連文献】

保草Ⅰp.111, 平草Ⅲp.54.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 シソ科>

ヤブムラサキ *Callicarpa mollis* Sieb. et Zucc.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 12。山地性の植物で、名古屋市では個体数が極
めて少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の低木。高さ2～3mになる。葉は対生し、長さ5～7mmの柄があり、葉身は卵形～楕円形、長さ5～12cm、幅2～5cm、先端は鋭尖頭、基部は円形～広いくさび形、表面に短毛、裏面に星状軟毛がある。花期は6～7月、葉腋から出る小型の集散花序に、少数の花をつける。花冠は長さ4～5mm、紅紫色、上部は4裂して平開し、外面に星状毛がある。果実は秋に熟し、紫色で球形、直径3～4mmである。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山，芹沢 84147，
2009-6-9；吉根階子田，芹沢 88394，
2013-5-25；小幡緑地，鳥居ちゑ子 3352，
2014-5-24 など）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には普通に見られる。
尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、美浜
南知多、犬山、小牧、春日井、津島愛西で確
認されている。

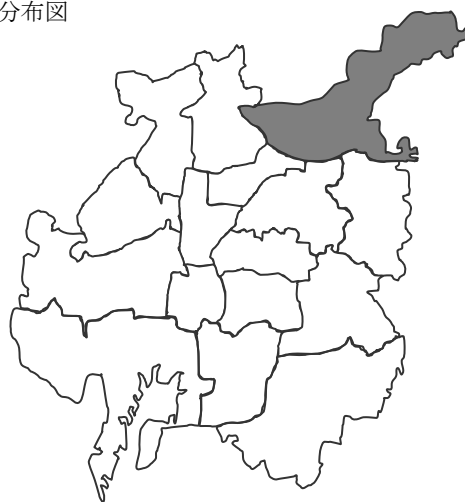
【国内の分布】

本州（宮城県以南）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

二次林などの低木層の構成種として生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

4ヶ所に生育しているが、個体数は極めて少ない。名古屋市ではもともと希少であったと思われる。

【保全上の留意点】

路傍の林縁に生育している場合もある。このような愛知県全体としてはさほど希少でない植物が断片的に生育している場合、どの程度保全すべきかは議論が分かれると思われる。適切な合意形成が必要である。

【特記事項】

「こんな普通種が？」と思われる絶滅危惧種の一例である。名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られる植物もしばしば産量が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。ムラサキシキブに似るが、葉裏に星状毛が密生する。

【関連文献】

保木Ⅰp.46，平木Ⅱpp.210-211.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 シソ科>

ハッカ *Mentha arvensis* L. var. *piperascens* Malinv.**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 12。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少
ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。植物全体に芳香がある。茎は四角形でしばしば倒伏し、長さ40～120cmになる。葉は対生し、長さ5～12mmの柄があり、葉身は狭卵形～長楕円形、長さ2～8cm、両端は尖り、辺縁に鋭い鋸歯がある。花期は8～10月、花は上部の葉腋に球状に集まってつき、淡紫色、がくは鐘形で白毛があり、花冠は長さ4～5mmで4裂する。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（下志段味長戸川、鳥居ちゑ子 2968, 2011-8-31）、西区（名塚町庄内川河川敷、鳥居ちゑ子 2228, 2002-10-19）に生育している。天白区（天白町平針大根ヶ越、渡邊幸子 1132, 1993-8-5）にも生育していたが、そこでは見られなくなった。

【県内の分布】

平野部から山地にかけて点在しており、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、美浜南知多で確認されている。

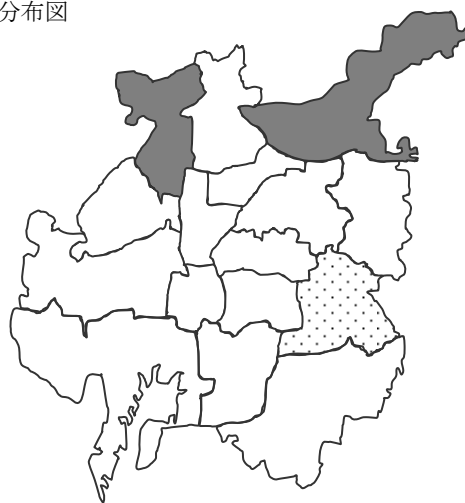
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸、シベリア。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

泥質の湿地や、水路わきなどの湿った草地に生育する。湿地性の植物であるが、湧水湿地にはほとんど生育していない。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では河川敷に小群落がある。天白区では大堤池の堰堤に小群落があったが、遊歩道になって消滅した。荒池にも小群落があるが、これは植栽されたものらしい。西区では庄内川河川敷を流れる小水路のわきに小群落があったが、最近の状況は確認されていない。

【保全上の留意点】

河川敷の低湿地は、平野部の本来の自然の姿を残す貴重な場所である。河川改修や河川敷の利用に当たっては、このような自然特性を根底から破壊しないよう、適切な配慮が必要である。

【特記事項】

名古屋市内では帰化種のハッカ属植物は多いが、在来種はごく稀である。

【関連文献】

保草Ⅰp.175、平草Ⅲp.84。

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 シソ科>

ミゾコウジュ *Salvia plebeia* R.Br.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	国リスト
環境省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 12。低湿地の攪乱地に生育する植物で、愛知県
では生育地も個体数も比較的多いが、名古屋市内では少ない。

【形態】

越年生草本。冬にはロゼット状の根出葉がある。茎は直立し、断面は四角形、上部で分枝し、高さ 30～70cm、下向きの細毛がある。根出葉は長楕円形で長い柄があり、花時には枯れる。茎葉は対生し、短い柄があり、葉身は卵状長楕円形、長さ 3～6cm、幅 1～2cm、辺縁には細かい鈍鋸歯がある。花期は 5～6 月、花穂は茎や枝の先端につき、はじめ短い、後に 8～10cm に伸びる。がくは花時に長さ 2.5～3mm、果時には長さ約 4mm となる。花冠は淡紫色で、長さ約 5mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（瀬古庄内川、鈴木秀樹 2423, 1996-6-3）、緑区（鳴海町笹塚、渡邊幸子 6452, 2012-5-24, NBC1131）、中村区（日比津町庄内川、芹沢 77884, 2002-5-23）に生育している。中区（御器所、井波一雄 s.n., 1933-5-30, CBM 128608）、中川区（富田町千音寺、芹沢 80574, 2006-6-6）で採集された標本もある。

【県内の分布】

名古屋市のほか、鳳来南部、新城、豊川、蒲郡、豊橋北部、豊橋南部、田原西部、長久手日進、犬山、江南丹羽、小牧、岩倉西春日井、一宮東部、一宮西部、稲沢、あま大治、津島愛西、海部南部の 18 区画で確認されている。山間部にはなく、また西三河と知多半島では現在のところ確認されていない。

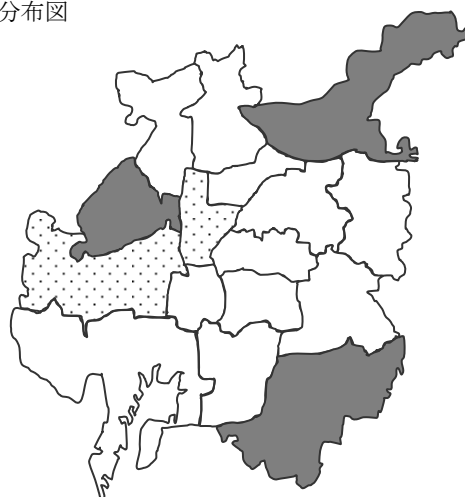
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

東アジア、マレーシア、インド、オーストラリアに広く分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

河川敷などの、多少攪乱された場所に生育する。平野部の休耕田やあき地などに生育することもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

大きい群落は作らないが、ところどころに点在している。中川区では休耕田に生育していたが、その後消失した。

【保全上の留意点】

低湿地性の植物であるが、その中では攪乱地に多く生育している。他の低湿地性植物に比べれば絶滅が危惧される程度は低い。個体レベルの保全に限ればそれほど神経質になる必要はないと思われるが、「本種もなくなったら、低湿地性植物は全滅」という意味で、注目してよい植物である。

【関連文献】

保草 I p.167, 平草Ⅲpp.80-81, SOS 旧版 p.78, 愛知県 p.635.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 シソ科>

タツナミソウ *Scutellaria indica* L.**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 13。草地性の植物で、名古屋市では生育地が少
ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。地下茎は短くはう。地上茎は直立し、高さ 20～40cm、密に開出する白毛がある。葉は数対が対生し、長さ 5～20mm の柄があり、葉身は広卵心形～三角状卵形、長さ、幅ともに 1～2.5cm、先端は円頭、基部は心形、辺縁には鈍い鋸歯があり、両面とも軟毛が多い。花期は 5 月、茎の先端の長さ 2～5cm の花序に多数の青紫色の花をつける。花冠は長さ 15～18mm、下唇に紫色の斑点がある。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（中志段味庄内川堤防、鳥居ちゑ子 2295, 2003-5-2 など）、中区（名古屋城、鳥居ちゑ子 2302, 2003-5-9）に生育している。天白区（天白町植田、渡邊幸子 253, 1992-5-17）にもあったが、ここでは絶滅した。

【県内の分布】

低山地や丘陵地に点在し、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、豊明東郷、東海知多、美浜南知多、春日井、津島愛西で確認されている。

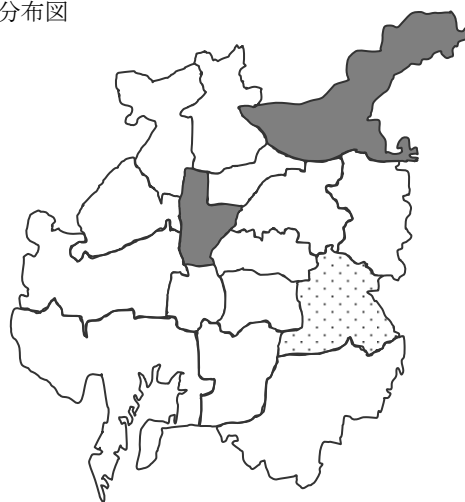
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、インドシナ。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

明るい草地に生育する。特に草刈り場として使われる耕作地周辺の里草地（いわゆるボタ）に多い。他のタツナミソウ類と異なり、林内には生育しない。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では庄内川堤防の 2 ヶ所に小群落があったが、うち 1 ヶ所は堤防改修のため絶滅した。天白区では天白川堤防の草地に群生していたが、道路工事のため絶滅した。中区では名古屋城内に小群落があったが、最近の状況は確認されていない。

【保全上の留意点】

河川の堤防は、管理の必要上定期的に草刈りが行われるため、平野部では貴重な草地的環境になっている。堤防の改修に際しては、身近な自然の確保という観点も含めて、適切な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は立浪草で、花の咲く様子を泡立つ波に例えたものである。名古屋市内には 4 種のタツナミソウ類が生育しているが、いずれも希少で、絶滅が危惧される。

【関連文献】

保草 I p.186, 平草Ⅲp.77.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 シソ科>

シソバタツナミ *Scutellaria laeteviolacea* Koidz.**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 12。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地
が少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は直立し高さ 5～15cm、やや密に上向きに曲がった毛がある。葉は 2～4 対が対生し、長さ 1～3cm の柄があり、葉身はやや三角状の卵形、長さ 1.5～4cm、先端は鈍頭、基部は切形、辺縁にはあらい鈍鋸歯があり、表面はやや光沢があり、裏面は通常紫色を帯びる。花期は 5～6 月、茎の先端に長さ 2～6cm の穂状の花序をつける。花冠はやや密につき、紫色、長さ 16～20mm である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味東谷山、芹沢 84149, 2009-6-9; 吉根階子田、鳥居ちゑ子 1589, 1999-5-18 など）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には比較的多い。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、美浜南知多、犬山、小牧、春日井で確認されている。タツナミソウ類の中では、やや山地寄りに分布している。

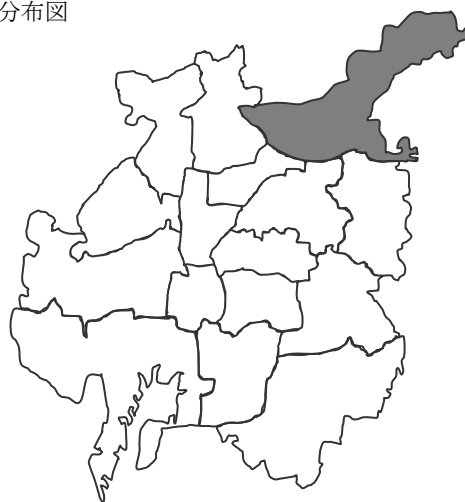
【国内の分布】

本州（福島県以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地のやや湿った林内や林縁に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

東谷山には小群落があった。吉根では丘陵地の林内に合わせて 20 株ほどが生育していたが、最近の状況は確認されていない。周辺の開発が進んでおり、すでに消滅した可能性もある。

【保全上の留意点】

何はともあれ、丘陵地の地形を保全することが必要である。

【特記事項】

名古屋市内には 4 種のタツナミソウ類が生育しているが、いずれも希少で、絶滅が危惧される。

【関連文献】

保草 I p.185, 平草 III p.77.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 モチノキ科>

タマミズキ *Ilex micrococca* Maxim.**【選定理由】**

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 1、
県内分布 1、総点 13。名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の高木。高さ 15m くらいになる。葉は互生し、長さ 1.5～2cm の柄があり、葉身は卵状楕円形～卵状長楕円形、長さ 7～13cm、幅 3～6cm、先端は鋭尖頭、基部は円形、辺縁には細い鋭鋸歯がある。花期は 5～6 月、雌雄異株で、葉腋の集散花序に多数の緑白色の小さい花をつける。果実は球形で直径約 3mm、多数が密につき、赤熟する。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味東谷山、芹沢 84146、2009-6-9）に生育している。

【県内の分布】

低山地に点在するが、多いものではない。
尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井に生育している。

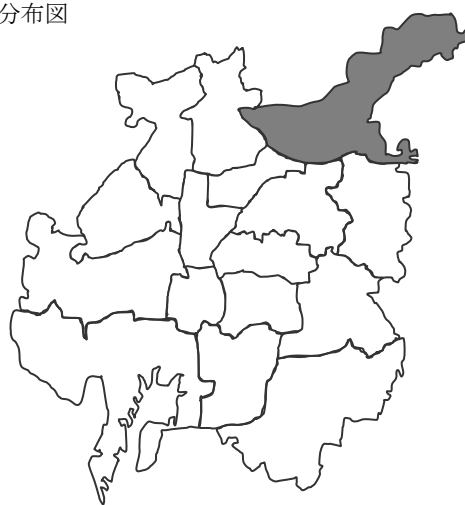
【国内の分布】

本州（静岡県、福井県以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸中南部。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

低山地の常緑広葉樹林内に生育することが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では唯一の山地状の場所である守山区東谷山に、少数の個体が生育している。

【保全上の留意点】

東谷山では、鳥獣の保護と称してその餌となる植物を植栽する動きがあり、本来の自然状態に対する大きな脅威になっている。自然の中に、本来その場所に生育していない種を植栽してはならないことはここで改めて指摘するまでもないが、その場所に生育している種を植栽することも、遺伝的攪乱という点で、ある意味では自然に対してより一層深刻な悪影響を与えるおそれがある。本種の場合も、「実のなる木」だからと言って植栽を行わないよう、特に注意する必要がある。

【特記事項】

晩秋には赤い果実が枝に多数つき、遠くからでもよく目立つ。

【関連文献】

保木 I p.272, 平木 II p.31.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キキョウ科>

サワギキョウ *Lobelia sessilifolia* Lamb.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 13。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少
ない。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は中空で分枝せず、高さ 70～120cm、無毛である。葉は多数が互生し、無柄、葉
身は披針形で長さ 4～7cm、先端は漸尖し、基部は円形、辺縁には低い鋭鋸歯がある。花期は 8～9
月、上部の葉がしだいに小型となって長い総状花序に移行する。花には 5～12mm の柄があり、花
冠は唇形で濃紫色、長さ 2.5～3cm、上唇は 2 深裂、下唇は 3 浅裂し、裂片の縁に長毛がある。さく
果は球形で、長さ 8～10mm になる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根長廻間，芹沢 77660, 2001-9-23）、千種区（田代町平和公園，鳥居ち
ゑ子 2030, 2001-9-21）、天白区（八事裏山，芹
沢 56190, 1990-8-8；島田緑地，芹沢 53329, 1989-9-20）、緑区（鳴海町水広下池，芹沢
59842, 1991-8-23）で採集された標本がある。
ただし緑区では、2004 年の時点ですでに現存
を確認できなかった。

【県内の分布】

低山地に多いが、東三河北部の山地には少
ない。平野部にはなく、知多半島でも確認さ
れていない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸
尾張旭、長久手日進、犬山、小牧、春日井で
記録されている。

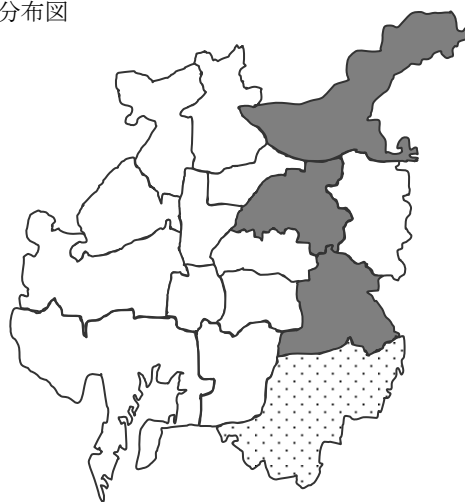
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

カムチャッカから中国大陸、シベリア東部にかけて分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湿地に生育する。愛知県では、ため池の周辺や湧水湿地下部の泥質の場所に多く生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

どの場所も個体数は少なかった。最近の状況は十分確認されていないが、一方で開発、他方で森
林化の進行により、消失した場所もあると思われる。個体数階級、集団数階級は見込み値である。
千種区平和公園ではやや目につきやすい場所に生育していて、昔植栽されたものという話も聞いた
が、はっきりしなかった。

【保全上の留意点】

多少は耐陰性があり、林内の湿地にも生育していることがあるが、それでも過度の被陰には耐え
ることができない。湿地周辺の樹木を伐採し、開けた湿地を維持することが必要である。

【特記事項】

秋の湿地では、最も目につく花の一つである。

【関連文献】

保草Ⅰp.91, 平草Ⅲp.154.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キキョウ科>

タニギキョウ *Peracarpa carnos* (Wall.) Hook.f. et Thomson var. *circaeoides* (F.Schmidt) Makino**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、
県内分布 1、総点 12。山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

小型の多年生草本。地下茎は細くて長くは、分枝して立ち上がり、高さ 5~15cm の地上茎となる。葉は互生し、長さ 5~15mm の柄があり、葉身は卵円形、長さ 10~20mm、先は鈍形、基部は円形、辺縁には低い鈍鋸歯があり、表面は緑色で短毛を散生する。花期は 6~8 月、茎の上部から長さ 2~5cm の細い柄を出し、その先端に 1 個の花を上向きにつける。花冠は漏斗形、白色またはわずかに淡紫色を帯び、長さ 5~8mm、5 深裂し、裂片は広披針形である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味東谷山、鳥居ちゑ子 863, 1995-5-10）に生育している。

【県内の分布】

山地にはやや普通に見られるが、丘陵地には少ない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、美浜南知多、犬山、小牧、春日井に生育している。

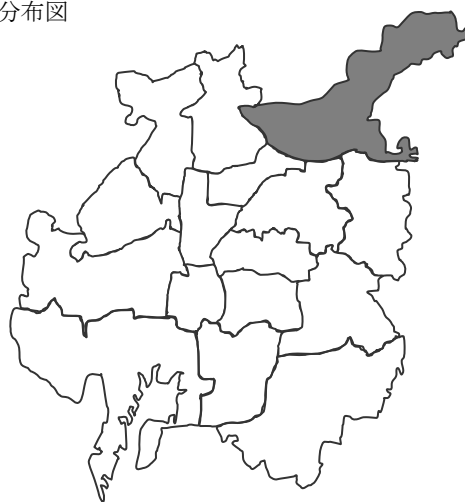
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

カムチャッカから日本、済州島にかけて分布する。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地の沢沿いの湿った林内に生育し、通常狭い範囲に多数の茎が出て、やや密な小群落を作る。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では、唯一の山地状の場所である守山区東谷山に小群落がある。現在のところ特に減少しているわけではないが、現地は崖崩れしやすい地形で、存続の基盤は脆弱である。

【保全上の留意点】

崩壊地の復旧工事が本格的に行われれば、踏みつけなどにより消滅する可能性がある。工事を行う際には、適切な配慮が必要である。

【特記事項】

基準変種 var. *carnos* はヒマラヤに分布する。

【関連文献】

保草 I p.96, 平草 III p.154.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ミツガシワ科>

ガガブタ *Nymphoides indica* (L.) Kuntze

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、
県内分布 1。全国的に減少傾向が著しい水草で、名古屋市でも生
育地が少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

多年生の水草。茎は細長く、1～3個の葉をつける。葉はほぼ円心形～卵心形で、直径7～20cm、基部は深く湾入し、葉縁は全縁。花期は7～9月、花は葉柄の基部に多数が束生し、葉身の湾入部から水上に出て開く。花弁は白色で、直径約15mm、内側全体に白毛が著しい。長花柱花を持つ株と短花柱花を持つ株があり、両方の株が混生する集団でのみ結実する。果実は楕円形で3～5mm。夏から秋にかけて、基部の根が変形・肥大して太く短くなり、バナナの房状となった殖芽を形成する。

【分布の概要】

【市内の分布】

名東区（猪高緑地、芹沢 77583, 2001-9-9; 牧野ヶ池緑地、渡邊幸子 4796, 2001-7-30, NBC977）、天白区（天白町島田大根池、芹沢 88053, 2012-10-8; 元八事植田川、中村 肇 82, 2012-5-13, NBC287）、緑区（長根町四郎曾池、渡邊幸子 5444, 2003-9-17）に生育している。守山区（大森雨池、芹沢 76868, 2000-7-14）にも生育していた。中区（名古屋城外堀）でも記録はある（浜島 2013）が標本を確認できていない。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊田北西部、刈谷知立、長久手日進、豊明東郷、大府東浦、半田武豊、常滑の7区画で確認されている。豊橋北部と田原東部で採集された標本もあるが、東三河ではまだ現存を確認できない。

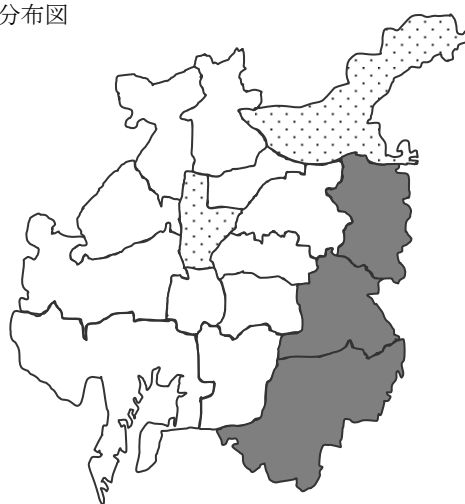
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、東南アジア、アフリカ、オーストラリア。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湖沼やため池などに生育する浮葉植物。極稀に河川で確認されることもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

20年ほど前までは、尾張、西三河の平野部のため池で最も普通に見られる水草のひとつであったが、ため池の改修や水質汚濁によって急激に激減し、現在は特定の場所で見られなくなった。ただし残存している場所では、個体数が近年増加傾向にあり、強力な除草剤が使用されなくなったことが、回復の原因ではないかと思われる。名古屋市では、名東区（塚ノ杵池、牧野池）および緑区（四郎曾池）では池の半分程度に生育している。守山区（大森雨池）では、かつて池一面に生育していたものの近年は確認できない。

【保全上の留意点】

水質が過度に富栄養化すると生育できないため、生育地のため池の水質を維持することが必要である。

【特記事項】

天白区島田緑地に生育するものは移植された個体で、評価の対象にならない。

【引用文献】

浜島繁隆. 2013. 水草の世界 生態と東海地方の分布・変貌の記録 pp.123-126. シンプリブックス, 豊川.

【関連文献】

保草 I p.213, 平草 III p.36, 環境庁 p.513, SOS 旧版 p.72+図版 21, 愛知県 p.566.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.140. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.297. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 中村 肇)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キク科>

オクモミジハグマ *Ainsliaea acerifolia* Sch.Bip. var. *subapoda* Nakai**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 12。山地性の植物で、名古屋市では生育地が少
ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は高さ 40～80cm になり、中部に 4～7 枚の葉をやや輪状につける。葉には長い柄
があり、葉身は腎心形または円心形、長さ 6～12cm、掌状に浅裂し、両面にまばらに軟毛がある。
花期は 8～10 月、茎の先端部に多数の頭花を穂状につける。頭花は開花時は横を向き、短い柄と小
さい苞がある。小花は 3 個、花冠は白色、4～5 裂し、裂片は長さ 7～10mm である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味東谷山、飯尾俊介 101,
2002-10-3）に生育している。守山区では吉根
にもあるが、標本は採取されていない。

【県内の分布】

山地ではしばしば見かける植物であるが、
丘陵地では少ない。尾張では名古屋市のほか、
瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井に生育して
いる。

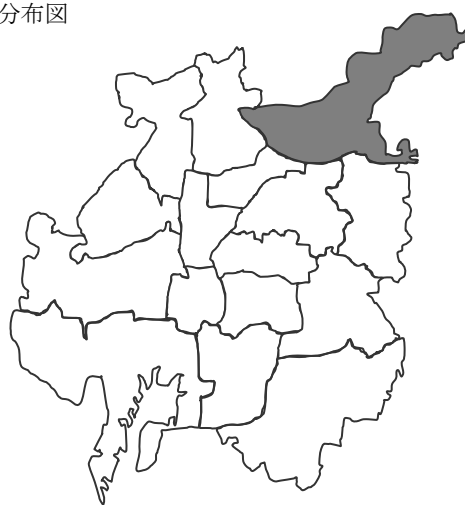
【国内の分布】

本州中西部、九州北部。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地や丘陵地の林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

東谷山の小群落は当面残りそうだが、それ以外の場所は相当危機的である。吉根では 20～30 株
が生育していたが、すぐ近くまで開発が進んでいる。また、ササ類が繁茂して圧迫されており、そ
の点でも将来の存続が懸念される。

【保全上の留意点】

丘陵地の地形を保全することが必要である。また東谷山は、本種を含めて名古屋市では希少な植
物が多数生育している場所である。湿地周辺については伐採が望まれる場所もあるが、それ以外は
攪乱や植栽などを極力回避し、できるだけ現在の自然状態を保全するべきである。

【特記事項】

基準変種のもみじハグマ var. *acerifolia* は葉の切れ込みが深いもので、愛知県では山地に点在す
るが、変異はかなり連続的である。

【関連文献】

保草Ⅰp.20, 平草Ⅲp.208.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キク科>

キッコウハグマ *Ainsliaea apiculata* Sch.Bip.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 13、やや山地性の植物で、名古屋市では生育地
が極めて少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。地下茎は細長くはう。茎は高さ 10～30cm、下部に 5～11 枚の葉をやや輪状につける。葉には長い柄があり、葉身は五角形、長さ 1～3cm、先端は鈍頭で微凸端基部は心形、しばしばごく浅く 5 裂し、両面に長い毛がある。花期は 9～10 月、茎の先端部に多数の頭花を総状または複総状につける。頭花は開花時は横を向き、1～5mm の柄があり、総苞は筒状で長さ 10～15mm、小花は 3 個、しばしば閉鎖花となるが、開花した花冠は白色で長さ約 9mm である。そう果は長さ 4～5mm、密に毛があり、冠毛は長さ約 7mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根太鼓ヶ根、鳥居ちゑ子 2285, 2003-5-1）に生育している。天白区（八事、立川 s.n., 1952-8-19）で採集された標本もある。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地にはやや普通に見られる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、半田武豊、知多南部、犬山、小牧、春日井で確認されている。

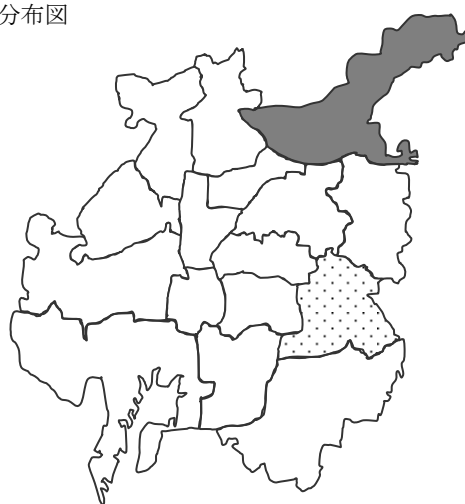
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地のやや乾いた林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

斜面中腹の林内に小群落があったが、ごく最近の状況は確認されていない。一帯は土地造成が進行しており、その点で存続が懸念される。

【保全上の留意点】

生育地の地形と森林を保全することが必要である。

【関連文献】

保草 I p.20, 平草 III p.208.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キク科>

カワラハハコ *Anaphalis margaritacea* (L.) Benth. et Hook.f. subsp. *yedoensis* (Franch. et Sav.) Kitam.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 13。礫の河川敷に生育する植物で、名古屋市では生育地が少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は束生し、高さ30～50cmになり、中上部でよく分枝し、白色の綿毛を密生する。葉は互生し、葉身は線形、長さ6～9cm、幅1～3mm、辺縁は裏側に巻き、裏面は灰白色または淡褐色の長綿毛が密生する。花期は8～9月、枝先に多数の頭花を散房状につける。総苞は球形で長さ5mm、総苞片は乾膜質で上半分は白色、小花は淡黄色である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味、鳥居ちゑ子 2754, 2009-9-29; 中志段味庄内川河川敷、鳥居ちゑ子 1003, 1995-10-10）に生育している。天白区（天白町八事、芹沢 77576, 2001-9-8）、緑区（鳴海町水広下、渡邊幸子 3265, 1997-10-31）、中川区（富永一丁目、高木順夫 5969, 1998-11-14）で採集されたこともある。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊根西武、鳳来北西部、豊川、豊橋南部、旭、小原、藤岡、豊田東部、豊田北西部、豊田南西部、三好、岡崎北部、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、江南丹羽、津島愛西の21区画で確認されている。

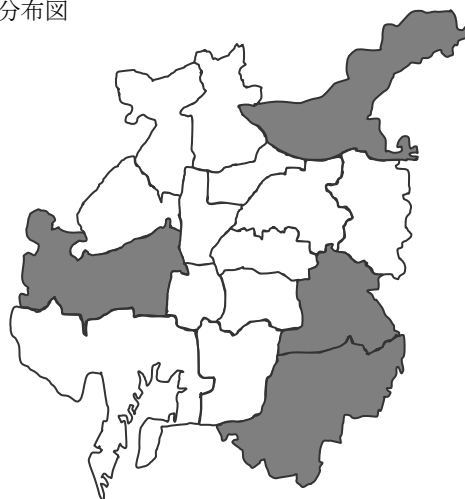
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有。種としては北アメリカから東アジア、ヒマラヤにかけて分布している。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

本来は砂礫質の河川敷に生育するが、やせた丘陵地の半裸地状の場所に生育していることもある。時には道路工事等に伴って移入され、大きな道路の中央分離帯などにも生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

上志段味では大株が1株生育している。中志段味では庄内川河川敷に数株生育していたが、東海豪雨時に流され、見られなくなった。しかし礫の河川敷の状態は変わらないので、そのうちに再度出現すると思われる。守山区以外では天白区の道路わき、大根池堤防、緑区水広下池、中川区戸田川堤防などで記録されている。不安定な立地に生育する植物なので、今後もあちこちで散発的に出現する可能性がある。

【保全上の留意点】

出水の減少による河川敷の安定化と富栄養化によって、中流部の河川敷にも木本や高茎草本が侵入するようになり、本種が好む半裸地状の礫の河原自体が減少している。道路工事等に伴って人為的に移入されたものは保全の対象外である。

【特記事項】

葉の幅がやや広いホソバノヤマハハコ subsp. *japonica* (Sch.Bip.) Kitam.は、庄内川新大正橋橋上（大治町側）で採集されたことがあるが、名古屋市内ではまだ知られていない。

【関連文献】

保草Ⅰp.75, 平草Ⅲp.204.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キク科>

ムラサキトキンソウ *Centipeda* sp.**【選定理由】**

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 3、総点 13。秋期干上がったため池の岸に生育する植物
で、名古屋市では生育地が限られている。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	リスト外

【形態】

トキンソウに似ているが、頭花はやや大きく、紫色を帯びる。福井県立大学の赤井賢成氏が研究
中なので、詳細な記述は控える。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味大村池，村松正雄 24716，
2012-11-8；中志段味安田池，芹沢 88194，
2012-10-27）に生育している。

【県内の分布】

尾張中北部とそれに隣接する西三河に分布
しており、現在のところ名古屋市のほか刈谷
知立、瀬戸尾張旭、犬山、春日井で確認され
ている。

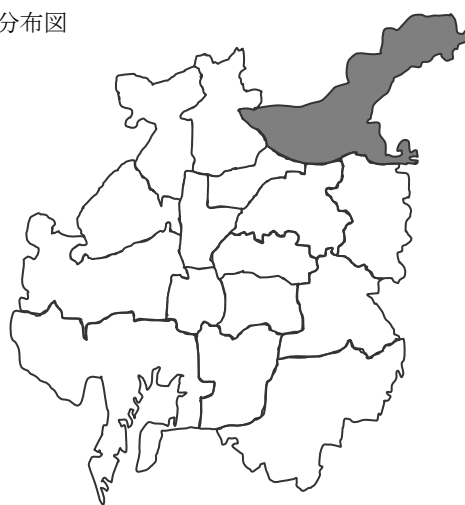
【国内の分布】

赤井氏が研究中。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

秋期干上がったため池の岸に生育する。個体数は年変動が激しく、水が引かない年には全く出現
しないこともある。

【現在の生育状況／減少の要因】

2012 年はよく水が引いた年で、大村池では多量に生育していた。過去には多くのため池に生育し
ていたが、埋め立てや水質汚濁によって生育地が減少し、現在の状態に至ったと思われる。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり、秋期干上がったため池の岸には多くの希少植物
が生育するが、最近ため池利用が低下して水管理が放棄され、満水状態のままのところも多くなっ
ている。ため池の水質保全のためにも、適切な水管理を継続することが重要である。

【特記事項】

赤井氏が研究中の未記載の植物である。尾張旭市で井波一雄氏が 1984 年 10 月 15 日に採集され
た標本が千葉県立中央博物館に収蔵されていたが、2012 年になって県内での現存が確認できた。今
後詳細に調査すれば更に産地が追加されると思われる。本種のような未記載の植物をレッドデー
タブックに収録することには異論もあると思われるが、研究者に情報を提供するという意味でも（秘
密裏に研究を進めて出し抜く時代ではない！）掲載の方がよいと思う。

【関連文献】

現在のところ文書として公表されている一般的な文献はない。

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キク科>

オグルマ *Inula britannica* L. subsp. *japonica* (Thunb.) Kitam.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 12。人里周辺に多く生育する植物であるが、名古屋市では生育地が少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

越年生の草本。茎は高さ 30～80cm になる。根出葉と下部の葉は花時には枯れることが多い。茎葉は互生し、広披針形～長楕円形、長さ 6～10cm、先端は鋭頭～鋭尖頭、基部は多少なりとも茎を抱き、長さ 5～10cm、幅 1～3cm。花期は 7～10 月、茎の先に数個の黄色で直径 3～4cm の頭花をつける。総苞は半球形、長さ 7～8mm、片はやや同長、外片は披針形で鋭頭、緑色で毛がある。その果は長さ約 1mm、有毛、冠毛がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（瀬古東三丁目、鳥居ちゑ子 3391, 2014-9-4）、北区（喜惣治新田、鳥居ちゑ子 1817, 2000-7-11）に生育している。天白区（天白町平針荒池緑地、渡邊幸子 5142, 2002-8-1）で採集された標本もある。

【県内の分布】

多くはないが、平野部から山地まで点在している。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、東海知多、美浜南知多、犬山、小牧、春日井、岩倉西春日井、稲沢、津島愛西に生育している。

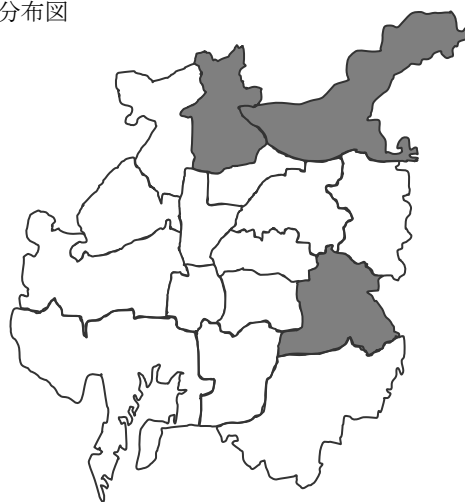
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湿地や水田の周辺、河川敷などの湿った草地に生育する。人里周辺に多いので、自生か植栽か、判断に迷うことも少なくない。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では水田わきに 0.5m×2m ほどの群落がある。北区では水田のわきに数十株の群落があったが、耕地拡大のためほとんどが抜かれ、現在は近くの畑のすみに少数株が見られるだけである。天白区では山を削って作った道路沿いの草地に数十株が生育していたが、最近の状況は確認されていない。

【保全上の留意点】

人里近くに生育することが多いため、生育地の保全はなかなか難しい。はっきり意識できないまま消滅してしまいそうな植物の一つである。

【特記事項】

和名は小車で、黄色の舌状花が車輪状に並んでいることに由来する。

【関連文献】

保草 I p.70, 平草 III p.204.

(執筆 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キク科>

ムラサキニガナ *Lactuca sororia* Miq.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 12 やや山地性の植物で、名古屋市では生育地
が極めて少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は中空で、高さ60～120cmになり、切ると白い乳液が出る。葉は互生し、下部のものには長い柄があり、葉身は下部のものは通常羽裂するが、上部のものは次第に小さくなり披針形、辺縁には突起状の鋸歯がある。花期は6～8月、頭花は茎の先端に円錐花序状につき、下向きに咲き、紫色で直径1cm、総苞は長さ1～1.2cmである。そう果は長さ3～3.5mm、黒くて細肋があり、冠毛は白色である。花序の柄に腺毛がないものはケナシムラサキニガナ form. *glabra* (Yonek.)と呼ばれる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（竜泉寺北面、日比野修 4583, 1998-7-23, 腺毛あり）に生育していた。名東区（猪高町上社、半田多美子 01090, 2001-6-9, 腺毛なし）で採集された標本もある。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地にはやや普通に見られる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、東海知多、美浜南知多、犬山、小牧、春日井に生育している。

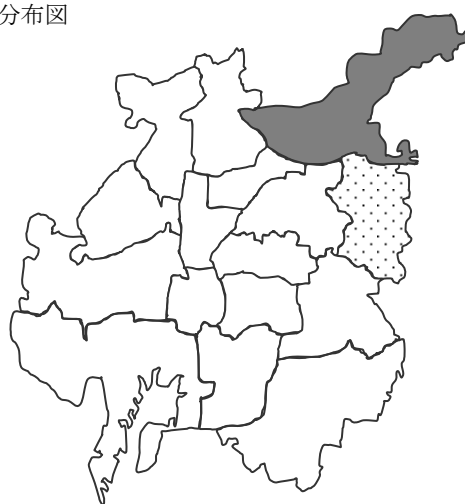
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、中国大陸中部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の林内や林縁に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では、竜泉寺の林内に点在していたが、最近の状況は確認されていない。名東区では、猪高緑地の林縁に1株生育していたが、その後確認できない。

【保全上の留意点】

多少攪乱された場所にも生育できる植物であるが、過度の攪乱には耐えることができない。生育地の地形を保全することが必要である。

【特記事項】

「こんな植物が？」と思われる絶滅危惧種の一例である。名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られる植物もしばしば産量が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【関連文献】

保草Ⅰp.8, 平草Ⅲp.228.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 レンブクソウ科>

オオカメノキ *Viburnum furcatum* Blume ex Maxim.**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、
県内分布 1、総点 13。温帯性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の小高木。高さ5～6mになる。若枝は褐色で、細かい星状毛を密生する。葉は対生し、長さ1.5～4cmの柄があり、葉身は円心形～卵状楕円形、長さ10～18cm、先端は鋭頭～短く鋭尖頭、基部は心形、辺縁には細鋸歯があり、裏面には細かい星状毛があるが、のちに無毛となる。花期は4月～5月、枝先に直径6～13cmの散房花序をつけ、装飾花の花冠は白色で直径2～3.5cm、5深裂する。果実は広楕円形、長さ7～12mm、はじめ赤色、のちに黒色に熟す。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味東谷山、日比野修 4408, 1998-4-19）に生育している。

【県内の分布】

愛知県の山地では低標高の割に比較的多い植物である。ただし尾張では少なく、名古屋市のほかは瀬戸尾張旭と春日井で確認されているにすぎない。

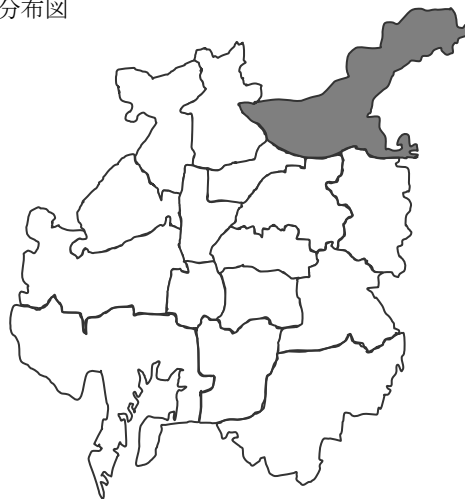
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

サハリン、日本、済州島など。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

本来は山地から亜高山にかけての林縁などに多い樹木で、愛知県の低山地を特徴づける温帯性植物の一例である。愛知県では二次林内に散在していることが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では、唯一の山地状の場所である東谷山に少数株が生育しているにすぎない。

【保全上の留意点】

東谷山では、鳥獣の保護と称してその餌となる植物を植栽する動きがあり、本来の自然状態に対する大きな脅威になっている。自然の中に、本来その場所に生育していない種を植栽してはならないことはここで改めて指摘するまでもないが、その場所に生育している種を植栽することも、遺伝的攪乱という点で、ある意味では自然に対してより一層深刻な悪影響を与えるおそれがある。遷移の進行によって食餌植物が減少していると判断されるなら、適宜伐採を行い、後は自然の回復力に任せるべきである。

【特記事項】

ムシカリとも呼ばれる。

【関連文献】

保木Ⅰp.31, 平木Ⅱp.229.

(執筆 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 セリ科>

ノダケ *Angelica decursiva* (Miq.) Franch. et Sav.**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、
県内分布 1、総点 13。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地
が極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は直立して暗紫色を帯び、高さ80～150cmになる。葉は根出または茎上に互生し、下部のものには長い柄があり、葉身は頂羽片と3～4対の側羽片からなり、最下羽片はしばしば更に深～全裂する。小葉と裂片は長楕円形または長卵形、裏面は白色を帯び、辺縁には硬い鋭鋸歯があり、基部は翼となって葉軸に流れる。中上部の葉の葉柄は鞘となって袋状にふくらむ。花期は9～11月、茎の先端に直径4～10cmの複散形花序をつけ、花は通常暗紫色である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（中志段味宮前、鳥居ちゑ子 999, 1995-9-17）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地、丘陵地に点在する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、東海知多、犬山、小牧、春日井の5区画で確認されている。

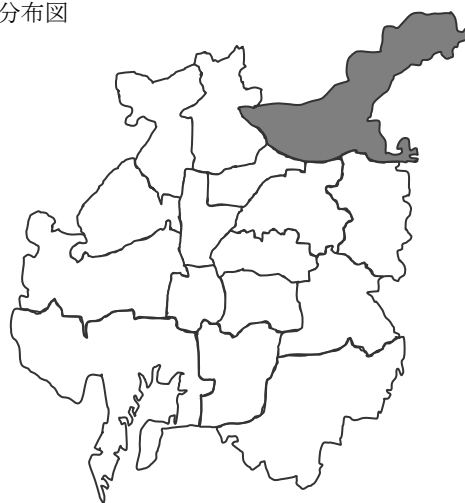
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、ウスリー、中国大陸、インドシナ。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地や丘陵地の林内、林縁に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

林縁部に数株生育しているだけで、存続の基盤は脆弱である。草刈りなどのため、年によっては開花しないこともある。

【保全上の留意点】

生育地の地形を保全することが必要である。

【特記事項】

名古屋市内に生育する大型のセリ科植物としては唯一のものである。本属の代表的な種であるシシウド *A. pubescens* Maxim. も、東三河や西三河の山地には普通に見られるが、尾張では確認されていない。

【関連文献】

保草Ⅱ p.26, 平草Ⅱ p.287.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 セリ科>

ムカゴニンジン *Sium ninsi* L.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、
県内分布 1、総点 13。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

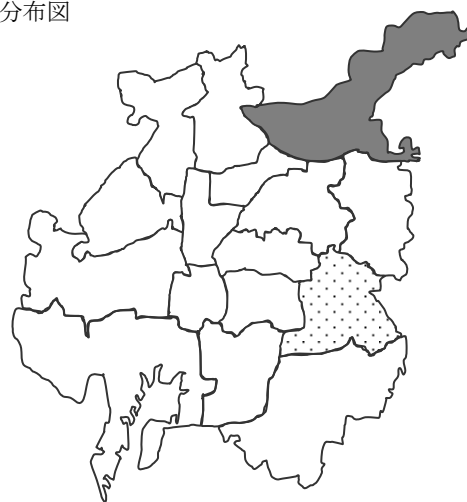
多年生草本。根は数本が太く肥厚する。茎は長さ 100～180cm で、はじめ直立するが後にしばしば倒伏し、上部で分枝し、葉腋にむかごをつける。葉は互生し、下部のものは長さ 4～10cm の柄があり、葉身は奇数羽状複葉、2～3 対の側小葉を持ち、小葉はほとんど無柄、長さ 4～9cm、幅 6～12mm、辺縁に鋭い細鋸歯がある。茎の上部の葉は急激に小さくなる。花期は 8～10 月、花序は直径 2～4cm、花は小さく白色である。果実は球形、長さ約 2mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（下志段味穴ヶ洞、芹沢 83285, 2008-9-13）に生育している。何ヶ所かにあったらしいが、現存が確認できたのは 1ヶ所だけである。守山区の他の場所（上志段味東谷山麓、飯尾俊介 19, 1964-8-22）、天白区？（平針～白土～天白、稲垣貫一 s.n., 1947-8, CBM101184）で採集された標本もある。

市内分布図



【県内の分布】

東三河と西三河の山地には点在する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井に生育しているが、知多半島では未確認である。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地下部の、やや泥質の場所に生育することが多い。ため池の周辺などにも生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

小さいため池のへりに、少数株が生育していた。

【保全上の留意点】

生育地の湿地を、水源部の地形を含めて保全することが必要である。林縁部に生育する植物であるが、あまり被陰されても生育できないため、森林化の防止も必要である。

【特記事項】

同属のヌマゼリ *S. suave* Walter subsp. *nipponicum* (Maxim.) H.Hara. は、愛知県では豊橋市で 1950 年代に採集された標本があるだけで、現存を確認できない。

【関連文献】

保草Ⅱp.16, 平草Ⅱp.283.

（執筆者 芹沢俊介）